

321

110

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁸ 11 12 13 14 15

始



2-433

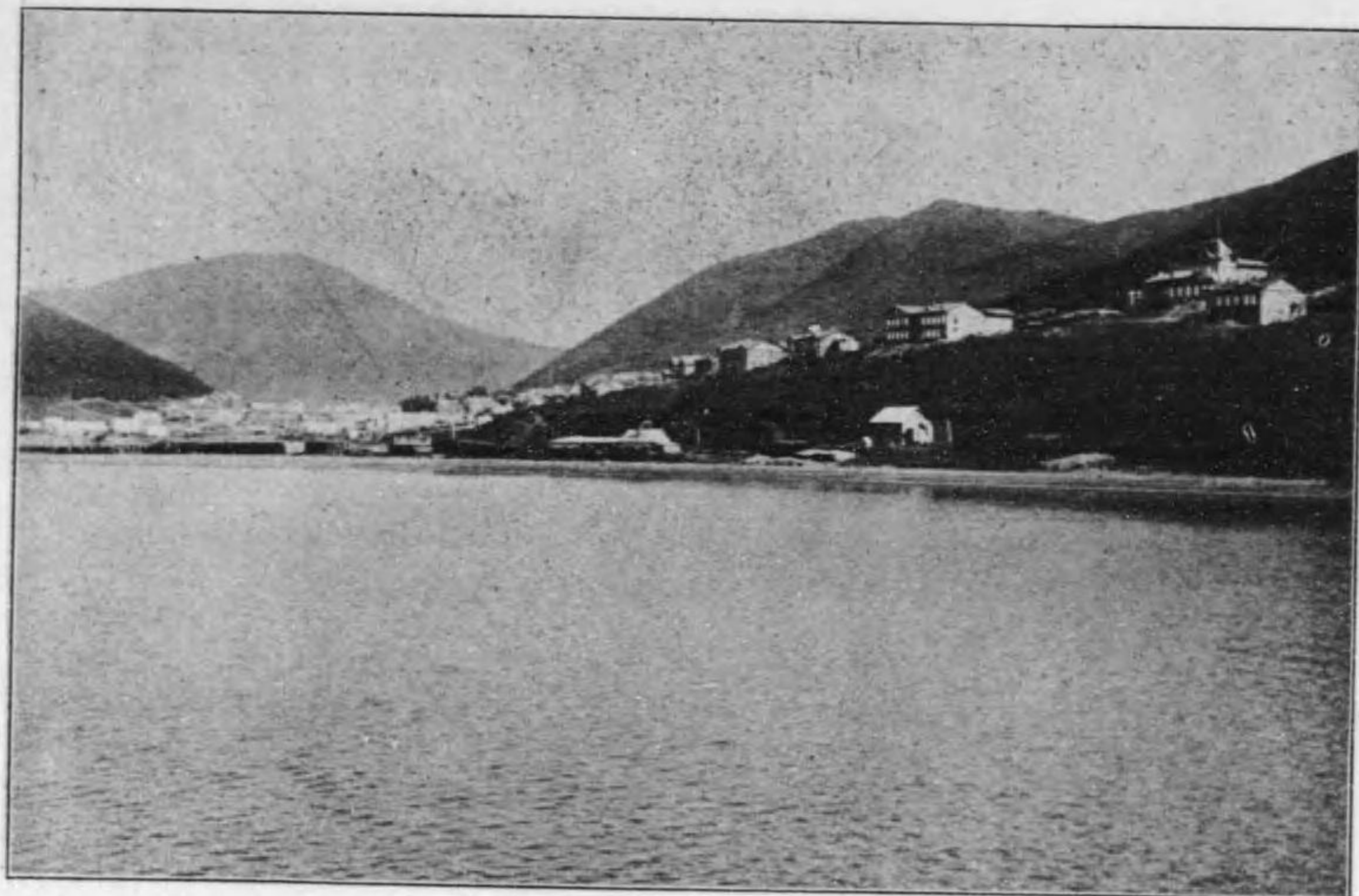
321
110

大正元年九月印刷

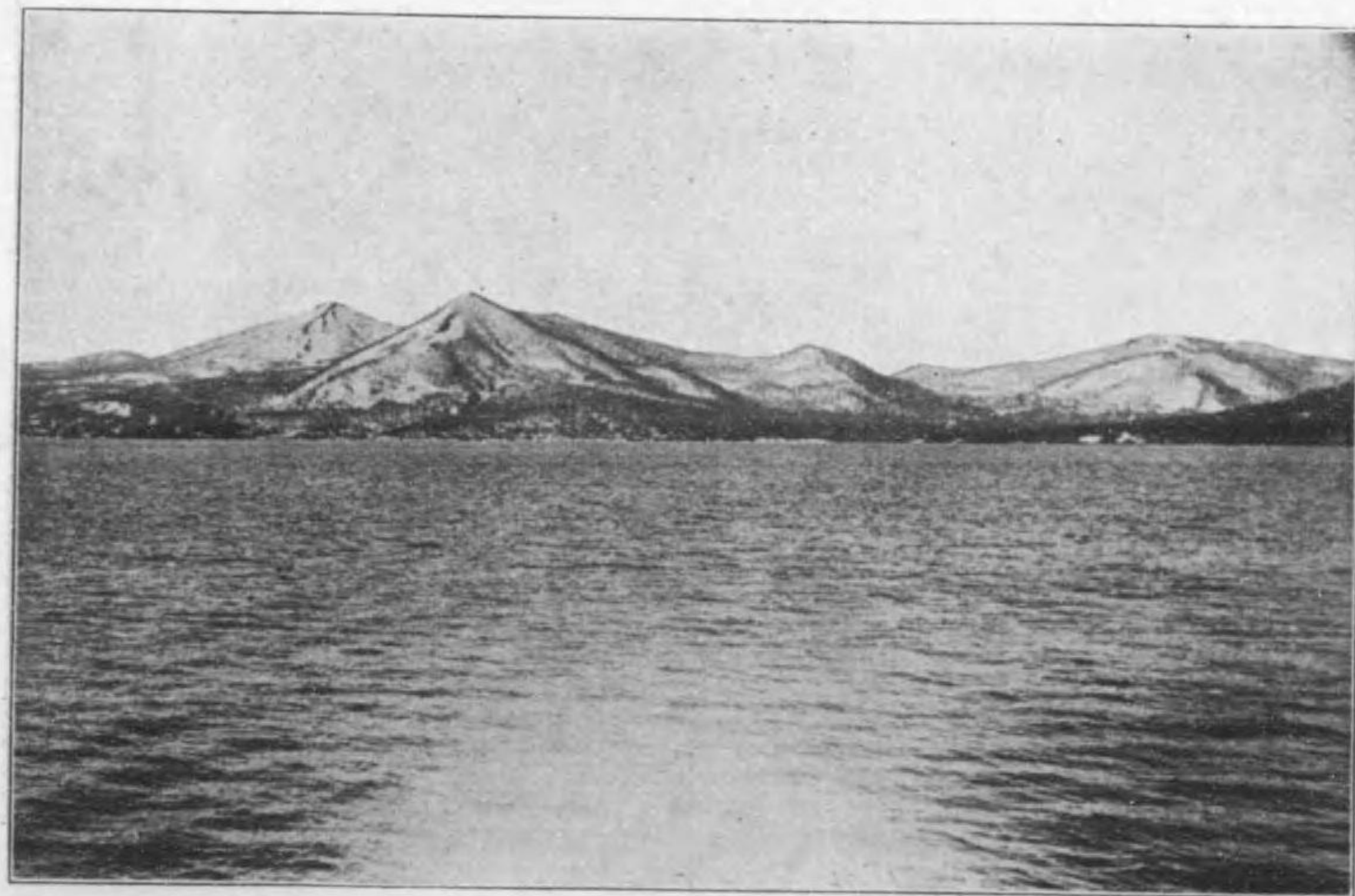
在ニコラエウスク帝國領事鈴木陽之助報告

堪察加北部視察復命書

外務省通商局



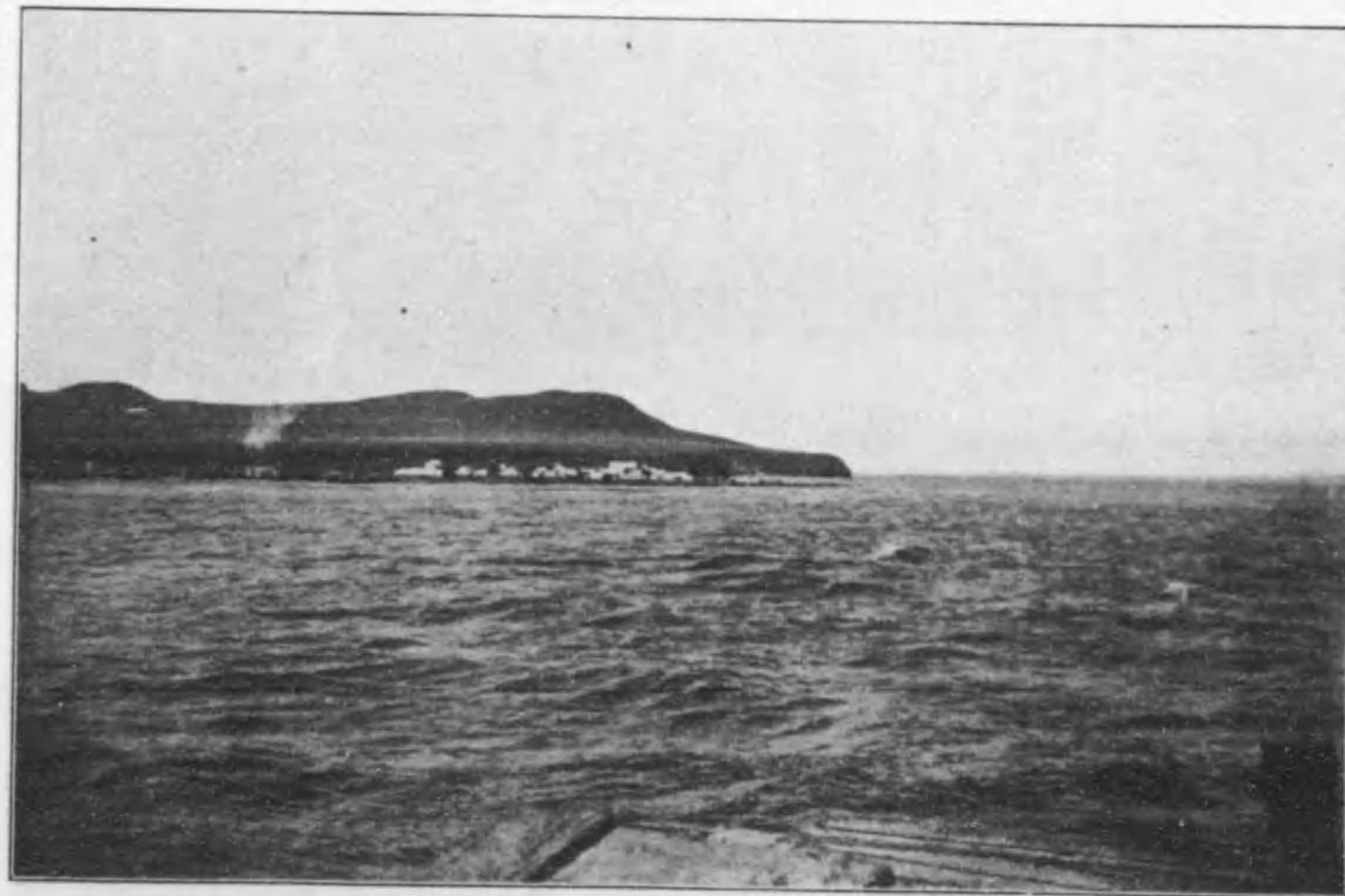
内ノ「クスフロウバロトベ」
「クスフロウバロトベ」ノ近最
邸官ノ事知ハ物建ノ側右



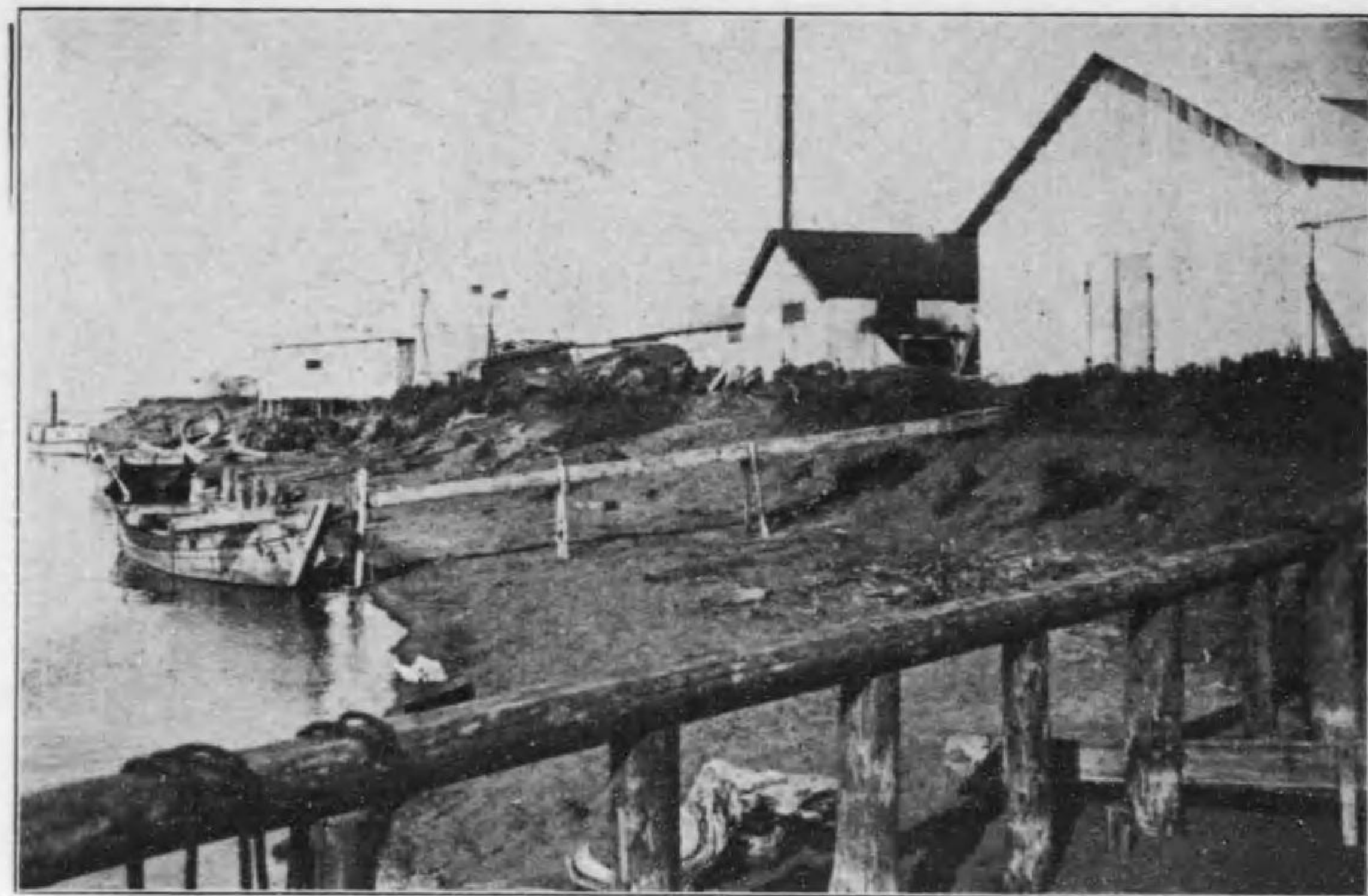
岸對「クスフロウバロトベ」海「ヤリタ」



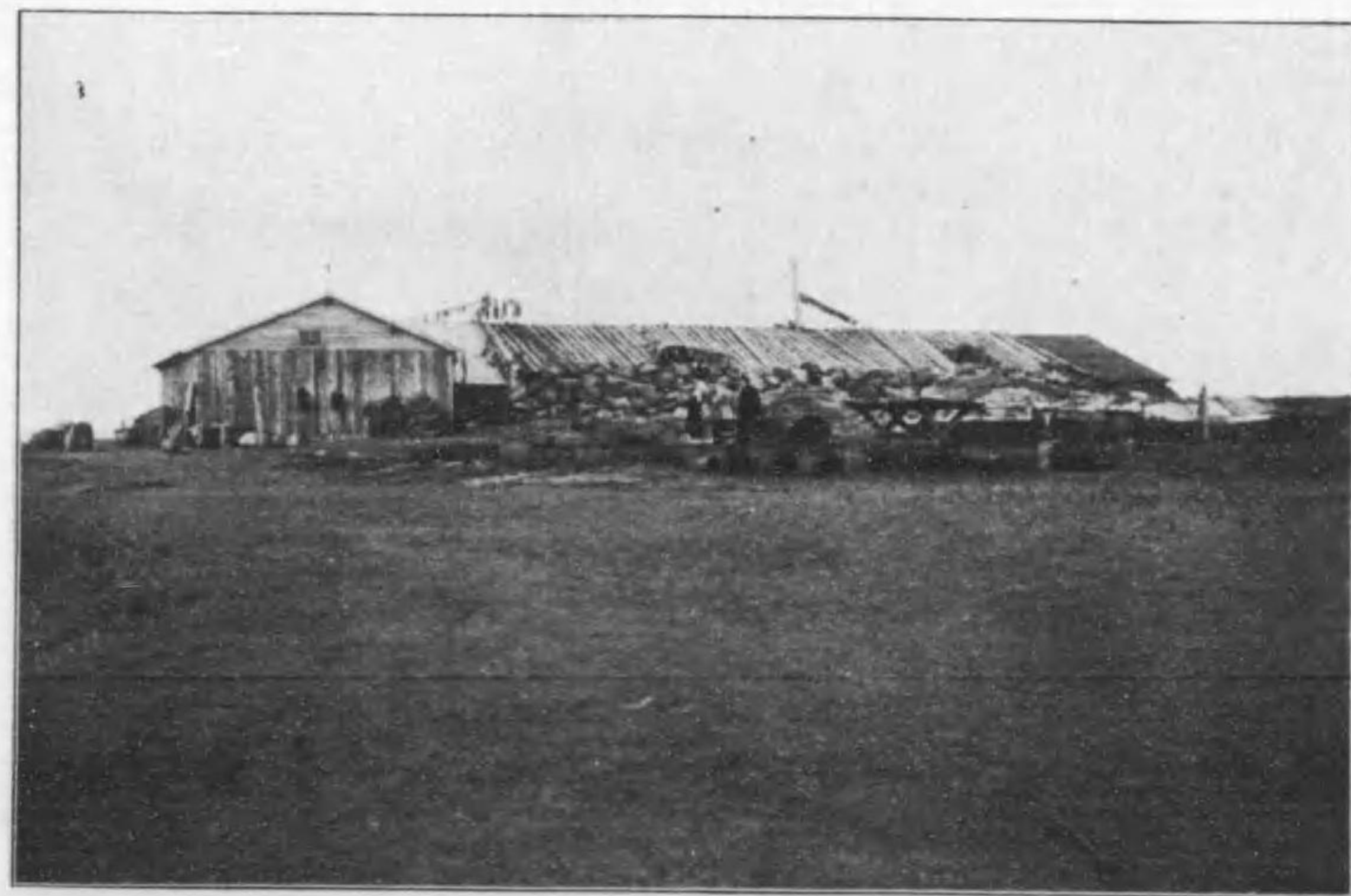
内ノ「カトヤチムカ、チスウ」
 景光ノ陸上ニ岸海キシ激ノ浪打岸



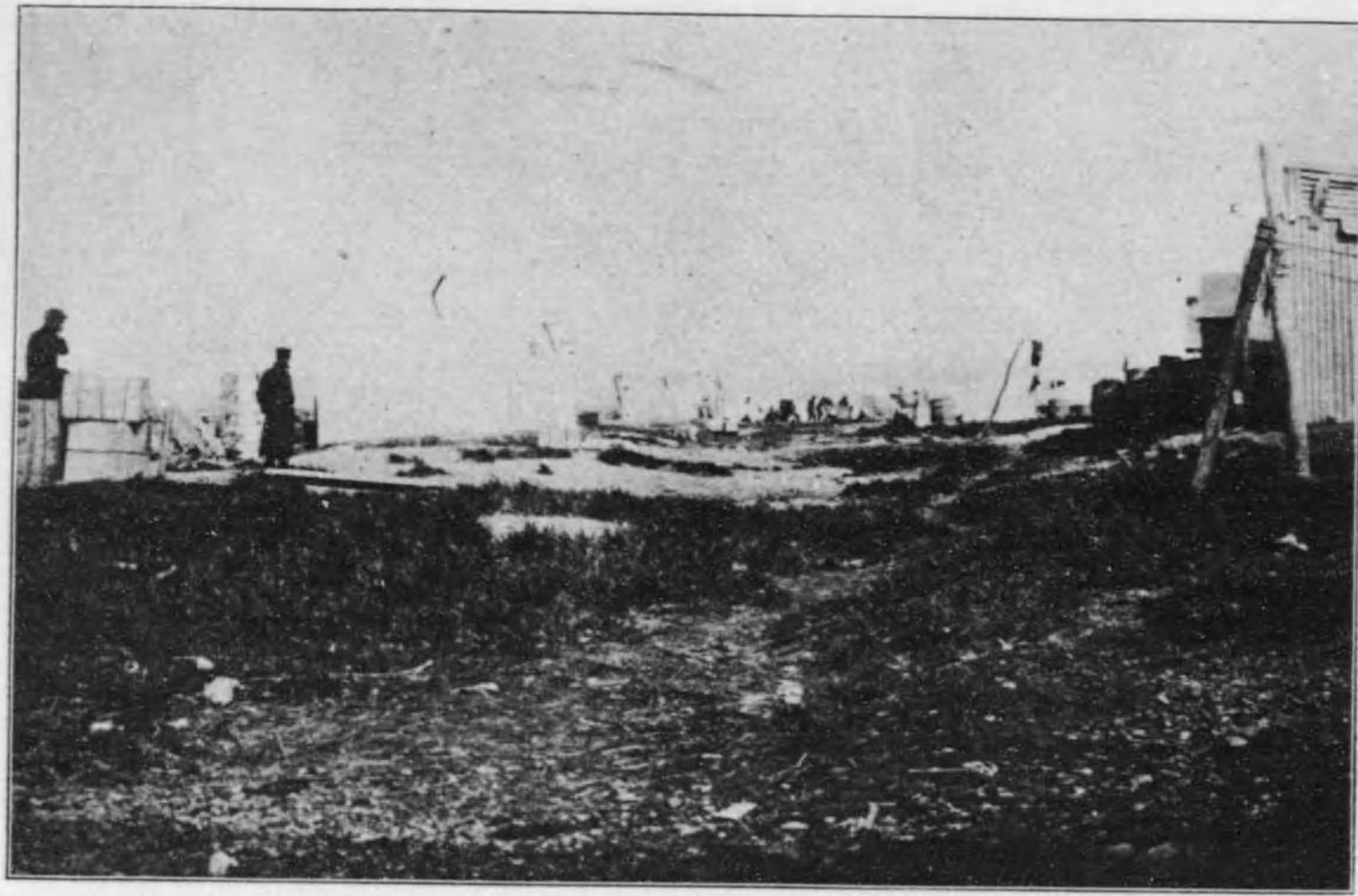
内ノ「クスンイリマ、オウノ」口河「リ井ドナア」
 景遠ノ所哨「一クスンイリマ、オウノ」



内ノ「カトヤチムカ、チスウ」
 所造製詰罐「チリビ」者業漁國露



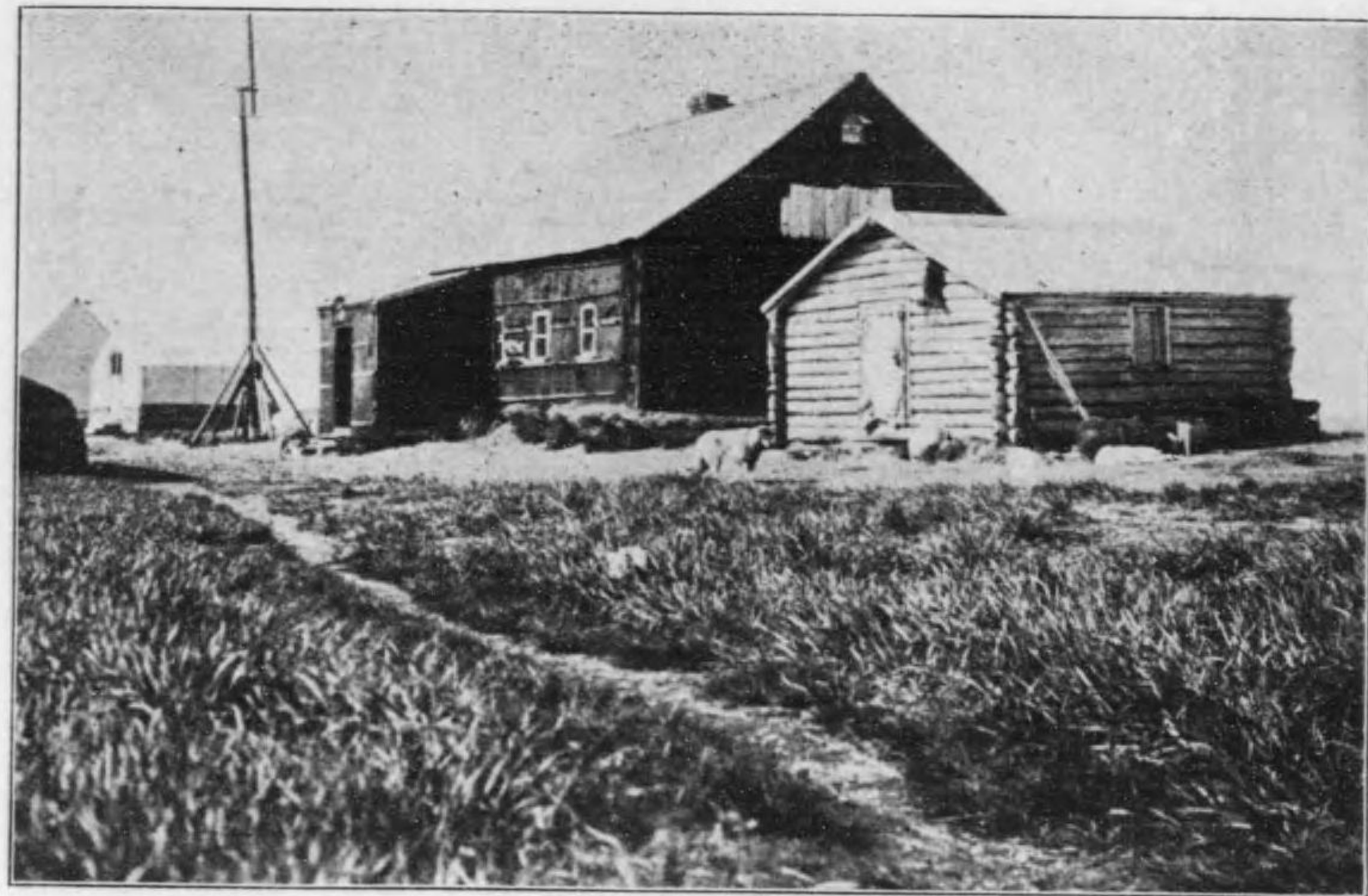
内ノ「カトヤチムカ、チスウ」
 舍 漁



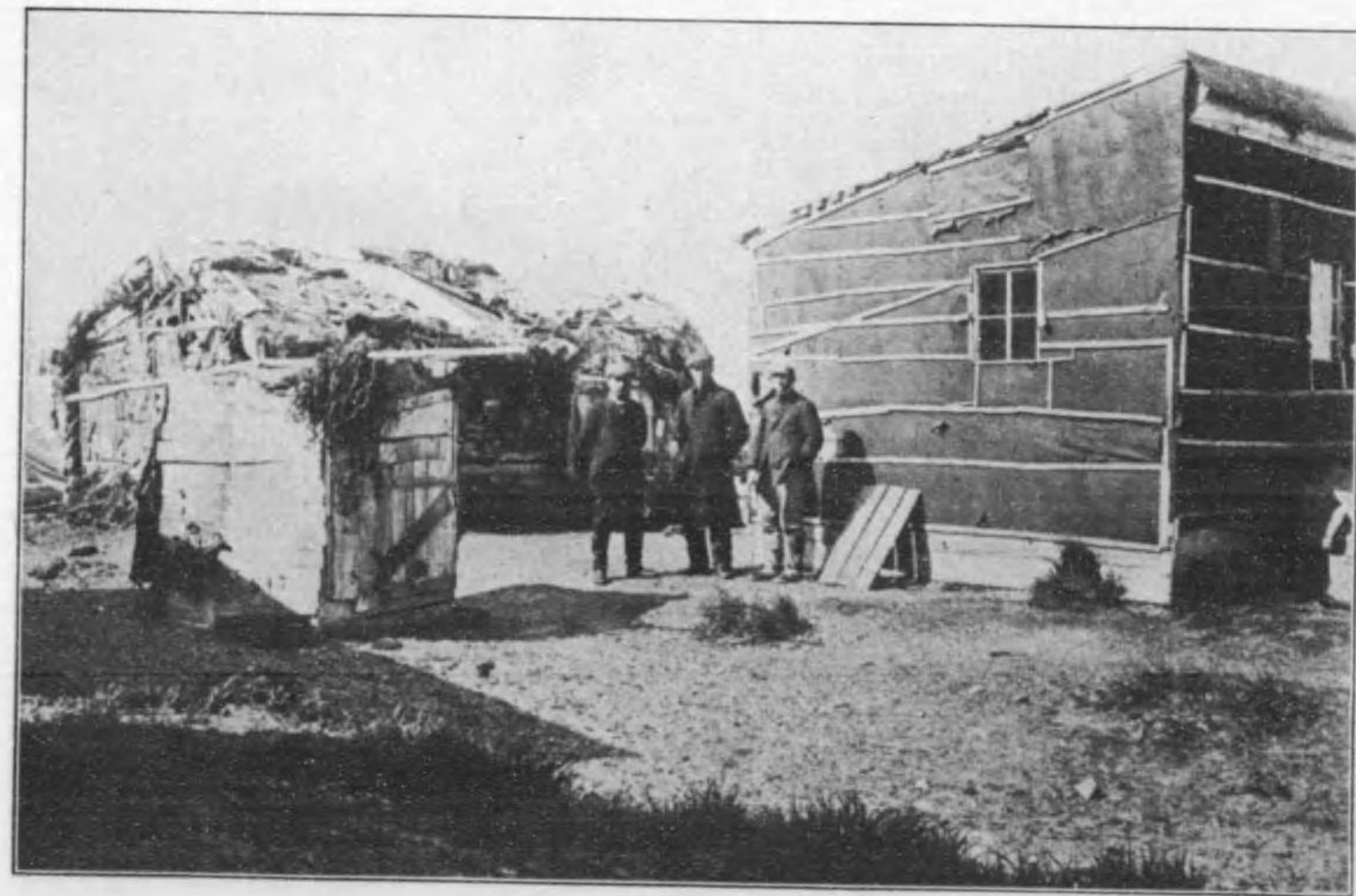
内ノ「クスンイリマ、オウノ」口河「リ井ドナア」
景光ノ活生幕天



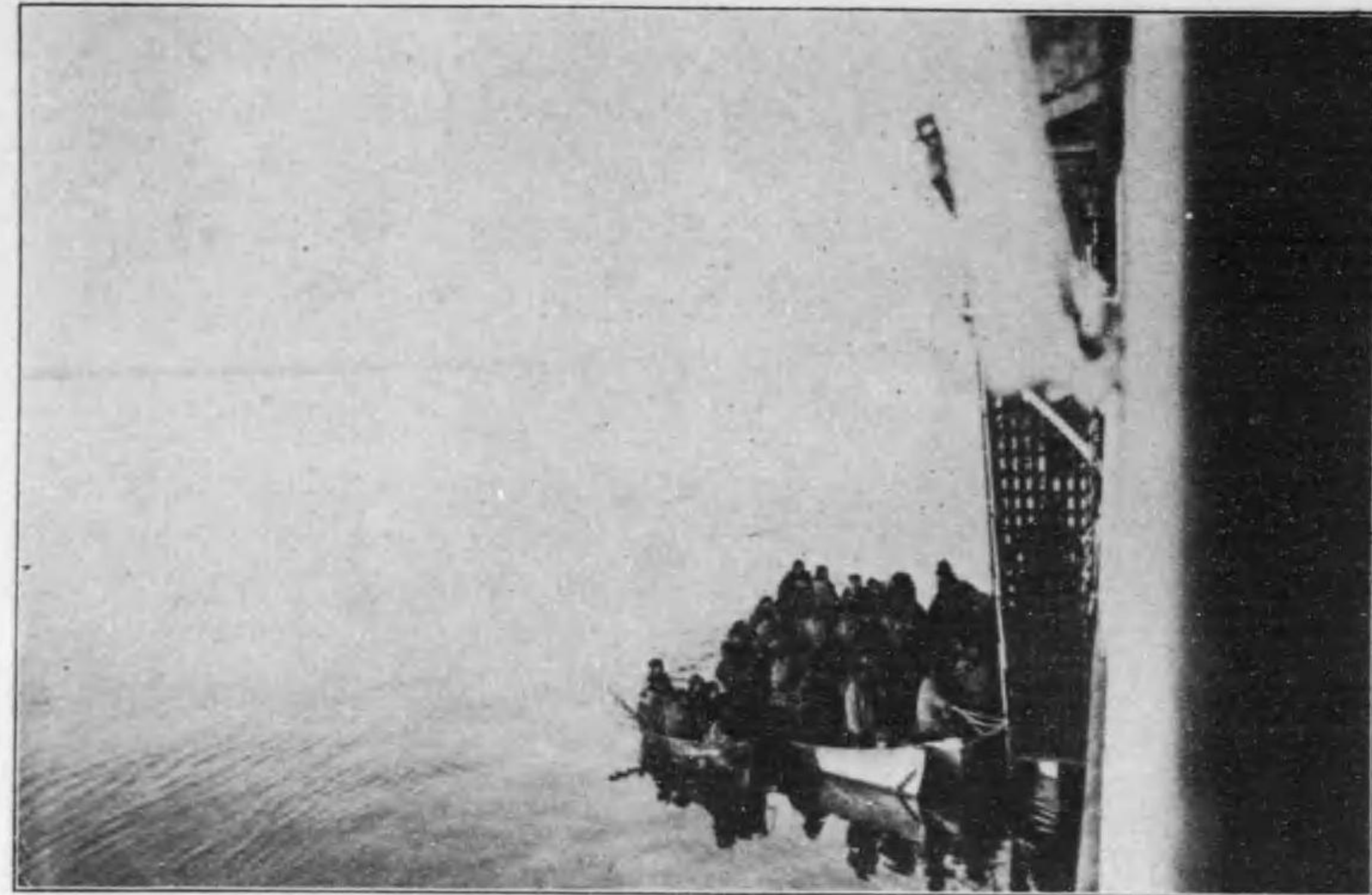
内ノ「クスンイリマ、オウノ」口河「リ井ドナア」
オノ獸「トンモーマ」ト商皮毛我



内ノ「クスンイリマ、オウノ」口河「リ井ドナア」
舍官在駐季夏ノ長郡



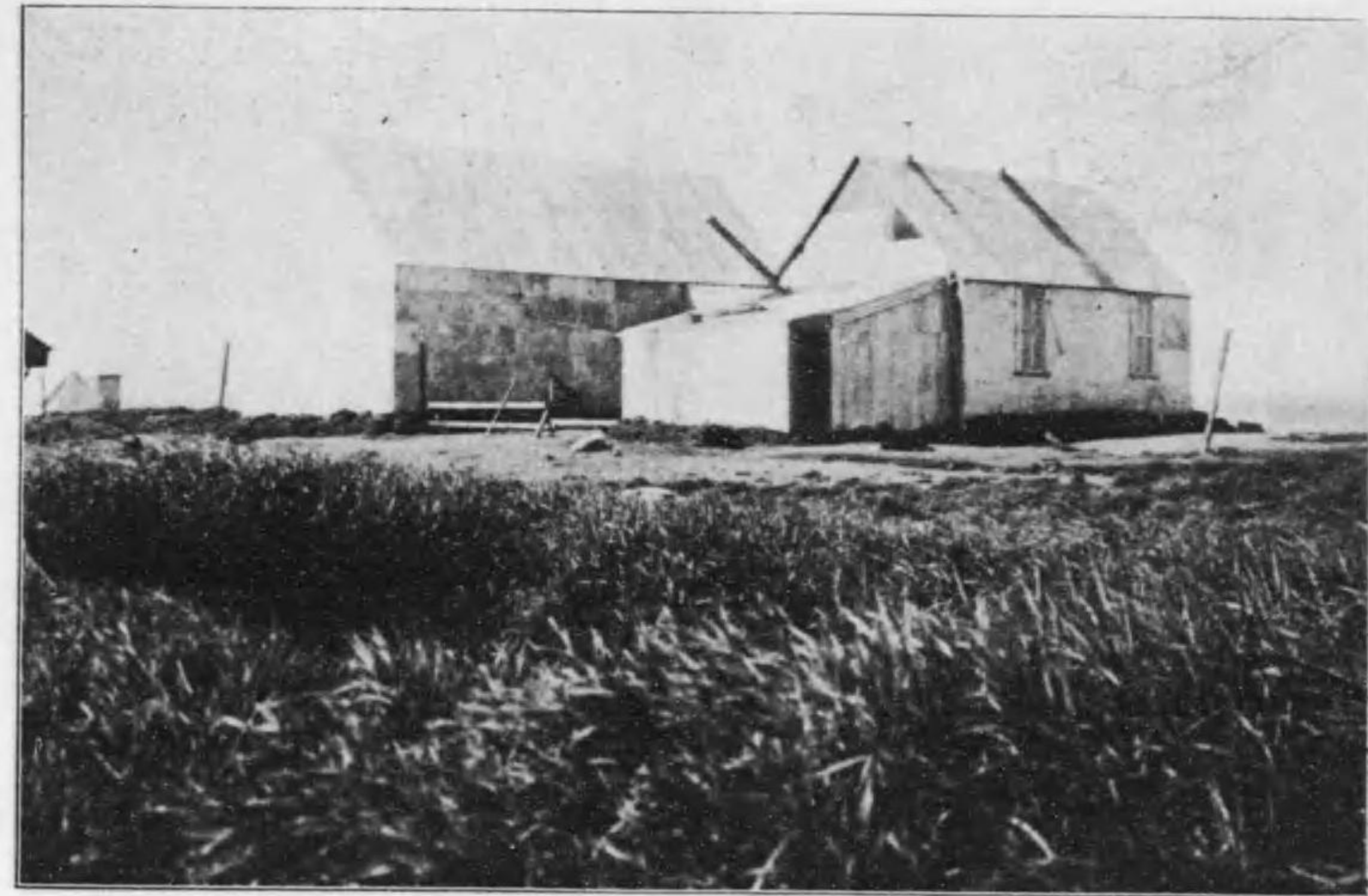
内ノ「クスンイリマ、オウノ」口河「リ井ドナア」
態状ノ屋家ノ地キシ乏ニ材木



内ノ「シキイヌウ」
 景光シセ來群ニ船期定ノ「スーモキスエ」及「チクユチ」



内ノ「シキイヌウ」
 (ノモルセ影撮テニ線光ノ陽太後時十後午)景光フ行ヲ易買換交ト人土カ商買皮毛



内ノ「クスニイリマ、オウノ」口河「リキドナア」
 店商「シエツンエウス」國米



内ノ「シキイヌウ」
 舟「カルダイバ」ノ人土ルス復往ニ期定ト嘴沙「シキイヌウ」



内ノ岬「フネジデ」
屋小ノ「チクユチ」



内ノ岬「フネジデ」
(ス戴=肩スハ負=脊ヲ供小)人土「チクユチ」



内ノ岬「フネジデ」
陸上ノ上氷



内ノ岬「フネジデ」
落部「チクユチ」岬「フネジデ」

堪察加北部視察復命書目次

外務省通商局

大正
1. 9. 23
寄贈

緒言 地勢



堪察加州ノ獨立ト行政改革ニ關スル法律
 堪察加州廳假官制、同廳臨時定員規程、同州郡警察署臨時增員規程
 「チユクトスキ」郡警察署臨時定員規程、郡境界並同郡定員增加ト
 郡長駐在地變更

- 一、「ペトロパウロフスキ」郡ノ警察管轄區域 二
- 一、地方裁判所並ニ治安裁判所 一四
- 一、州知事ノ駐在地「ペトロパウロフスキ」市ト同市ノ歳入歳出 一五
- 一、「ペトロパウロフスキ」港ノ航運ト寄航定期及臨時船 一八
- 一、「ペトロパウロフスキ」無線電信並電信線架設工事ノ進捗 三〇
- 一、堪察加州ノ新設無線電信機裝置ト在巴府郵便電信區長官ノ視察 三一
- 一、「ペトロパウロフスキ」市ニ郵便局並地方金庫設置 三三
- 一、「ペトロパウロフスキ」市ニ於ケル建築工事ト労働夫 三三
- 一、「ペトロパウロフスキ」市ノ商況並ニ商鋪 三七



内ノ岬「フチジデ」
會商「シリウユチ」ルタケ受引ヲ物建ノ會利伯西北東

一、	堪察加商工業會社	四二
一、	農事試驗所	四三
一、	堪察加移民	四六
一、	「タリヤ」灣	四九
一、	「モルジヨ」ワヤ灣ト鱈漁業	五〇
一、	「ウスチ、カムチャツカ」	五〇
一、	「ノウオ、マリインスキ」哨所ト夏季郡長駐在地	五三
一、	米國商「スウェンツェン」商舖	五四
一、	「アナド」井リ「郡村落並ニ人口	五五
一、	「アナド」井リ「郡役所々在地ノ交通狀態	六七
一、	「アナド」井リ「河ト漁業	六九
一、	「アナド」井リ「郡ノ禽獸	七六
一、	「聖」クレスト灣	七九
一、	「プロウイデー」ニエ灣	八〇
一、	「ウスイ」井リ	八一
一、	「イトイ」グラシ	八二

一、	「聖」ラウレンチイヤ灣	八三
一、	「デシ」ネフ「岬」ト郡長駐在地並「チユウリン」商會	八四
一、	極北ノ氣候ト燃料並ニ白夜	九〇
一、	白令海峽ト米國捕鯨船	九三
一、	「チユコトスキ」半島ノ人種ト「チユクチ」	九六
一、	鑛物	一〇六
一、	東北西伯利會社	一一〇
一、	「アナド」井リ、「チユコトスキ」兩郡ノ海陸產物	一一四
一、	貿易ト我毛皮商	一一八
一、	火酒密輸入	一二九
一、	結論	一三一

附 錄

一、	「ペトロ」バウロフスキ「郡」ニ於ケル人口家畜其他一覽表	一九葉
一、	寫 眞	十九葉

堪察加北部視察復命書

緒言

本官堪察加視察ノ命ヲ拜シ同地方ニ出張セシコト茲ニ三回第一回ハ明治四十年ニシテ八月十八日東京出發同月二十九日北海道函館港ヨリ露國極東汽船會社定期船「アムール」號ニ搭乘シ北海道ノ東岸千島列島沖ヲ往航シ堪察加半島「ベトロバウロフスク」港ニ着シ更ニ「カマンドル」群島ニ航シ再ビ「ベトロバウロフスク」ニ寄航夫ヨリ南端「ロバートカ」岬ト我占守島ノ海峽ヲ横斷シ「オホツク」海ニ入り半島西海岸「ウオロフスコエ」、「チギリ」、「ギジガ」、「ナヤハン」、「オホツク」ニ寄航ノ上浦潮ニ歸航シ第二回ハ明治四十一年本官「ニコラエウスク」ニ在勤任命ヲ受ケタル後領事館開館ニ先チ「ベトロバウロフスク」ヨリ金剛艦ニ便乗シ漁場ヲ視察スル爲メ出張ヲ命セラレ七月一日東京出發同月十八日函館ヨリ露國義勇艦隊雇船「カールモル」號ニ搭乘シ「ベトロバウロフスク」ニ航ス然ルニ「カールモル」號浦潮ヲ抜錨スル一日前火災ヲ起シ函館ノ入港遅延シタル爲メ豫テ本省ヨリ海軍省ニ打合セタル同艦「ベトロバウロフスク」港拔錨豫定日ニ後レ遂ニ便乗ノ機會ヲ失シタレハ當時生セシ三重丸ノ密獵嫌疑事件其他ヲ「ベトロバウロフスク」ニ於テ取調若クハ處分シ同月二十八日同港ヨリ義勇艦隊雇船西天號ニ便乗浦潮ニ向ヒ千島ノ第三海峽ヲ横ギリ「オホツク」海ニ入り夫レヨリ宗谷海峽ヲ抜ケ日本海ニ入り八月三日浦潮ニ着シ八日同地ヲ發シ韃靼海峽ヲ航シ十五日「ニコラエウスク」ニ着シ即日帝國領事館ヲ開キ海外ニ日章旗ヲ翻ス一公館ヲ加ヘリ

前記兩回ノ本官出張ハ堪察加半島「ベトロバウロフスク」ヲ限リ其以南ノ巡航ニ過キス但シ第一回ニ「カマンドル」群島ニ寄航シタルモ「ベトロバウロフスク」港ヨリ三百哩北行シタル迄ニシテ半島ノ東海岸樞要地ハ勿論東北端ノ「チユコトスキ」半島ハ本官未タ巡視セシコトナシ殊ニ「チユコトスキ」半島ノ如キハ我二三ノ毛皮商カ毛皮買ノ目的ヲ以テ航行セシ止マリ我官憲ノ是迄足跡ヲ印セサル處ナリ即チ此地方ヲ視察セントスルカ本官此行ノ目的ナリ右ハ我管轄内ナル

ノミナラス又日露漁業協約ノ關係上ヨリ觀ルモ同協約ニ留保セラレタル「インレット」三十ヶ所ノ内其半數ハ「ペトロバ
ウロフスク」以北ニ在リ右「インレット」ハ孰レモ實地ニ就キ規定シタルニアラサレハ所謂俗諺ニ喧嘩過キテノ棒握リヲ
爲スニアラサレトモ漁業協約ニ於テ除外セラレタル河川及入江ハ之ヲ觀察シ置クノ事宜ニ適スルノミナラス又我帝國カ
戰勝ノ報償トシテ同方面ニ漁業ノ權利ヲ獲得シタルハ果シテ利用スヘキ海上無限ノ富アルヤ是亦確メ置クノ急務ナルヲ
思ヒ本官ハ右ノ卑見ヲ大臣閣下ニ開陳稟請シ以テ第三回觀察ノ命ヲ拜スルニ至レリ五月二十六日「ニコラエウスク」ヲ發
シ「ハバロフスク」經由浦潮ニ出テ六月六日義勇艦隊履船威國汽船成都府號第一回「アナド井リ」。「チユコトスキー」定
期便ニ搭乘シ同港ヲ拔錨シ八日函館着(浦潮ヨリ四〇五哩)翌日出帆針路ヲ北海道ノ東ニ探リ千島沖ヲ往航シ十四日堪察加半島「ペト
ロバウロフスク」港ニ着(函館ヨリ二〇八〇哩)十九日「ペトロバウロフスク」港拔錨二十一日「ウスチ、カムチャトカ」着(ペトロバウロフス
クヨリ二八五哩)二十三日同地出帆二十七日「プロウイデーニエ」灣着(ウスチ、カムチャトカヨリ五九六哩)「エンマ」入江結氷ノ爲メ同日出帆二十八日「デジネ
フ」岬着(プロウイデーニエヨリ二二五哩)二十九日同地出帆歸途ニ就キ聖「ラウレンチイ」灣ニ向フ(「デウネフ」ヨリ)然ルニ同灣ハ未ダ結氷セ
ル爲メ寄航スルコト能ハス引返シ同日「セニヤウイン」海峽ノ「イツ井格蘭」ニ投錨ス(聖「ラウレンチイ」灣ヨリ九六哩)約四時間碇泊ノ
後拔錨シ「ウヌ井イン」ニ向フ同日午後八時半同地ニ着ス(「イツ井格蘭」ヨリ三五哩)三十日同地出帆再ヒ「プロウイデーニエ」灣ニ向
ヒ同日着ス(「ウヌ井イン」ヨリ四三哩)同灣ハ「チユコトスキー」半島ノ郡役所々在地ニシテ其役所ハ同灣ノ一部ニ在ル「エンマ」入江ノ
沿岸ニ在リ然ルニ同入江ハ結氷既ニ破壞サレタルモ風向ノ關係上氷塊ヲ排出セス一面ニ漂着セリ同地ニ宛テタル貨物并
ニ乗客ハ止ムヲ得ス同灣ノ一部タル「ブローウエル」入江ノ沙岸ニ揚陸シ七月一日同灣ヲ拔錨シ聖「クレスト」灣ニ向
フ(「プロウイデーニエ」ヨリ二〇四哩)然ルニ約六十哩ヲ航シ二日午前一時頃「アツチエン」岬ニ相對スルヤ其前面ハ「アナド井リ」海灣ニ入ル
カ故ニ一面ノ流水ニ遮ラレ「クレスト」灣ニ寄航スル能ハス針路ヲ轉シ「アナド井リ」河ニ向ヒタリ然ルニ是モ流水アリ殊
ニ連日ノ濃霧ハ流水ノ盡クル處ヲ示サス氷塊ノ間ヲ縫ヒ能フ限リ前進セシ處遂ニ進退全然不可能トナレリ斯クテ四日ヲ越
エ七日ニ至リ霧少シク晴ラレハ流水ノ間ヲ縫ヒ進航ヲ開始シタレト「アナド井リ」ノ前面ハ一體ノ氷ニシテ間モナク連

轉ヲ中止セリ九日「アナド井リ」ニ直進ハ難キモ迂回セハ或ハ進行シ得ヘキコトモアラントテ霧ノ晴ルヲ俟テリ十一日霧
少シク晴レ僅ニ進行シ十二日霧ノ晴ル、ヤ「アナド井リ」河口ヲ距ル南方約百八十哩「ナワリン」岬ニ迂航シ夫ヨリ海岸ニ
沿ヒ「アナド井リ」河ニ進入センコトヲ試ミタリ然レトモ此計畫ハ同シク流水アルカ爲メ其功ヲ奏セザリシモ風向ニ據リ
多少流水ノ少ナキ一ノ進路ヲ發見シタレハ霧ノ晴ル、ニ隨ヒ多少ツ、進航シ十三日ノ朝ニ至リ漸ク「アナド井リ」附近ノ
山岳ヲ認メ同日午後一時頃「ルスカヤ、コーシカ」ト稱スル沙嘴ヲ過キ「アナド井リ」灣ニ入りタル處「ノウオ、マリインス
ク」附近ノ淺瀬ニ坐沙シ種々ノ方法ヲ講シタレト離レス一同爰ニ膽ヲ冷セリ幸ニ二十四日強風ノ爲メ動搖シ淺瀬ヨリ下リ
「ノウオ、マリインスク」哨所ヨリ上流豫定ノ碇泊地ニ投錨ス(聖「クレスト」ヨリ一六三哩)「プロウイデーニエ」ヨリ一晝夜半ヲ要セサル
航路ニ十三日ヲ費ヤシ而カモ流水ノ間ニ碇泊シ濃霧ニ閉ラレ周圍ノ眺望ナク呼吸スルモノハ寒冷ナル空氣宛然冷藏庫中
ノ人ト爲リタルハ頗ル不快ノ感ナキ能ハサリシ二十日同地出帆二十四日再ヒ「ウスチ、カムチャトカ」ニ寄航(「アナド井リ」
ニ二十五日同地拔錨二十六日「モルジョーワヤ」灣ニ着(ウスチ、カムチャトカヨリ二〇一哩)約四時間碇泊ノ上拔錨シ「ペトロバウロフスク」ニ
着(「モルジョーワヤ」ヨリ八二哩)二十八日拔錨八月二日浦潮ニ歸着ス(「ペトロバウロフスク」ヨリ一三六〇哩)韃靼海峽沿岸ノ管内ヲ併セ觀察セント欲シ歸路ヲ海
路ニ取リ八日同地出帆「イムベラートルスカヤ」灣、「ビレオ」、亞歷山德、「デ、カストル」ヲ經テ十五日歸館ス此行日程
八十五日船内生活七十三日河海ノ航程約七千六百六十六哩我管内ノ沿岸線ハ約八千百哩アリ今回ノ巡視ヲ以テ漸ク我管内ノ
大體ヲ巡視シ得タリ左ニ事項ヲ分テ其目略聞知セシ狀況ヲ記述シ以テ堪察加半島東海岸並ニ「チユコトスキー」半島ノ
一端ヲ知ルノ資料ニ供セントス(此復命書中本年トアルハ明
治四十四年ヲ指スモノナリ)

地 勢

太平洋白令海ノ地圖ヲ繕キ上古石器時代ノ矢根石如キ形状ノ大半島ヲ見ルハ堪察加半島ナリ其半島ヲ形成スル陸地ノ東北ニ方テ又一ノ半島ヲ見ル之ヲ「チユコトスキ」ノ半島トス前者ハ西「ベンジンスカヤ」灣東「バロン」コルフ「灣」ノ起點ヨリ遠ク南ニ向テ突出シ西「オホツク」海東白令海ニ瀕シ南端「ロバートカ」岬ハ北緯約五十度五十分ニ起リ六哩ノ海峡ヲ隔テ、我古守島ニ相對ス半島ノ地勢ハ一體ニ隆起シ北緯五十一度ノ附近ヨリ巍峩タル高嶺到ル處ニ聳ヘ「コシエローワ」火山「イリンスカヤ」火山(三、八二)「アサチヤ」山「オバリナヤ」火山(六、八七)「ボワロートナヤ」火山(七、九二)「ウイリユータンスカヤ」火山(七、〇六)「コゼリスカヤ」火山(五、三二)「アワチンスカヤ」(八、七三)「カリヤツカヤ」(二、五)「ジユバノール」火山(八、八五)其以北ニ於テ「ガナール」村附近ヨリ山脈東西ニ分レ一ハ「オホツク」海ニ沿ヒ半島ノ中央ニ蜿蜒スル中央山脈トナリ一ハ白令海ニ瀕シテ「カムチャトカ」河口ニ走ル後者ノ山脈ハ前者ヨリ一層高嶺ニシテ「クロノツカヤ」火山(〇、八六)「タリユチエフスカヤ」火山(三、一六)「シウエリチ」火山(一〇、五)就中高キハ「クリユチエフスカヤ」火山ニシテ我富士山ヨリ高キゴト約四千尺餘孰レモ四季白雪ヲ戴キ煙々吐ク前者ノ「カムチャトスキヤ」山脈ハ我臺灣ヨリ千島ニ連ル火山脈ノ本系ヲ爲スモノナリ噴火山ノ重ナルモノハ其數三十八アリ其十四ハ活火山ニシテ二十四ハ死火山ナリ温泉ノ著名ナルモノ十四ヶ所アリ他處々ニ高峯アリト雖モ後者山脈ニ比スヘキモノ尠ナシ「ソ」ボチナヤ「河」ノ分水嶺ニ在ル「ハオンエン」山(ヤム)海拔一萬尺ト「チギリ」河ノ上流ニ海拔五千四百七十尺ノ山アリ夫ヨリ北ニ蜿蜒トシテ走セ「ベンジン」河ノ上流ニ於テ「ナルギムスキ」山脈及「ボルボリ」山脈ト合シ一ハ「アナドネリ」河一ハ「フツデーヤ」岬(ナツリシ)ニ海拔二千二百二十五尺ヲ以テ終未タ測量ノ到ラサル今日尙ホ中央山脈ニ高嶺ナキヲ保シ難シト雖モ要スルニ山脈ハ北行スルニ從ヒ次第ニ低クナル又單獨ノ山岳トシテハ東海岸「ウキンスカヤ」灣ヨリ起リ北ニ海岸ニ沿ヒ點在スレト殊ニ北緯約六十度「オリユートルスキ」岬ニ三千三百尺ノ山アル外一體ニ低シ東海岸ノ山岳ハ概シテ斷崖削ルカ如ク海ニ迫リ港灣岬角ヲ夥多形成シ西海岸ノ山脈ハ海岸ヲ距ル漸ク遠ク緩傾斜ノ濕地平原ヲ以テ海ニ臨ム又山脈若クハ山岳ハ北行スルニ從

ヒ低クナルト同時ニ到ル處荒涼落莫タル一帯ノ「ツンドラ」(低濕厚層ノ泥炭地ニシテ地上ニハ)ヲ以テ蔽ハレ陸上ヲ歩行スルニハ長靴ヲ用ヒサレハ一步モ進ム能ハスシテ奇異ノ感ヲ抱カシムルハ河流ノ稀ナルコト是ナリ北緯六十度ノ「オリユートルスキ」岬以北ニ於テ河ト稱スヘキハ唯一「アナド井リ」河アルノミ「オリユートル」岬ト「ナワリン」岬間ニ「オツカ」、「オズーハ」、「ハイドルト」云フカ如キ川アレト「小川ニ過キス然ルニ「アナド井リ」河以北白令海峽ニ至ルモ斯ル川流スラナシ」
「チュコトスキ」半島ハ北氷洋ニ面スル「チャウンスカヤ」灣ト「アナド井リ」灣ヲ結合シタル線ヨリ北東陸地ヲ稱スルモノニシテ同半島ニハ「アナド井リ」河ヨリ以北「クレスト」灣ニ至ル沿岸ニ沿ヒ低キ山岳連亘シ同灣ヨリ「セニヤウイン」海峽ニ至ル稍高キ山岳散在ス更ニ轉シテ聖「ラウレンチヤ」灣ノ附近ト反對セル北氷洋ニ臨ム方面ニ山岳アルヲ見ル然レトモ海拔二千五百尺以上ニ出ルモノナシ南方ノ山嶺トハ容姿全ク異ナリ總テ秃山ニシテ或ハ岩石ヨリ成レルアリ樹木ハ海ヨリ展望ノ限界孰レモ絶無ニシテ「アナド井リ」河ノ上流ニハ僅ニ落葉松、唐檜、白楊、赤楊ノ類アリト云フ六月二十八日白令海峽ニ臨ム東北端「デジネフ」岬ニ本官上陸シ其附近ヲ視察セルカ一見雜草ノ如キモノハ一種ノ蘚苔ニシテ之ヲ以テ蔽ハル、斜坡スラ濕潤上靴ヲ没セリ況ンヤ平地ハ一層甚シトス附近ニ未タ積雪アルカ爲ニ濕潤ナルニアラスシテ周年斯ノ如シト又同地ニ限ラス「アナド井リ」方面ヨリ以北ハ皆之同シクシテ灌木スラナシ而シテ地下一尺以下ハ永久氷結スト以テ北地ノ荒涼ヲ推スニ足ルヘシ

堪察加州ノ獨立ト行政改革ニ關スル法律

堪察加州沿海州ヨリ分離シ之ニ州政ヲ施カントノ議ハ千八百九十八、九年ノ頃露國政府部内ニ起リ當時民間頌リニ之ヲ喧傳シ其後一時此風説全ク其跡ヲ絶テタルカ戰後ノ形勢ハ堪察加州舊態ニ委シ去ルヲ許サス殊ニ日露漁業協約締結ノ結果同沿岸漁業ノ權利ヲ日本國臣民ニ許與シタルハ益獨立州ヲ置クノ必要ニ迫ラレ遂ニ千九百九年六月十七日ノ法律ヲ以テ實現スルニ至レリ而シテ其州ハ「オホトスキ」、「ギジギンスキー」、「ベトロバウロフスキー」、「アナド井リスキー」及「カマンドルスキー」ノ各郡ヨリ成リ同時ニ「アナド井リスキー」郡ノ一部タリシ「チュコトスキ」半島ヲ同郡ヨリ割キ

「チュコトスキ」郡ト稱スル獨立郡ヲ置ク即チ現時ノ堪察加州ハ從來沿海州ノ北方區ト稱セラレタル部分ニシテ其面積ハ約百十八萬九千方露里ナリ左ニ千九百九年六月十七日裁可アリタル沿海州及薩哈噠島行政改革ニ關スル法律ノ全文ヲ掲ケ以テ關係諸郡ノ變遷及區域ヲ明カナラシム

千九百九年六月十七日裁可

沿海州及薩哈噠島行政改革ニ關スル法律

- 第一條 沿海州中ノ「ベトロバウロフスキー」郡、「オホトスキ」郡、「ギジギンスキー」郡、「アナド井リスキー」郡及「カマンドルスキー」郡ヲ割キ新ニ堪察加州ヲ置ク
- 第二條 薩哈噠州ヲ置キ露領薩哈噠島ヲ以テ其管轄區域トス
- 第三條 現時「アナド井リスキー」郡ノ一部タル「チュコトスキ」半島ヲ割キ新ニ「チュコトスキ」郡ヲ置ク
- 第四條 沿海州中南島蘇里郡ヲ分割シ「ニコリスク、ウスリースキー」、「イマンスキ」及「オリギンスキー」ノ三郡ヲ置ク
- 第五條 沿黑龍江總督ニ左記ノ事項ヲ委任ス新設郡(第三條及第四條)ノ境界ヲ劃定スルコト
「チュコトスキ」郡、「イマンスキ」郡及「オリギンスキー」郡警察署ノ位置ヲ指定スルコト
前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ總督ハ適時元老院ニ報告シ元老院ハ之ヲ一般ニ告示ス
「ニコリスク、ウスリースキー」郡警察署ノ位置ハ「ニコリスク、ウスリースキー」市ト定ム
- 第六條 本法附屬堪察加州廳及薩哈噠州廳假官制、堪察加州廳臨時定員規程、堪察加州郡警察署臨時增員規程、堪察加州「チュコトスキ」郡警察署臨時定員規程、薩哈噠州廳臨時定員規程、沿海州「イマンスキ」、「ニコリスク、ウスリースキー」及「オリギンスキー」各郡警察署臨時定員規程、並沿海州「イマンスキ」及「オリギンスキー」各郡警察署臨時定員規程ノ施行期限ハ千九百九年五月一日ヨリ千九百十五年一月一日マテト之ヲ定ム
- 第七條 沿海州郡及市警察署事務所費ニ關シ勅裁ヲ經タル千八百八十八年六月九日附(被法令集第五千三百十八號)千八百九十七年十一月

月二十四日附(續法令集第一萬四千六百九十)同年十二月二十九日附(續法令集第一萬四千六百九十五)千九百一十一年五月十五日附(續法令集第二千九百三十三)千九百一十二年二月十日附(續法令集第二千九百三十四)國議院令ニ依リ支出スル經費ニ對シ二千七百留ヲ増額ス

第八條 左記官署ノ定員規程ニ依ル官職ヲ廢ス

- 一、薩哈噠島廳
但該定員規程ニ依リ置キタル僧官及寺院ノ聖務及教役者、鑛山技師、村落經濟監督官及測量技師ハ之ヲ廢セス
- 二、南島蘇里郡警察署

但廢止セラルヘキ官職ニ在ル者ニシテ新ニ任命ヲ受ケサルトキハ一般法規ニ依リ之ヲ定員外ニ置ク

第九條 當該法規ニ左記ノ改正及増補ヲ加フ

- 一、沿海州「ニコリスク、ウスリースキ」郡、「イマンスキ」郡及「オリギンスキ」郡ハ南島蘇里郡農民長會議ノ管轄ニ屬ス
- 二、堪察加及薩哈噠ノ官吏ニハ沿海州及薩哈噠島在勤官吏特典ニ關スル規則(法令全集第三卷千九百六年)ヲ適用ス

第十條 新設「チユコトスキ」郡々役所煖房經費トシテ千九百九年ニ於ケル國庫資金ヨリ千九百九年及千九百十年度ニ對シ三千留ヲ支出シ千九百一十一年ヨリ千九百十五年一月一日ニ至ル毎每年二千留ヲ支出ス

第十一條 第五條第七條及第十條ニ掲クル事項實施ニ要スル經費ニ充テ千九百一十一年ヨリ千九百十五年一月一日マテ國庫ヨリ每年二十三萬六千六百十留第六條及第七條ニ掲クル經費ニ充テ千九百十年度ハ二十三萬四千六百十留第六條第七條及第十條ニ掲クル經費ニ充テ千九百九年度ハ十六萬七百五十七留ヲ支出ス但右十六萬七百五十七留ノ内九萬八千七百七十三留ハ薩哈噠島廳及南島蘇里郡警察署現行定員規程廢止ノ爲メ生スヘキ剩餘金ヲ以テ之ヲ補フ

第十二條 薩哈噠州官有家屋ノ點燈煖房及修繕ノ爲メ千九百九年國庫ヨリ二萬一千留ヲ支出ス千九百十年以後ノ經費ハ豫算ノ手續ニ依リ編成スルモノトス

第十三條 左記ノ經費ハ千九百九年國庫ヨリ支出ス

- 一、堪察加州廳及「チユコトスキ」郡警察署新築費 十 萬 留
 - 二、「イマンスキ」及「オリギンスキ」郡警察署建築費 四 萬 五 千 留
 - 三、前記官署ノ設備費 三 千 八 百 留
 - 四、堪察加州廳及「チユコトスキ」郡役所用汽船建造費 十五萬五千五百留
 - 五、堪察加州郡長及警察分署長ノ巡回ノ爲メ取者雇入並犬糞及曳犬購入費 三 千 六 百 留
- 計 三十萬七千九百留

本條第四項ニ掲ケタル汽船ハ露國造船所ニ於テ建造スヘシ

第十四條 薩哈噠及堪察加州廳附屬官ノ俸給ニ要スル經費ハ千九百九年ヨリ千九百十五年一月一日マテ家畜卸賣ノ歩割徵收金ヨリ每年七千三百留支出スルモノトス本年度(千九百九年)ハ同經費ニ充テ同財源ヨリ四千八百六十七留ヲ支出ス

堪察加州廳假官制、同廳臨時定員規程、同州郡警察署臨時増員規程、

「チユコトスキ」郡警察署臨時定員規程、郡境界並同郡定員増加ト郡

長駐在地變更

堪察加州ノ獨立ト同時ニ公布セラレタル州廳假官制、同廳臨時定員規程、同州從來ノ郡警察署臨時増員規程、新設「チユコトスキ」郡警察署臨時定員規程郡境界而シテ又其後變更アリタル「チユコトスキ」郡定員増加ト同郡役所ノ所在地(即チ郡長ノ駐在地)ニ關シ左ニ其全文ヲ掲ケン

堪察加州廳假官制

第一條 堪察加州ハ「ベトロバウロフスキ」郡、「オホトスキ」郡、「ギジギンスキ」郡、「アナドケルスキ」郡、「チユコトスキ」郡、同廳臨時定員規程、郡境界並同郡定員増加ト郡長駐在地變更

コトスキー郡及「カマンドルスキー」郡ヲ包括ス

第二條 堪察加州ハ沿黒龍江總督府ノ管轄ニ屬ス

西伯利州縣制ハ下條ニ掲クル改正増補ヲ除ク外之ヲ堪察加州ニ施行ス

第三條 州ノ中央行政ハ沿黒龍江總督地方行政ハ知事ニ於テ各之ヲ管理ス

第四條 知事ノ駐在地ハ「ベトロバウロフスタ」市ト定ム

第五條 州行政ハ左記ノ官吏ト官房ヨリ成リ知事ニ隸屬ス

副知事

醫務監督官(ベトロバウロフスタ)

獸醫監督官(カヤ「病院長兼任

州技師

特務官吏

定員規程ニ掲クル官房

但知事ハ必要ト認ムル場合官房ニ二名以下定員外官吏ヲ置クコトヲ得同官吏ニハ堪察加州ノ一般文官ニ適用スル文官

扶助料法ヲ準用シ又堪察加州知事官房定員外トシテ勤務中定員ニ任命セラルトキハ二ヶ年以内ハ本官勤務ニ計算ス

第六條 州ノ醫務、獸醫及建築ノ各事項ハ所屬醫務監督官獸醫監督官及州技師之ヲ管掌ス

前項ノ官吏ハ該官職ニ關シ定メタル一般法規ニヨリ其職權ヲ行フヘシ

尙醫務監督官及州技師ハ内地ニ於ケル縣廳ノ醫務課及建築課ト同一ノ權限ヲ有ス但シ同縣廳ニ於ケル全般ノ合議事項

ハ知事ニ提出シ知事之ヲ裁決ス

第七條 堪察加州ニ於ケル國有財産ハ堪察加州知事之ヲ管理ス知事ハ國有財産及官有貸貸財産ノ地方管理及帝國ニ於ケ

ル官有森林管理ニ關スル一般法規ニ基キ職權ヲ行フヘシ

知事ノ同州ニ於ケル國有財産管理ニ關スル事務施行細則ハ農務土地整理省大臣、沿黒龍江總督ト協議ノ上訓令ヲ以テ

之ヲ定ム

第八條 堪察加州ニ於ケル學校ハ知事之ヲ管理ス

知事ハ學務ニ關シ教育區視學官ノ權限ヲ有ス

第九條 堪察加州ニ於ケル郵便電信ニ關スル事項ハ堪察加州知事之ヲ管理ス知事ハ該事項ニ關シ郵便電信管區長ノ權限

ヲ有ス

第十條 農務土地整理、司法、文部及商工務各省ノ官署及官吏ハ堪察加州ニ於テ現行法規ニ依リ各其職權ヲ執行ス而シ

テ司法及商工務兩省ノ官署及官吏ハ所屬官省ニ直屬ス

第十一條 堪察加州知事ハ西伯利州縣制第三百八十二條、第四百四條、第四百五條(加)及第四百六條(加)ニ掲クル如ク黒

龍州及沿海州軍務知事ト同一ノ權限ヲ有ス

第十二條 沿黒龍江總督ハ知事ニ對シ特ニ訓令ヲ以テ同官ノ施行事項ヲ指定シ及沿岸並島嶼ニ於ケル帝國ノ利益保護ニ

關スル職務執行ノ範圍ヲ定ム

第十三條 緊急事項ニ關シ堪察加州知事ハ上級官廳ノ決裁ヲ俟タスシテ所管事項一切ヲ處理スルコトヲ得但該決裁ヲ受

クルカ爲時日ヲ遷延スルトキハ重大ナル不利益ヲ來スヘキ場合ニ限ル

前項ノ場合ニ於テ知事ハ其措置及緊急ノ事由ニ關シ直ニ沿黒龍江總督ニ報告スルヲ要ス

第十四條 堪察加州知事ニ左ノ事項ヲ委任ス

一、壹萬留以上ノ金額ニ關スル對私人契約競賣及請負ノ認可

二、必要ト認ムル場合所屬官吏ニ其直接ノ職務ニ屬セサル事項ノ委任

堪察加州臨時官制、同臨時定員規程、同州郡警察署臨時職員規程、「チユトスキー」郡警察署臨時定員規程、郡境界並同郡定員增加ト郡長駐在地變更

聖「クレスト」灣口ヨリ同灣端ニ至ル北岸及同灣端ヨリ「スタノウオイ」山脈ニ至ル垂直線夫レヨリ同山脈ニ沿ヒ「ヤ
クートスカヤ」州境界ニ至ル

二、「チユコトスキー」郡長駐在地ハ「デジネフ」岬「ウエルレン」部落ト定ム

堪察加州「ペトロバウロフスキー」郡ノ警察管轄區域

堪察加ニ州政ヲ施キタルト同時ニ「ペトロバウロフスキー」郡ノ警察管轄區域ヲ左ノ如ク定メ樞要地ニ警部ヲ駐在セシム
ルコトナレリ

堪察加州「ペトロバウロフスキー」郡ノ警察管轄區域ハ左ノ如シ

第一警察區ハ郡ノ東北部即チ堪察加中央山脈ヨリ白令海ニ跨リ「カラীগ」島ヲ含ム本區ノ南境界ハ「タイルガニツク」

「クロノツカヤ」兩川及「クロノツコエ」湖ヲ以テシ北ハ郡ノ北部境界ニ至ル

本區ノ管轄ニ屬スル村落ハ左ノ如シ

「カラギン」スコエ村	「ドランキン」スコエ村
「イロシキン」スコエ村	「ハモリン」スコエ村
「ウキン」スコエ村	「オゼル」ノエ村
「エロフ」カ村	「ハルチ」ノ村
「クリエチエフ」スコエ村	「カマ」キ村
「ニーウネ、カムナヤト」スコエ村	「ウスチ、カムナヤト」スコエ村
「クレ」スコエ村	「タシ」キ村
「カズ」井レフカ村	「トル」キ村
「シチヤ」ビノ村	「マシユ」チラ村
「クイルガ」ニツク村	

「ギジギンスキー」郡「ツムムラート」及「キチギ」兩村ハ同郡々長所在地ヲ距ル遠隔ナルニヨリ之カ管轄ハ臨時「ペトロ

バウロフスキー」郡第一警察區警部ニ委任セラレ

警部駐在地ハ航行期間ハ「ウスチ、カムナヤト」スコエ村其他ノ期間ハ「クリエチエフ」スコエ村

第二警察區ハ郡ノ西北部即チ堪察加中央山脈ヨリ「オホツク」海ノ間トス、本區ノ南境界ハ「イーチャ」河ヲ以テシ北ハ「ギ

ジギンスキー」郡トノ境界ニ至ル

本區ノ管轄ニ屬スル村落ハ左ノ如シ

「レスノ」フスコエ村	「キ」ンキ村
「パ」ツノナ村	「カ」フタナ村
「リヤム、ボ」ルカ村	「アマ」ニスコエ村
「チ」ギリ色村	「セ」ダシカ村
「ナ」バナ村	「ウ」トホーロフ村
「カ」ウラル村	「ハ」イルゾウオ村
「ペ」ロゴローウオエ村	「マ」ローシエチノエ村
「ツ」ーボチノエ村	「イ」チンスコエ村

警部駐在地ハ「チギリ」邑トス

第三警察區ハ郡ノ西南部ニシテ即チ其境界ハ中央山脈ヨリ「オホツク」海ニ跨リ西「イーチャ」河ヨリ南「ロバットカ」岬ニ

至ル

本區ノ管轄ニ屬スル村落ハ左ノ如シ

「オ」ブル、コウイノ色村	「グ」ルトゴロフスコエ村
「コ」ムバコーウオ村	「ウ」オロフスコエ村
「コ」トキンスコエ村	「キ」グチク村
「ゴ」ル井ギノ村	「ホ」リシエレツク村
「オ」セルノエ村	「ヤ」ウイノ村
「ナ」チキ村	「ア」バウチカ村

堪察加州「ペトロバウロフスキー」郡ノ警察管轄區域

「ガ ナ ー ル 井」村

警部駐在地ハ「ボリシエレック」邑トス

左記村落ハ「ベトロバウロフスキー」郡警察署ノ管轄ニ屬ス

「ミ リ コ ウ オ」村	「ウエルフネ、カムチャトスク」邑
「シ ヤ コ ー ム 井」村	「ア ー シ ナ ノ」村
「カ リ ヤ ー キ」村	「ザ ウ オ イ コ」村
「ア ロ チ ヤ」村	「セ ロ グ ラ ス カ」村
「ミ キ シ ヤ」村	「バ ラ シ ャ カ」村
「カ ラ フ ツ 井 ル カ」村	

地方裁判所並ニ治安裁判所

千九百十年司法大臣ハ浦鹽地方裁判所ノ管轄ヨリ「ベトロバウロフスキー」、「オホトスキー」、「ギジギンスキー」、「アナド
 井リスキー」、「チユコトスキー」各郡並ニ「カマンドル」群島ヲ分割シ堪察加州「ベトロバウロフスク」ニ地方裁判所ヲ置キ
 前記五郡一群島ヲ管轄セシムルノ法律案ヲ國民議會ニ提出シ其實施ヲ見ルハ殆ント時日ノ問題ト爲リ居レル者ヲ傳ヘタ
 ルカ更ニ其發表ヲ見サルノミカ一方ニ當分地方裁判所ハ置カサル旨ヲ傳ヘリ而シテ本年取リ敢ヘス堪察加州ニ治安裁判
 所ヲ置キ四名ノ治安裁判官ヲ任命スルコト、爲リ本年六月三日法令第一一四三號ヲ以テ之ヲ發布セリ尋テ司法大臣ハ該
 法ノ施行期限ヲ千九百十一年露曆十月一日ト定メリ普通治安裁判官ハ金額又ハ價格二千留マテノ事項ヲ取扱フモノナレ
 トモ堪察加州ノ同官ハ權限ヲ擴メ五千留迄ノ民事訴訟ト動産ニ關スル事項并ニ輕罪ヲ管掌スヘシト云フ從來堪察加ノ各
 郡長ハ警察事務ノ外ニ治安裁判官、豫審判事及公證人ノ事務ヲ兼任シタルカ本官「ベトロバウロフスク」ニ在リタル郡
 長ハ本官ニ對シ從來原、被告共懸意ナル者ノ訴訟審理ハ場合ニ據リ甚タ不愉快ナリシカ本年ヨリ之ヲ解カルトトテ喜
 居レリ

千九百十二年露曆二月二十一日及三月三日發刊沿黑龍江總督府官報ノ記事ニ據レハ地方裁判所設置ノ法案ハ本期國民議
 會ニ提出ノ筈ナレハ該案通過ノ上ハ直ニ之ヲ實施スル都合ニシテ裁判所及附屬官舎十棟ノ建物ヲ同州々廳ニ於テ之ヲ建
 築センカ爲メ豫メ木材ヲ沿海州ニ於テ切込ミ浦潮ヨリ目的地ニ運送スル豫定ナリト本件ハ愈本期國民議會ニ提出セラ
 ル迄ニ進ミタルノミナラス其通過前廳舎等ノ建築準備ニ着手スルトセハ急速ニ數年來ノ計畫ヲ遂行セントスルニ在ルモ
 ノナルヘシ(復命書附前此報ニ接シタルハ茲ニ附記ス)

州知事ノ駐在地「ベトロバウロフスク」市ト同市ノ歳入歳出

「ベトロバウロフスク」市ハ今ヲ距ル約半世紀前一度州知事ヲ迎ヘタルコトアレハ今同知事ノ駐在地ト爲リタルニ
 アラス歴史ヲ尋ヌレハ千八百三年「オホツク」ナル地方ヲ割キテ「オホツク」州ト堪察加州ヲ置キ「オホツク」州ノ州市ヲ「オホ
 ツク」トシ堪察加州ノ州市ヲ「ウエルフネ、カムチャトカ」ト定メタリ其後千八百十二年堪察加州ノ長官ハ太平洋軍港司令
 官ヲ兼轄スルコト、ナリ「ベトロバウロフスク」ヲ州市ト爲セリ千八百四十九年東部西伯利總督「ムラウイヨフ」堪察加ヲ
 巡視シ「オホツク」ハ船舶ノ碇泊不安全ナルヲ以テ軍港ニ適セストテ「ベトロバウロフスク」ト「アヤン」ヲ軍港ト定メ「オ
 ホツク」軍港ヲ「ベトロバウロフスク」ニ移シ同年十二月二日勅令ニ據リ堪察加半島ト「ギジガ」郡トヲ以テ堪察加州ナル
 獨立州ヲ置キ千八百五十年八月五日州知事トシテ就任シタルハ著名ナル海軍大佐「ザウオイコ」(後ニ海軍提督ト爲リタリ)ニ
 シテ治績頗ル舉リ殊ニ「クリミヤ」戰爭ノ際英佛同盟軍ノ「ベトロバウロフスク」軍港ヲ攻撃スルヤ「ザウオイコ」提督ハ防
 守ニ最モ手腕ヲ發揮シ其名聲兒童走卒ト雖トモ知ラサルモノナキニ至レリ
 曩キノ州知事ハ軍務知事ニシテ今日ノ知事ハ純然タル文官ナリ而シテ千九百九年七月二十二日堪察加州知事ニ任命セラ
 レタルベルフイーリエフ氏ハ如何ナル經歷ヲ有スル人ナルカト云フニ當時巴府發刊「ブリアムーリエ」紙カ紹介シタル記
 事アレハ之ヲ左ニ鈔録シテ其人ト爲リヲ知ラシメン

州知事ノ駐在地「ベトロバウロフスク」市ト同市ノ歳入歳出

ベルフイーリエフ氏ハ後員加爾州ニ産マレ彼得堡ノ大學ニ學ヒ博物科ヲ卒業シ後陸軍醫科大學ニ入り醫學ヲ修メ千八百九十三年同科ヲ卒業セリ當時「ハッロフスク」ニ露國地學協會ノ支部創設ヲ見ルヤ同市ニ在リタル彼ハ劈頭同支部ニ貢獻スル所アリ同府ノ博物館設立モ一ニ彼ノ力ニ成レリ斯クテ地學協會ニ現ハシタル學識ノ該博ナルハ彼ノ有用ノ人物タルコトヲ世人ニ紹介シ殊ニ地方ノ文學其他行政問題等ニ關シ彼ハ總督ニ取り必要ナル人物ト認識セラレ途ニ千八百九十六年當時ノ總督ドホフスコイノ希望ニ依リ沿黑龍江總督府ニ轉任スルコト、ナリ爾來同府ニ在リテ後員加爾州ノ歴史及移民事情ト總督府管下ニ於ケル行政問題ノ調査ヲ擔任シ千九百四年總督府ニ五等官ノ特務官吏ヲ置カル、ヤ彼ハ其職ヲ占メ總督ニ對シ最重要問題ノ復命取次者ト爲リ益秀才ヲ發揮シ日露戰爭當時總督府總務長官ニ數次ノ交迭アルヤ毎時其臨時代理ノ任ニ當リ總督ノ彼得堡ニ上京セラル、毎ニ之ニ隨行シ總督府管下ノ問題ニ關スル會議ニハ同管下ノ代表者トシテ列席シタルコト尠カラズ彼職務ノ多方面ナル益々彼ヲシテ多方面ノ博識者タラシメリ從來「オホツク」、堪察加ノ問題ニシテ彼ノ手ヲ經タルモノ舉テ算スヘカラス同方面ノ歴史等ニ十分經驗ヲ有スル其人ニシテ今回其行政長官ト爲レルハ所謂適所ニ適才ヲ得タリト云フヘケレハ將來治績ノ見ルヘキモノアルハ毫モ疑フ處ニアラス云々

實ニ同紙ノ紹介ハ歡迎辭トシテハ遺憾ナク思ハル、ナリ爾來二ヶ年ヲ經過セリ彼ノ治績如何「ベトロバウロフスク」ニ足跡ヲ印シタル者ハ彼ノ不良評判ヲ聞カサル者ナカラン甚タシキハ彼ヲ濟度スヘカラサル人物ノ如ク評スル者アリ今日彼ノ立場ハ一人ノ同情者ナク四面楚歌ノ状態ニ在リト云フヘキカ本官ハ彼ト會見シ評判ノ其レト甚タ一致セサルコトヲ感セリ何カ故ニ彼ハ人望ヲ收ムルコトヲ得サルカ思フニ古語ニ云フ水清ケレハ魚棲マス人嚴ナレハ交疎シト彼ハ餘リニ嚴格ニシテ毫モ假借セス故ニ部下ハ長官トシテ心服セス一般人民ハ彼ヲ利用出來サルヨリ惡評ヲ下スモノ、如シ「ウンテルベルゲル」總督彼ヲ知ラサルニアラス然ルニ彼ヲ新開ノ州知事ト爲シタルハ恐ラク深キ考ナキニアラサルヘシ新開ノ地方ニハ一攫千金ノ輩入り込ムヲ常トス融通ノ利ク長官ハ彼等ニ利用セラル、ノ悞アレハ特ニ融通ノ利カサル人物ヲ撰擇シテ之ニ任命シタルニアラサルカ我國ニ於テモ其例尠ナカラス果シテ然ランニハ堪察加州ニ取り眞面目ノ基礎ヲ置カ

ル、上ニ將來ノ幸福タル言ヲ俟タス然ルニ今ヤ頼リニ彼ノ轉任ヲ傳ヘ二ヶ年經過ノ今日尙ホ彼ヲ本官ニ進メサルヲ見レハ其風説或ハ實現セラルヘキカ

「ベトロバウロフスク」市ノ歳入歳出

最近「ベトロバウロフスク」市ノ歳入歳出ハ左ノ如シ

千九百七年	歳	歳	歳	歳
千九百八年	歳	歳	歳	歳
千九百九年	歳	歳	歳	歳
千九百十年	歳	歳	歳	歳

如上歳入ノ主ナル財源ハ「ベトロバウロフスク」港ノ碇泊税ニシテ其額ヲ左ニ示セハ(露國汽船十留外國汽船二十五留帆船十五留)

千九百七年	六	百	五	留
千九百八年	六	百	三	十五留
千九百九年	七	百	五	留
千九百十年	六	百	五	十五留

次ニ居住登録料三百三十九留乃至三百六十五留而シテ其他ハ毎年郡役所ヨリ毛皮税トシテ徵收セル毛皮ノ競賣手数料(四分其内二分ハ買入、リ市ノ收入ニ)營業鑑札下付等ニシテ千九百十年ヨリ不動産ニ對スル徵稅ヲ施行スルコト、ナレリ

同市カ如上ノ收入ヲ如何ナル費目ニ使用シ居ルカト云フニ學校ノ補助費ニ三百乃至五百留病院維持費ニ千九百十年ハ七百三十留其他ハ橋梁ノ修繕又ハ道路ノ新設若クハ修理ニ充テリ堪察加半島ニ車道ヲ開鑿スル爲メ州知事ハ總督ヨリ約一萬留ノ支出ヲ得タリト云ヘハ今後「ベトロバウロフスク」市ハ言ヲ俟タス一般ノ交通状態ニ一新生面ヲ開クヘシ(千九百九年十月二十日發刊)

「アリアム」當「ニコラエウスク」新聞ノ記事(千九百十年十月十五日發刊)ニ據レハ堪察加州知事ハ「ベトロバウロフスク」市

州知事ノ駐在地「ベトロバウロフスク」市ト同市ノ歳入歳出

ノ收入ヲ計ル爲メ「アワチヤ」灣内沿岸ノ漁場ヲ市ノ所屬ニ歸セシメラレンコトヲ其筋ニ上申シタリト果シテ其申請ヲ容
レラル、ニ至レハ同市ハ黑龍江下流ニ於ケル「ニコラエウスク」市ノ如ク毎年著シキ收入ヲ得ルニ至ルヘシ(參照「ニコラエウ
スク」市有漁場ノ
收入ハ毎年約十
八萬圓ニ達ス)

「ペトロバウロフスク」港ノ航運ト同港寄航定期及臨時船

「ペトロバウロフスク」港ハ我五月初旬ヨリ海路ノ交通開ケ十一月末ニ至リ薄氷ニ閉サレ一月初旬凍結ス年ニ依リ多少ノ
遲速アリト雖モ全ク交通ノ杜絶スル間ハ約四ヶ月ナリ(「アワチヤ」灣ハ四年
結氷スルトナシ)今ヲ距ル約十年前同港トノ定期航路ハ浦潮ヲ起
點トシテ春秋ノ二回ニ限ラレタルカ其後時勢ノ促進ハ其回数ヲ増サシメ明治四十年本官初メテ堪察加ヲ巡航シタル際其
年「アナドヰリ」航一回加ハリテ五回ト爲リ漁業協約ノ締結ハ露國漁業者ノ漁業ヲ奨励スル爲メ彼等ノ希望ヲ徵シ便宜ナ
ル定期航路ヲ開始シ尋テ堪察加州ノ設立ハ一層交通運輸ヲ促進シ最近浦潮斯德、「オホツク」及白令海諸港定期航路ニ關
シ左ノ法律ヲ見ルニ至レリ

千九百十一年度浦潮斯德、「オホツク」及白令海諸
港間並韃靼海峽沿岸定期航路ニ關スル法律

第一條 國庫ハ補助金ヲ支給シ義勇艦隊ヲシテ千九百十一年度露國又ハ外國ノ汽船ヲ以テ浦潮斯德、「オホツク」及白令
海諸港間(往復航路總延
長五萬五千哩)及韃靼海峽ノ定期汽船航路ヲ經營セシムルコトヲ商工務大臣ニ委任ス韃靼海峽ノ航路回数ハ左
ノ通りトス

- 一、浦潮斯德、「ニコラエウスク」間 十二回
- 二、同上、「アレクサンドロフスキー」哨所間 四回

第二條 第一條ニ掲ケタル定期汽船航路經營ニ關スル細則ハ商工務大臣ヲシテ沿黑龍總督ト協議ノ上之ヲ定メシム

第三條 第一條ニ掲ケタル航路補助ノ爲メ千九百十一年度國庫ヨリ三十萬四千圓ヲ支出スヘシ

本年浦潮斯德「オホツク」及白令海ノ諸港間ノ定期航路數十二回ト爲リタレハ左ニ義勇艦隊雇船發着表ヲ譯出シ客航地貨
物乗客ノ運賃ヲ示シ一方ニ如何ニ露國漁業者ノ便宜ヲ計リツ、アルカヲ知ラシム

義勇艦隊千九百十一年度「オホツク」、白令海航路發着表

第一、堪察加航路

露曆四月八日 (我四月廿一日) 浦潮出港
同 五月七日 (我五月二十日) 歸潮出港

港	船名	噸數	航行日數	碇泊日數	船客貨 (食料ナシ)	浦潮
浦	「ペトロバウロフスク」	四〇五	二	二	一、二一五	一、二一五
	「モルシローワヤ」	八二	一	一	一〇八〇	四四、五五
潮	「シユパノウオ」	二〇五	一	二	二、四〇	四七、〇一
	「ウスチ、カムチヤトスク」	二八五	二	三	六、一五	一、六〇七
計	「ペトロバウロフスク」	一、三六〇	六	一	八、五五	五、四三六
	「ウスチ、カムチヤトスク」	三、四五七	一八	二	一、三六〇	一、八二二

春季西海岸堪察加航路

露曆四月九日 (我四月廿二日) 浦潮出港
同 五月廿五日 (我五月十二日) 歸潮出港

港	船名	噸數	航行日數	碇泊日數	船客貨 (食料ナシ)	浦潮
浦	「ペトロバウロフスク」	四〇五	二	二	一、二一五	一、二一五
	「カムチヤ、ナヤ」	一九〇	一	一	五、七〇	四四、五五
潮	「オセ、ルナヤ」	一八	一	一	五、四	五〇、二五
	「オセ、ルナヤ」	三七	一	一	一、一	五〇、七九
計	「ペトロバウロフスク」	四八	一	二	一、四四	一、七三〇
	「カムチヤ、ナヤ」	一、四四	二	二	四八	五三、三四

「ペトロバウロフスク」港ノ航運ト同港寄航定期及臨時船
千九百十一年度浦潮斯德、「オホツク」及白令海諸港間並韃靼海峽沿岸定期航路ニ關スル法律
義勇艦隊千九百十一年度「オホツク」、白令海航路發着表

「ウスケチ、カムチヤトスク」	「シユバノールウオ」	一八五	一	三	五、五五	一、八五	七六、〇二	二五、三四
「シユバノールウオ」	「モルシヨールヤ」	四〇	一	一	一、二〇	四〇	七七、二二	二五、七四
「モルシヨールヤ」	「ハトロバウロフスク」	八二	一	四	二、四六	八二	七九、六八	二六、五六
「ハトロバウロフスク」	計	一〇八〇	六	三	三二、四〇	一〇、八〇	一一、〇八	三七、三六
函	館	四〇五	二	一	一一、二五	四、〇五	一一、二四、二三	四一、四一

第二、「チユコツトスコエ、アナド井リ」航路

「ウスケチ、カムチヤトスク」	「ハトロバウロフスク」	一、三六〇	七	二	四〇、八〇	一、三六〇	四〇、八〇	一、三六〇
「ハトロバウロフスク」	「アナド井リ」	一、〇七四	五	三	三二、二二	一〇、七四	七三、〇二	二四、三四
「アナド井リ」	「アロウイデーニエ」	二七〇	二	一	八一、〇〇	二七〇	八一、二二	二七、〇四
「アロウイデーニエ」	「ウスケチ、カムチヤトスク」	四八	一	一	一、四四	四八	八一、五六	二七、五二
「ウスケチ、カムチヤトスク」	「イトイグラン」	二〇	一	一	六〇	二〇	八一、五六	二七、七二
「イトイグラン」	「聖ラウレンチイヤ」	九六	一	一	二八八	九六	八六、〇四	二八、六八
「聖ラウレンチイヤ」	「テシネ」	四八	一	一	一、四四	四八	八七、四八	二九、一六
「テシネ」	「アロウイデーニエ」	二二	一	一	六三六	二二	九三、八四	三一、二八
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	二四〇	二	一	七二〇	二四〇	一〇、〇四	三三、六八
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	一六三	一	一	四八九	一六三	一〇、五九三	三五、三一
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	六七〇	三	一	二〇、一〇	六七〇	二六、〇三	四二、〇一
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	七二	一	一	二、一六	七二	二八、一九	四二、七三
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	二五	一	一	七五	二五	二八、九四	四三、九八
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	一〇	一	一	三〇	一〇	二九、六四	四三、〇八
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	一四	一	一	四二	一四	三〇、五六	四三、五二
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	三〇	一	一	九〇	三〇	三六、四七	四五、四九
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	一九七	一	一	五、九一	一九七	三六、四七	四五、四九
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	一八五	一	一	五、五五	一八五	四二、〇二	四七、三四
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	四〇	一	一	一一〇	四〇	四三、二二	四七、七四
「アロウイデーニエ」	「アロウイデーニエ」	八二	一	一	二、四六	八二	四四、五六	四八、五六

第一、秋季西海岸堪察加航路

「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	一、〇八〇	二	二	三二、四〇	一、〇八〇	一七、八〇	五九、三六
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	四〇五	一	一	一一、二五	四〇五	一九、〇三	六三、四一
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	六、三四一	四	一	三、七	六、三四一	一七、八〇	五九、三六
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	一、五三五	八	五	四六、〇五	一、五三五	四六、〇五	一五、三五
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	七〇	一	一	二、一〇	七〇	四八、一五	一六、〇五
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	一四三	一	一	四二、九	一四三	五二、四四	一七、四八
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	二一	一	一	六三	二一	五三、〇七	一七、六九
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	六〇	一	一	一、八〇	六〇	五四、八七	一八、二九
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	三〇	一	一	九〇	三〇	五五、七七	一八、五九
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	三〇	一	一	九〇	三〇	五六、六七	一八、八九
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	四七	一	一	一、四一	四七	五八、〇八	一九、三六
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	五三	一	一	一、五九	五三	五九、六七	一九、八九
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	四八	一	一	一、四四	四八	六一、一一	二〇、三七
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	三八	一	一	一、一四	三八	六二、二五	二〇、七五
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	一八	一	一	五、七〇	一八	六二、七九	二〇、九三
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	一九〇	一	一	三二、四〇	一九〇	六八、四九	二二、八三
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	四〇五	二	一	一一、二五	四〇五	一〇、八九	三三、六三
「ハトロバウロフスク」	「ハトロバウロフスク」	三、七六八	二	一	三、七	三、七六八	一三、〇四	三七、六八

秋季「オホツク」航路

「ア」	「ウ」	「フ」	「ス」	「ク」	「ア」	「ウ」	「フ」	「ス」	「ク」
二四五	一五〇	一四三	一四三	一四三	二四五	一五〇	一四三	一四三	一四三
八	三	四	四	四	八	三	四	四	四
七、三五	四、五〇	三、四二九	三、四二九	三、四二九	七、三五	四、五〇	三、四二九	三、四二九	三、四二九
四六、一四	三、八七九	一、二九三	一、二九三	一、二九三	四六、一四	三、八七九	一、二九三	一、二九三	一、二九三

義勇艦隊千九百十一年度「オホツク」白令海航路表

旅客運賃ハ左ノ如シ

一等ハ一湮ニ付三哥、食料一晝夜ニ付二留、二等ハ一湮ニ付二哥、食料一晝夜ニ付一留半、三等ハ一湮ニ付一哥、食料ハ希望ニ依リ汽船ヨリ賄ハシムレハ一晝夜ニ付五十哥トス
露國ノ諸港間ヲ往來スル漁夫及移民ノ運賃ハ三等ノ半額トス
五歳乃至十歳ノ小兒ハ一、二等ニアリテハ其半額三等ハ無貨トス
携帶品ハ一、二等船客ニ在リテハ七布度、三等船客ニ在リテハ三布度マテ無貨トス右重量ヲ超過シタル分ニ對シテハ携帶品運賃率ニ照シ運賃ヲ拂ハシム

又千九百十二年以降ノ同地方定期航路ニ關シテハ左ノ如キ法律ヲ公布セラレタリ

千九百十二年以降浦潮斯德「オホツク」及白令海諸港間

並韃靼海峽沿岸定期航路經營ニ關スル法律

第一條 國庫ヨリ義勇艦隊ニ補助金ヲ支給シ該艦隊ヲシテ千九百十二年ハ露國又ハ雇入外國汽船ヲ以テ千九百十三年ヨリ千九百二十二年マテ(同年ヲ含ム)ハ自己ノ露國汽船ヲ以テ部落及漁區ニ寄航スル左ノ定期汽船航路ヲ經營セシムルコトヲ商工務大臣ニ委任ス

一、浦潮斯德「オホツク」白令海諸港間

一年間航路總延長五萬五千湮

此航路ニ使用スヘキ汽船四隻

二、韃靼海峽

(イ) 浦潮斯德「ニコラエウスク」間

一航海期間往復

十二回

(ロ) 同

「アレクサンドロフスキー」哨所間

同

四回

此航路ニ使用スヘキ汽船二隻

第二條 第一條ニ掲ケタル定期航路ノ發着表航路及寄航地點ハ毎年商工務大臣ヲシテ沿黑龍江總督ト協議ノ上認可シ二月一日前ニ之ヲ公布セシム

第三條 義勇艦隊ハ第一條ニ掲ケタル定期汽船航路ニ充ツルニ一時間ノ速力十湮以上ノ汽船ヲ以テスヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル定期汽船航路經營ニ關スル細則ハ商工務大臣ヲシテ沿黑龍江總督ト協議ノ上之ヲ定メシム

第五條 義勇艦隊ハ第一條ニ掲ケタル汽船六隻ノ建造ニ關シ最モ有利ノ條件ヲ申出タル一又ハ數ヶ所ノ露國造船所ニ其建造ヲ注文スヘシ汽船每一隻積量八萬二千立方呎以上吃水(滿載)十五呎以下及左ノ旅客室ヲ有スルコトヲ要ス

一等旅客定員

十人以上

二等同

三十人以上

三等同

三百人以上

第六條 第一條ニ掲ケタル義勇艦隊補助金ハ千九百十二年度ニ於テ國庫ヨリ三十三萬一千留ヲ支出シ千九百十三年度以降ハ新ニ義勇艦隊ニ關スル法律ノ制定セラレ、マテ豫算ノ方法ニ依リ必要ナル額ヲ決定ス

第七條 第五條ニ掲ケタル新汽船六隻ノ建造ノ爲メ國庫ヨリ左ノ年別ニ依リ三百六萬留ヲ支出シ之ヲ無利子ニテ義勇艦隊ニ貸付ス

千九百十二年度

百五十三萬留

千九百十三年度

百五十三萬留

第八條 第五條ニ掲ケタル汽船六隻ノ建造ヲ注文セラレヘキ造船所ニ造船獎勵金ヲ支給スル爲メ國庫ヨリ左ノ年別ニ依

千九百十二年以降浦潮斯德「オホツク」及白令海諸港間並韃靼海峽沿岸定期航路經營ニ關スル法律

リ百八十萬留ヲ支出シ之レカ處分ヲ商工務大臣ニ委任ス

千九百十二年

九十萬留

千九百十三年

九十萬留

「ベトロバウロフスク」港ニハ「オホツク」白令南海殊ニ「カマンドル」群島ノ警備ニ任セル露國軍艦並ニ之ニ石炭糧食ノ補充ヲ行フ運送艦ノ出入將亦堪察加商工業會社ノ所有艦「コーチク」號或ハ露國漁業者ノ履船ニシテ東海岸ニ航スルモノ、寄航スルアリテ同港ノ航運ヲ助クルモノアリ又茲ニ特筆スヘキハ千九百九年六月十七日公布行政改革ニ關スル法律第十三條四項ニヨリ堪察加州廳及「チユコトスコエ」郡役所用汽船建造費トシテ十五萬五千五百留支出セラレタルコト是ナリ其汽船ハ已ニ露國ノ造船所ニ注文アリテ本年進水シ「アドミラル、ザウオイコ」ト命名シ浦潮ニ廻航アリタリ同船ハ堪察加州廳ノ専用ニ屬シ同州沿海ノ航運ヲ促進スル所謂御用船ナリ尙ホ「セーウエルナヤ、ヅウヨズダ」ト稱スル帆船ハ「アナド井ル」郡役所ノ専用ニ「ブラゴウエシチエンスク」市ニ於テ新造シ本年ハ「チユコトスコエ」郡役所ノ所在地「ブロウイデーニエ」灣ニ廻航留シアリ「チユコトスコエ」郡役所新築等ニ要スル材料又ハ物資ノ運搬等ヲ爲ス由ナルカ窮北ノ交通運輸モ義勇艦隊ノ定期航路ト俟テ一層ノ便宜開カルヘシ

「ベトロバウロフスク」港ニ出入スル船舶ハ凡テ檢疫醫並ニ當該地方官ノ來船ヲ俟テ旅客ノ上陸並ニ乘船ヲ行フヘシ（明治四十二年九月一日我官報油湖總領事館ノ報告参照）
尙ホ碇泊料ヲ徵收セラル、コトハ別項「ベトロバウロフスク」市ノ歲入歳出ノ部ヲ參照スヘシ

「ベトロバウロフスク」無線電信並電信線架設工事ノ進捗

堪察加半島ノ「ベトロバウロフスク」ニ至ル電信架設工事ハ「ヤクトースク」市ヨリ「オホツク」ニ出テ夫レヨリ沿岸ニ架設シ進ム計畫ナルカ一面ニ時勢ハ其竣成ヲ俟ツ能ハサルヲ以テ「ベトロバウロフスク」ニ無線電信機ヲ裝置シ黑龍江下流「ニコラエウスク」市ト聯絡セシムルコト、ナリ昨年十一月竣成シ一般ノ通信ヲ開始セリ然ルニ間モ無ク火災ニ罹リ不通ト爲リタリ此報ニ接スルヤ本年春季第一ニ浦潮ヲ發セル汽船ニテ「デナモ」器械一切ヲ送リタル等ナレハ早速通信開始アラント豫期シタルニ未タ復舊セス本官六月「ベトロバウロフスク」ニ着シ實況ヲ探リタルニ本年送り來リタルト云フ器械ハ揮發油發動機ニシテ曩ニ据付ケアリタル機械ハ石油發動機ナリシト云フ其揮發油ハ同地商店ニモ賣物ナキカ故ニ臨時ノ通信スラ爲ス能ハス船舶ノ便ハナシ進退谷マリ居レリ偶然ニモ我乘船ニ「ウスチ、カムチャトカ」罐詰製造所行キノ揮發油アリタレハ其貨主ニ交渉シ其一部ヲ借受タルコト、ナリ漸ク自己ノ用ヲ便スルコト出來タルカ假小屋ニテハ殆ント効ヲ奏セス殊ニ發信ハ困難ニシテ受信ハ夜中ニ限リ僅ニ通スルト云ヘリ斯クテ一方ニ新築工事ヲ督促シ居タルカ漸ク九月ニ入り公衆ノ通信ヲ元ノ如ク開始スルニ至レリ此無線電信局ノ所在地ハ「ベトロバウロフスク」港ノ沙嘴ヲ距ル約一露里ノ山溪海岸ニシテ海軍貯炭場ト斜ニ相對ス

「ベトロバウロフスク」ヨリ「オホツク」ニ向テ電線ヲ架設シツ、アル工事ハ昨年「ベトロバウロフスク」ヨリ「ボクシエレツク」約百八十七露里間ニ車道ヲ開キ同時ニ架設ヲ竣成シ本年ハ「ボリシエレツク」ヨリ「オブル」コウイナ」約三百露里間ニ架設ヲ進ムルト同時ニ途中四ヶ所ニ電信局及同局用家屋ヲ建築シ尙ホ進ンテ明年ニ對スル準備トシテ「チギリ」ニ至ル間ノ架設路ヲ開鑿シ同地域間ニ糧食、電線架設用材料及馬糧等ヲ收容スル倉庫ヲ建築スル豫定ナリシカ本官ノ「ベトロバウロフスク」ニ於テ聞知シタル處ニ據レハ本年勞働夫トシテ朝鮮人ノ使役ヲ許サレ着々進行シツ、アリト云フ又工事中ノ地點ト「ベトロバウロフスク」間ニハ電話ヲ裝置シ一切ノ要件ヲ通信シ居レリ

堪察加州ノ新設無線電信機裝置ト在巴府郵便電信區長官ノ視察

千九百十一年一月八日發刊沿黑龍江總督府半官報ノ記事ニ據レハ郵政廳ノ特別會議ニ於テ無線電信擴張計畫ヲ審議ニ附シ就中左記極東ノ各地ニ無線電信機ヲ急速裝置スルコトニ可決セリト

「ベトロバウロフスク」無線電信架設工事ノ進捗
堪察加州ノ新設無線電信機裝置ト在巴府郵便電信區長官ノ視察

- 一、「ペーリング島」(カマンドル)
 - 二、「ノウオ、マリインスキー」哨所(アナド井リ)
 - 三、「チユコトスキー」半島ノ内
 - (イ)「プロウイデーニエ」灣
 - (ロ)「デジネフ」岬
 - 四、「マルコウオ」邑(郡役所々在地「アナド井リ」河上流七百露里ニ在リ)
 - 五、「オホツク」海沿岸ノ内
 - (イ)「オホツク」(郡役所々在地)
 - (ロ)「ヤムスコエ」村
 - (ハ)「ギジガ」(郡役所々在地)
 - (ニ)「チギリ」
 - 六、薩哈噠島(海底電線破損ノ場合ニ使用スルモノ)
 - 七、「ケルピンスカヤ」鑛業事務所々在地(「アムグニ」河上流約三百六十露里ニ在リ)
- 右ニ據リ本年着手ヲ見タルハ「オホツク」、「ギジガ」郡ノ「クラーシカ」及「アナド井リ」河口「ノウオ、マリインスク」ノ三個所ナリ沿黒龍江總督府半官報ノ記事ニ據レハ露曆五月七日「クラーシカ」ニ四十六名六月十四日「オホツク」ニ約五十名「アナド井リ」ニ約九十名ノ勞働夫ト工夫ヲ送遣シタリト本官ノ便乗船ニテ「ハバロフスク」駐在郵便電信區長官レイフ氏堪察加ニ出張シ「ペトロバウロフスク」ニ上陸同地ノ無線電信舊工事ヲ視察シ部下ニ對シ指揮スル所アリ同時ニ半島ノ西海岸ニ架設シツ、アル電信工事ニ付キ解決處分ヲ與ヘ「シーシヤン」號ニテ「アナド井リ」ニ來航シ丁度本官ノ「アナド井リ」河口ニ碇泊中ナリシカ同官ハ「ノウオ、マリインスク」ニ無線電信機ヲ裝置スル場所ノ選定ヲ爲シ諸般ノ指揮ヲ與ヘツ、ア

リシ一方ニ引卒シタル工夫及勞働夫ハ材料ノ揚陸ト同時ニ切組ミ家屋ノ建築ヲ急クモノ、如ク見エタリ同地ハ建築材ナク「ノウオ、マリインスク」ノ住民モ戰時狀態ノ如ク多ク天幕生活ヲ爲ス程ナレハ右ノ工夫勞働夫等ヲ收容スル家屋ハ無論ナリ天幕生活ニテ電信機ヲ組立ツルモノナルヘシ多少時期カ後レタル爲メ降雪マテニ竣成ハ覺束ナカルヘシト云ヘリ而シテ同長官ハ義勇艦隊ノ秋季航路マテ同地ニ残り居レリ

「オホツク」ト「ギジガ」ニ裝置スルモノハ同長官ノ補助官出張シ指導ヲ爲ス計畫ノ由ニテ長官及補助官ノ自ラ出張督勵スルハ同工事ノ進捗ニ與フル影響ノ多大ナルヲ知ルヘシ

「ペトロバウロフスク」市ニ郵便局並地方金庫設置

堪察加ニ獨立ノ州ヲ見サル以前ニ在リテハ郵便ノ取扱ハ郡役所カ兼掌シタルモノナルカ今ヤ郵政ヲ司ル獨立ノ官吏ヲ置カレタリ

地方金庫ヲ堪察加「ペトロバウロフスク」市ニ設置スル件ニ關シテハ沿黒龍江總督カ一昨年大藏大臣ニ稟申スル所アリタリトハ同年總督府官報ノ報スル所ナリシカ千九百十年其設置ヲ見タリ此ニ於テ金融機關備ハリ一方ニ無線電信局開設セラレタレハ今ヤ同地ヘノ送金ハ郵便爲替ノミナラス電信爲替モ取扱ハル、コト、ナリ各地ノ金庫、國立銀行及其支店ハ同地ノ金庫ニ向ケ爲替事務ヲ開始セリ又一般ノ貯金預リニ關シテハ「ペトロバウロフスク」ニ從來其制ナク獨立州ノ出來サル以前ヨリ其必要ヲ感シ郡長ヨリ總督ニ稟申シタル由ナルカ未タ其運ニ至ラサリシカ是モ此際其途ヲ開キタリ

「ペトロバウロフスク」市ニ於ケル建施工事ト勞働夫

「ペトロバウロフスク」ハ千八百五十年代ノ始メ露國ノ軍港トナリ其際建築セラレタル建物ハ多々アリタレト已ニ朽腐ニ屬シ今ヤ殆ント其跡ヲ止メ天明治四十年本官カ殆メテ同港ニ足跡ヲ印シタル時ハ住屋六十七戸アリタリ而カモ郡役所、

「ペトロバウロフスク」市ニ郵便局並地方金庫設置 「ペトロバウロフスク」市ニ於ケル建施工事ト勞働夫 三三

學校、病院、郡長官舎、堪察加商工業會社其他二、三ノ家屋ヲ除キ他ハ殆ント家屋ト名稱ヲ下シ難ク寧ロ小舎ト稱スル方至當ナラント感セリ其所以ハ同市ノ附近ニ建築材ナク遠クヨリ之ヲ移入センニハ交通便ナラス且ツ犬橋ノ外運輸機關ニ乏シキカ爲メ可ナリノ資産家モ隘屋ニ甘ニスルノ止ムナキモノアルナリ亞鉛管ノ屋根ハ無論相當ナル板葺スラナク港外ヨリ展望スレハ左程見苦シカラサルモ之ニ近ツケハ驚クヘキモノアリシ寧ロ「カマンドル」群島ノ「ペーリング」島ニ於ケル「ニコリスコエ」邑ノ比較的遙ニ優リタリ同島ニハ全然木材ナキガ故ニ米國ヨリ輸入セリト云フ然ルニ一昨年堪察加州ヲ設立シ州廳ヲ同市ニ置クコト、ナリタル以來建物ハ知事ノ劈頭事業ニ屬シ本年本官カ同地ニ赴キ第一ニ感シタルハ建物ノ増加シテ一般面目ヲ改メタルコトナリキ惜ムヘシ同市ハ陸地狹隘ナレハ山腹ニ據リ家屋ヲ建テ一方ハ墓地(新ニ埋葬)ノ附近ヨリ郡役所ノ周圍即チ比較的陸地ノ廣キ處ハ數個ノ街衢ヲ形成セリ今後發展スレハ西方「オゼルノエ」(湖水ノ麓ニ在リ)ノ沿岸山腹ヲ崩シ家屋ヲ建ツルノ外ナシ四十二年本官カ第二回ニ同地ニ在リタル際「チュウリン」商會ハ「オゼルノエ」ニ近ク商店ト倉庫ヲ新築シツ、アリタルカ今日ハ立派ナル唯一ノ大商店ト爲リ商工業會社モ其後ニ隱若タル勢ナリ官ノ家屋ヲ除キ「タタール」人「アグーエフ」ノ二階家ハ人目ヲ惹キ今ヤ官私ノ家屋ハ約二百戸ヲ算スルニ至レリ千九百九年六月十七日公布行政改革ニ關スル法律第十三條ニ堪察加州廳及「チュウコトスコエ」郡警察署新築費トシテ十萬留支出ストアルカ本年六月十一日發刊沿黑龍江總督府官報ノ記事ニ據レハ總督ノ上申ニ依リ堪察加州ノ建築費トシテ露都ヨリ爲替アリタル金額ハ二十一萬八千三百留ナリト云フ建築工事ハ四面ニ起リ其材料ハ皆他ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ「ペトロバウロフスク」港ノ沙嘴ニ處々堆積シアリ右建築工事ノ進歩ニ支障ヲ與フルハ同市ノ附近ニ粘土ノナキコトニシテ建築物ノ基礎ニ用ユルモノ又ハ煖爐用煉瓦ノ如キ皆他ヨリ輸入スルノ外ナク本年ハ商工業會社ノ汽船「コーチク」號橫濱ニ往復シタレハ其使ニテ煉瓦ハ同港ヨリ輸入セリト云フ

勞働夫ハ「ペトロバウロフスク」港ニ夥多建築工事起ルヲ聞知シ船便毎ニ渡航セリ餘リニ多クノ勞働夫カ同地ニ渡航スルニ付總督ハ沿海州軍務知事ニ命シ清、鮮人ノ注意ヲ惹ケリ本年六月七日發刊沿黑龍江總督府官報ニ左ノ記事アリ清、鮮人カ

著シク堪察加ニ渡航スレト彼等ハ千九百十年六月二十一日ノ法律規定ニ據リ官設工事ニハ使用スヘカラサルモノナリ而シテ「ペトロバウロフスク」ニ於ケル個人ノ建築工事ハ至ツテ勢ナキカ故ニ勢ヒ無職業者トナラサルヲ得ス無職業ノ勞働夫ハ居住ヲ許サ、ルニ付官費ヲ以テ浦潮ニ送り返サ、ルヘカラス故ニ可成一般ニ周知セシムル爲メ浦潮ニ於ケル黃色人ノ居住地ニ揭示ヲ爲シ尙ホ北方ニ向ツテ郵便定期船若シクハ個人ノ汽船出帆スル際ハ臨檢シ彼等ニ堪察加州ノ勞銀ヲ目的トシテ渡航スヘカラサルコトヲ告ケ若シ此注意ヲ守ラス渡航シ無職業トナリタル者ハ驛送ノ方法ヲ以テ放逐セラルヘキモノナル旨ヲ特ニ注意スル様軍務知事ニ命セリト右ノ如ク警戒シタル爲ナルカ本官ハ同地ニ左程多クノ清、鮮人ヲ見受ケサリシカ歸途「ペトロバウロフスク」ヨリ我乗船便ニテ清國人三十餘名放逐セラレ浦潮ニ送ラレタルヲ目睹セリ我邦人モ多少建築工事ノ起ルヲ聞知シ渡航セルアリ然ルニ獨立州ノ設置以前ハ日本人ノ大工ハ大ニ歡迎セラレタルモノニシテ病院、商工業會社其他ノ建築ハ唯一日本人ノ手ニ成レリ然ルニ前記ノ法律第三條ニ外國臣民ハ沿黑龍江總督府管下ニ於テ官廳ノ工事ニ使役スルコトヲ得ストアリ其精神ハ専ラ清、鮮人ニ對スルモノ、如クナレト州知事ハ外國臣民トアルヲ以テ日本人モ官衙工事ニ使役スヘカラサルモノト爲セリ日本人ノ大工又ハ勞働夫ハ右ノ法律ヲ知ラス殊ニ曩年歡迎セラレタルモノカ突然使用セラレス且ツ曩ニハ左程ノ工事ナカリシカ今ヤ盛ニ起ル工事ニ手ヲ染ムルヲ許サス如何ナル理由カ之ヲ知ラサル彼等ノ不思議ハ變シテ不平ト爲リ州知事ハ日本人排斥主義ヲ有ス故ニ斯ル措置ヲ執ルモノナリト爲セリ本官ハ之ニ對シ懇諭スル處アリ一同モ之ヲ會得シタルモノ、如クナリシカ本官歸館ノ後七月三十一日發「ペトロバウロフスク」日本人同胞同志會ノ報告ニ據レハ同月二十九日ヨリ官衙ノ建築工事ニ日本人ヲ使用スルコト、ナリ勞働夫一同愁眉ヲ開キタリトアリ露國カ極東ニ於テ自國ノ勞働夫ヲ獎勵スル精神ヲ以テ使用スルコトニ努メ居レト露國ノ勞働夫ハ概シテ怠慢ナレハ急設工事ニ當リ彼ニ重キヲ置ク能ハス同法第四章ノ規定ニ基キ必要上勢ヒ我大工及勞働夫ヲ使用スルニ至リタルモノナルヘシ左ニ前記法律ノ全文ヲ掲ケ參考ニ供セン

「ペトロバウロフスク」市ニ於ケル建築工事ト勞働夫

沿黑龍江總督府及「イルクーツスコエ」總督府管内後貝加爾州

ニ於ケル外國臣民ニ對シ制限事項制定ニ關スル法律

第一章

西伯利州縣制(千八百九十二年號)第三百四十四條第四項ハ一般移民法ヲ實施シ沿黑龍江總督府及「イルクーツスコエ」總督府管内後貝加爾州ニ居住スル清、鮮人ニシテ外國臣民籍ヲ有スル者ヨリ税金ヲ徵收スル法律ヲ制定スルマテ之レカ効力ヲ延期ス

第二章

該法令ニ左ノ通り改正増補ヲ加フ

第一條 沿黑龍總督府及「イルクーツスコエ」總督府管内後貝加爾州ニ於テハ外國臣民ニ對シ移住ノ爲メ官有土地ノ貸下並同目的ノ者ニハ官有土地及貸貸財產ノ租借ヲ禁止ス

但本條ノ規定ハ鑛業法(千九百零六年改正)第二百六十七條第六項但書第一及第四ノ効力ヲ妨ケス尙又外國ト締結シタル現行條約ニ依リ外國臣民ニ許與シタル權利ヲ侵スコトナシ

第二條 第一條ニ記載シタル地方ニ於テ外國臣民ハ何人ト雖モ政府ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第三條 第一條ニ記載シタル地方ニ於テハ官廳ノ必要ノ爲メニ行フ工事ニ外國臣民ヲ使役スルコトヲ得ス

第三章

第二章第一條及第二條ノ規定ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス第三條ノ規定ハ千九百十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四章

一般移民法ノ實施并沿黑龍江總督府及「イルクーツスコエ」總督府管内後貝加爾州ニ居住スル清、鮮人ニシテ外國臣民籍

ヲ有スル者ヨリ税金ヲ徵收スル法律ヲ制定スルマテ該地方ニ於テ官廳ノ必要ノ爲メニ行フ急設工事ニシテ露國臣民ノミヲ以テ行フコト不可能ト認ムル場合ニ限リ外國臣民ノ使役ヲ許可スル權ヲ大臣會議ニ委任ス

「ペトロバウロフスク」市ノ商況並商舖

「ペトロバウロフスク」市ハ州ノ首府ニシテ小市街ヲ形成ス本年一月一日ノ現在同市ノ人口ハ九百二十四人(男六七〇)夏季ハ優ニ一千人ヲ超過スト雖モ固ヨリ邊陲ノ小市ナレハ隨テ商況活潑ナラス殊ニ堪察加ハ交通不便ナルカ爲メニ官設倉庫ナルモノアリ之ニ地方住民ノ日用必須品(雜貨)麥粉、鹽、磚茶、砂糖、火藥、鉛、(銃丸若クハ散彈)等ヲ二ヶ年分常ニ貯藏シ必要ニ應ジ住民ニ拂下ケ一面ニ地方ノ商人ヲシテ利益ヲ壟斷セシメサラシム其必須品ハ土人保護資金ヨリ之ヲ購買シ賣捌クモノニシテ購買價格ト運賃ニ一割ノ利潤ヲ附ス其所在地ハ同市ノ外「ウドスタ」、「アヤン」、「オホツク」、「クラーシカ」(ヤウガ郡)「チギリ」、「ウスチ、カムチャトカ」、「カマンドル」群島、「アナド井ル」、「ウオロフスコエ」(本年ヨリ)「ナチキ」(堪察加河ノ上流人設)トス明年ヨリ尙擴張シテ「ギジガ」郡ノ「ナヤハン」ト「オホツク」郡ノ「タウイスカヤ」灣ニモ之ヲ置クト云フ村落住民ハ冬季必需品ヲ「ペトロバウロフスク」ニ仕入ニ來ルカ故ニ冬ハ商取引ニ活氣ヲ副ヘシム商人ノ主タル目的ハ毛皮ニ在リテ同方面ノ貿易ハ他ト趣ヲ異ニシ多クハ物品交換ナリ村落ノ小商人ハ毛皮ヲ携ヘ來リテ雜貨ヲ仕入レ行クモノニテ取引價格ノ標準ト各地方ノ產物ヲ以テ之ヲ定ム例ヘハ「ペトロバウロフスク」ハ狐、「オホツク」ハ木鼠、「ギジガ」ハ馴鹿、「アナド井ル」ハ北極狐ヲ以テシ磚茶一枚ニ付木鼠何枚烟草一斤ニ付同皮何枚ト云フカ如シ總テ商取引習慣ハ貸賣ニシテ何レモ地方住民ニ彼等ノ必需品ヲ豫メ貸付ケ置キ後日毛皮ヲ以テ債務ヲ償却セシムル仕組ナルカ故ニ金融ノ運轉ハ二、三年ニ亘ルコトアリ故ニ商品ニハ皆元價ニ五割以上ノ歩割ヲ附スルト云フ堪察加ノ商權ハ堪察加商工業會社(別項記)之ヲ專有シ有利ノ地ニハ商品倉庫ヲ建テ會社所有ノ汽船ヲ以テ商品ノ補充ヲ計ルト同時ニ貨物ヲ地方小賣人ニ供給ス毎年商業部ノヨリ收ル利益尠ナカラス四、五年前ヨリ「チユウリン」商會「ペドロバウロフスタ」ニ支店ヲ開キ四十年ニ新築シ今

「ペトロバウロフスク」市ノ商況並商舖

ヤ同店ニ有スル商品ハ遙ニ商工業會社ノ右ニ出テ盛ナル取引ヲ爲シ之ニ對抗シツ、アリ
「ペトロバウロフスク」市ノ商店ヲ舉クレハ大小十二戸ニシテ左ノ如シ

商工業會社	露國人
「チユウリン」商會	同
「アガロドニク」	同
「チユビヤートフ」	同
「アキシエフツエフ」	同
「ラीडザレフ」	彼新人
「アゲイーエフ」	タタール人
「ガグシエフ」	同
「ドウシエフ」	同
「サウインテン」	支那人
某	同

ドクトル、スリユウニン氏ハ「オホツク、カムチャトスキー、クライ」ト題スル著ニ堪察加全體ニ於ケル商人ノ取引高ハ三ヶ年平均約三十萬留ト記セリ右ハ無論堪察加州ノ設立ナキ以前ノ調査ニ屬シ今ヤ「ペトロバウロフスク」ニ於ケル州廳郡役所官吏ノ年俸額ノミニテモ六萬留ヲ下ラス又「チユウリン」商會ノ堪察加全體ニ於ケル運轉高ハ約五十萬留ナリト云ヘハ取引高ノ増加セルヤ必セリ

堪察加ニ於ケル貿易ノ目的ハ前記ノ如ク毛皮ニ在リテ其毛皮ハ歐米ノ市場ニ歡迎セラレ堪察加産品ノ廉價ハ噴々タルニヨリ冬季之ヲ買集メントテ年々他ヨリ入込ム内外ノ毛皮商勢ナカラス「ペトロバウロフスク」ニ坐シテ買集ヲ計ルハ他人ニ買取ラル、虞アリ又多少買入ノ價格ニモ差アルカ故ニ多クハ自身ニ行商鑑札ヲ受ケ商品ヲ携ヘ犬糞ヲ土人部落ニ驅リテ獵獲セシ毛皮ヲ直ニ其土地ニ於テ日要品ト交換ス就中毛皮商中廣ク買集ヲ爲スモノハ各方面ニ根據地ヲ作り之ニ商品ヲ置キ地方住民ニ對シ之ヲ貸與シ豫約ヲ以テ買集スル等競争甚シキモノナリ管ニ他ヨリ入込ミタル商人カ毛皮買集ニ内

地村落ヲ漁ルノミナラス商工業會社、「チユウリン」商會ノ如キ大商店モ商品ヲ積マセ卸賣又ハ毛皮ト直接交換スル爲メ犬糞ヲ村落ニ向クルト云フ獸獵ノ厚薄ハ延テ直ニ住民ノ生活問題ニ影響ス蓋シ同州ノ住民ハ魚類ヲ捕獲シ自己ト犬ノ食料ヲ準備スルモノナルカ衣服日用品ノ購買力ハ即チ唯一獸獵ヨリ得ルモノナリ貿易ノ目的物タル毛皮ノ産額ヲ知ルハ興味アル事ニ屬スレハ本官始メテ「ペトロバウロフスク」ニ足跡ヲ印シタル明治四十年ト本年ニ於ケル同郡ノ獸獵産額對比セル數ヲ左ニ掲ケン

獸類名	明治四十年	明治四十四年	増減
熊	四二八	二七一	減 一五七
豺	一〇一	三八	減 六三
狼	二二	二七	増 五
狸	四七〇	二七〇	減 二〇〇
十字	一、四二一	一、三三三	減 八八
熊	三七	四四	増 七
黒色	一四	二九	増 一五
北極	八八八	一、二八二	増 三九四
狐(黒)	二	二	同
狐(白)	五六〇	七六八	増 二〇八
白貂	二八一七	二、八六一	増 四四
黒貂	三三三	二九二	減 四一
鹿			

右對比表ニ據レハ比較的低廉ナル獸ハ産額減退シ高價ナルモノハ増加ス殊ニ貂ハ何處ニ於テモ減少セシニ玆ニ増加ヲ見ルハ價格騰貴ノ關係上獵者ハ之ヲ唯一ノ目的トシテ濫殺スルニ由ルヘシ而シテ貿易ノ主眼の毛皮ハ貂ニシテ之ニ次クハ狐及白色鼬ナリ貂皮ノ相場ハ七十留乃至百五十留稀ニ千留ヲ超スモノアリ昨年冬ヨリ今年春ニ掛ケ波得堡、莫斯科ニ商店ヲ有スル「ボルリツ」商會ヨリ店員「ペトロフ」ナル者ヲ「ペトロバウロフスク」ニ差遣シ冬季毛皮ノ買集ヲ爲サシメタリ彼ハ「チユウリン」商會ト暗ニ競争シ買集リタル爲メ一般毛皮價格ハ昂騰シ殆ント未嘗有ノ高價ヲ呈シタリト當時同地ノ

「ペトロバウロフスク」市ノ商況並商舖

無線電信火災ニ遇ヒ復舊セサリシ爲メ「イルビート」年市ニ於ケル毛皮ノ相場同地ニ傳ハラサリシヨリ世界ノ相場ニ頓着
 ナク競爲シタルモノト見ユ「チユウリン」商會ノ如キ貂皮約二千枚買集シタル筈ナルカ何レモ大失敗ニシテ勢ナクモ十五
 萬留ハ損失シタルヘシト「ボルリツ」商會モ千枚近ク買集シタルヘキカ是モ損失ハ免カルヘカラサルモ「チユウリン」商會
 ノ如ク皮ノ品質ヲ問ハス取込ミタルニアラス充分皮ヲ吟味シ買入タレハ「チユウリン」ノ如ク損失ハ多大ナラサルヘシト
 ハ人ノ評スル處ナリシ店員「ペトロフ」ハ本官ト同船シテ「デジネフ」岬マテ往航シ各處ニ於テ毛皮ヲ買集シ居レリ露國人
 ノ争テ買集スルハ貂ト狐ニシテ普通ノ熊皮ノ如キハ殆ント買ハス是ハ唯一日本毛皮商向ナリ故ニ露國人ノ競争者ハナキ
 モ日本毛皮商間ニ競争アリテ徒ニ價格ヲ高ムルハ遺憾トスル處ナリ本官ハ我毛皮商ニ可成競争ヲ避クル様諭ス處アリタ
 レト實際問題トシテハ甚タ困難ナルコトヲ認メリ獺皮モ日本向ト云フヲ得ヘシ尙一般毛皮商ノ取引ヲ觀察スルニ意外ノ
 事實アルヲ發見セリ例ヘハ「籐皮馴鹿皮ナリ毛皮商カ之ヲ「ペトロバウロフスク」ニ於テ買入レ居ルハ輸出スル目的ニアラ
 ス北地ニ移出スルモノナリ同皮ハ「アナド井ル」以北ニ稀ニシテ彼地ノ土人「チユクチ」等ニ歡迎セラレ馴鹿皮ハ彼等ノ衣
 服ト器具ニ缺クヘカラス籐皮ハ之ヲ細ク裁シテ衣服ノ縁ニ縫ヒ付ケ一種ノ飾トス故ニ之ヲ携ヘ行ケハ有利ニ北極狐、海
 馬、海豹皮其他ト交換シ得ヘシ又北地ニ於テ交換セル海馬、海豹皮及同皮製ノ網ハ「ペトロバウロフスク」附近ニ乏シク
 高價ニ賣行クナリ海馬、海豹皮ハ靴用又皮綱ハ非常ニ丈夫ナルモノニシテ犬橋用又ハ舟ヲ繫ク網ニ使用ス
 左ニ最近沿海州々廳又ハ「ペトロバウロフスク」郡役所ニ於テ毛稅トシテ取立タル毛皮ヲ競賣セル價格ヲ示サン（賣賣ニ出
 毛皮ハ普通取
 引相場ニ依ル）

獸皮名	千九百九年	千九百十年	千九百十一年
貂	千九百留乃至	千九百留乃至	千九百留乃至
獺	四百留乃至	四百留乃至	四百留乃至
虎	四百留乃至	四百留乃至	四百留乃至
鼠	八十留乃至	八十留乃至	八十留乃至

獸名	八留(平均)	十六留(平均)	十八留(上等品)
狐(赤)	十五留乃至	十六留乃至	十八留(上等品)
十	十五留乃至	十六留乃至	十八留(普通取)
白	十五留乃至	十六留乃至	十八留(普通取)
熊	十五留乃至	十六留乃至	十八留(普通取)
河	十五留乃至	十六留乃至	十八留(普通取)
北極	十五留乃至	十六留乃至	十八留(普通取)

近年毛皮中著シキ騰貴ヲ來シタルハ普通ノ狐ナリ本官カ始メテ明治四十年「ペトロバウロフスク」ニ出張セル際ハ普通狐
 ハ八留ナリシカ昨今ハ十八留以上ニ達シタリ同皮ノ上等品ハ主トシテ婦人ノ冬外套裏ニ用ヒラレ中以下ノ品ハ多クハ他
 ノ色ニ染メラルハト云フ
 「ペトロバウロフスク」市ノ物價ハ一般高直ナルカ雜貨ハ浦潮ヨリ二三割高シ殊ニ高價ナルハ牛肉ト野菜ニシテ皆他ヨリ
 輸入スルモノナリ

品名	價格
牛	一斤(百九)
馬	一斤(百九)
人	一斤(百九)
玉	一斤(百九)

堪察加商工業會社

「ペトロバウロフスク」港ニ大棧橋ヲ有シ倉庫ヲ建テ運ネ異彩ヲ放ツモノ之ヲ堪察加商工業會社トス同會社ノ設立ハ千八百九十七年ニシテ臘臘獸獵業會社ノ後ヲ襲キタルハ千九百一年ナリ會社ノ資本金ハ金貨百萬留ニシテ其目的ハ政府ト特約シ「カマンドル」郡島及海豹島ニ於ケル臘臘、臘臘獸ノ獵業、オホツク「海、白令海及堪察加海ノ海灣海峽之ニ注ク諸河川、韃靼海峽及黑龍江同支流ニ於ケル各種ノ水産業ヲ經營シ且ツ臘臘製油及肥料製造ノ爲メ製造場ヲ設立シ其他各種ノ商業ヲ營ムコト又營業上必要ト認ムルトキハ堪察加ニ於ケル石炭ノ採掘ヲ爲スコトアリ右ノ特權ヲ享有スル代リ同會社ハ地方廳ノ命令ニ依リ官有貨物年ニ五千布度自己ノ所有汽船ヲ以テ順路無貨ニテ運搬スル義務ヲ有セリ又年ニ三回「カマンドル」郡島ト海豹島ニ貨物ヲ運搬シ之ヲ地方住民ニ販賣スル義務アリ然レトモ原價二割以上ノ利潤ヲ得ルヲ許サス同會社ハ堪察加半島ノ各所ニ出張所ヲ置キ毎年所有ノ汽船ヲ以テ商品ノ補充ヲ爲シ官設倉庫ヨリ拂下ケタル雜貨ハ同會社ヨリ之ヲ供給シ堪察加半島ノ商權ハ一ニ同會社カ掌握セリ一面ニ地方住民カ同會社ノ爲メニ生活上ノ安固ヲ得タルハ論ナキコトナルカ他方面ヨリ同會社ノ特權ハ競爭者ナキカ故ニ利益ヲ壟斷スル傾向アリ識者ヲシテ大ニ彼ノ跋扈ヲ憤慨セシメタリ然ルニ時勢ハ長ク彼ノ跳梁ヲ許サス近年殊ニ日露漁業協約締結後ハ日露ノ漁業者半島ノ沿岸ニ入り込ムト同時ニ地方住民ノ需要品ハ多少其船舶ニヨリ供給セラル、モノカラ同會社員ノ語ル處ニ據レハ會社ノ營業ニ影響スルコト少ナカラスト又最近ハ「チュウウリン」商會カ有力ナル商店「ペトロバウロフスク」市ニ開キ必要雜貨ヲ網羅シ販賣スルノミナラス仕入ノ注文ハ細大トナク引受ケ同商會ノ活動ハ人ノ注目ヲ惹クニ至リタレハ商工業會社ノ商業ニ影響スル處多大ナルヘシ然ラハ專業タル臘臘、臘臘獸獵ハ如何ト云フニ今ヲ距ル十年前以前同會社カ政府ト特約セル時代ノ獵獲ト今日ノ數ヲ比較スルニ三千頭以下ニ減少シ殊ニ日露戰爭後ハ海豹島ヲ削リ取ラレタルハ當初ノ如ク利益アラサルコトハ言ヲ俟

タス然ルニ昨年五月十九日巴府發刊「ブリアムリー」新聞ノ記事ニ據レハ同會社ノ年度報告ノ成績ハ最モ良好ニシテ資本金ニ對シ一割五分ノ配當ヲ爲セリト左スレハ同會社ノ利益ハ豫想外ナルモノナラン何トナレハ千八百九十九年五月二十八日勅許ニ依リ同會社カ漁業ニ手ヲ染メ大規模ノ臘臘製造、肥料乾燥機械並ニ製材機械ヲ「アワチヤ」灣ノ一部ナル「タリヤ」灣ニ据付ケ臘臘製造機械ハ一ヶ年其機械ヲ運轉スルヤ明治三十二年ノ漁業規則改正ニ遭ヒ外國勞働夫ヲ制限セラレ二ヶ年ハ其施行ヲ猶豫セラレタルモ三十四年ヨリ愈勵行セラレ、コト、ナリ廢業シ臘臘製造機械ハ東海岸「ウスチ、カムチャトカ」ニ移シタル儘今日迄運轉セシ其他ノ機械ハ「タリヤ」灣ニ据付ケタル儘依然タリ是ニハ少ナクモ百五十萬留以上ヲ費シタリト云フ且又日露戰爭當時所有汽船二隻ヲ拿捕セラレタルカ直ニ一汽船ヲ購ヒ「コーチク」ト前名ヲ襲ヒ米國ニ我橫濱ニ廻航セシメ爲メニ事業ノ縮少ヲ見ルニモアラス何等ノ痛痒ナキカ如ク活動シ居ルハ他ノ會社ニ見ルヘカラサルコトナリ而シテ近年昔日ノ如ク利益ナシト唱ヘ一割五分ノ配當ヲ爲スニ至テハ如何ニ曩年同會社事業ノ有利ナリシカヲ證明シテ餘リアリ（シリニシキ）ノ氏ノ堪察加及アナドキ旅行ト題スル著書ニ前代ノ會社ハ二十六割乃至四十割ヲ配當シタリトアリ同會社ト政府ト契約期限ハ本年四月ニ於テ滿了スル等ナリ千九百九年十一月三日浦潮發刊「ダリヨーカーヤ、アクライナ」ノ記事ニ據レハ同會社ハ清算スルト云フ本官カ本年「ペトロバウロフスク」ニ於テ開知シタル處ニ據レハ一ニ華盛頓ノ海獸獵會議ノ如何ニ據リ今後繼續スルカ否ヲ決定スル方針ナリト然ルニ千九百十二年三月十三日發刊沿黑龍江總督府半官報ノ記事ニ「曩ニ「カマンドル」群島トノ交通ハ堪察加商工業會社ノ所有船「コーチク」號ニ據リ持續セラレタルカ今ヤ同會社ノ農務省トノ契約ハ滿期ト爲リ既ニ同汽船モ賣却セラレタルハ義勇艦隊船ヲ以テ同群島トノ交通ヲ開カサルヘカラストノ問題起レリ」ト之ニ由テ察スレハ契約ハ繼續セサルモノナルヘシ

農事試驗所

「ペトロバウロフスク」市ヲ距ル四露里ノ地ニ千九百十年農事試驗所ヲ設ケリ總督ハ其經費ニ充テ州知事ニ一萬留ヲ支出セリ知事ハ其内四千留ヲ種馬牛豚、冬季飼養牧草、農具器械、種子等ニ五千留ハ建物ニ殘金ハ試驗所ノ雇人、煖房、點火費

等ノ經費ニ充テタリト云フ尙ホ本年十一月十九日發刊沿黑龍江總督府半官報ノ記事ニ據レハ總督ノ上申ニヨリ農務土地整理省ハ堪察加州ノ種牛購入費トシテ二千三百留ノ支出ヲ認可シタリト現時試驗所ニ有スルモノハ馬三頭、牝牛二頭、牡牛(種)一頭、綿羊十頭、山羊二頭、豚二頭、鷄三十羽、鶩十羽、家鴨十羽ナリ試驗所ノ成績ハ昨年時期後レテ着手シタルヲ以テ播種ハ試驗トシテ「ペトロバウロフスク」附近ト同市ヲ距ル三十露里ノ「ヤウオイコ」村ニ冬越ノ裸麥ヲ僅ニ蒔キ其他ハ翌年ノ畑作準備ト牧草刈ヲ爲セリト本官本年「ペトロバウロフスク」ニ在リタル時ハ殘雪處々ニアリテ未タ播種時季ニ至ラス歸途モ成熟期ニ達セザリシカ故ニ本年ノ試驗的播種物ノ成績ヲ知ル能ハサリシ

農事試驗所ノ成績ハ叙上ノ如クニシテ知ルヲ得サリシカ抑モ堪察加ニ農業ノ見込アルヤ否ニ至ツテハ氣候ノ關係上成熟豐東ナシトハ衆人ノ認ムル所ナルカ當局者ハ以テ俄カニ斯ル斷定ヲ下スヘカラスト爲ス蓋シ場所ト作物ノ加何ニ據リ成熟ヲ見ルヘキ根據アリテ現ニ堪察加住民等カ畑ニ作レル蕪、大根等ノ野菜ハ毎年成熟シツ、アリ且是迄此方面ノ住民ハ惰民ニシテ穀物ハ單ニ成熟セストノ速斷ヲ以テ之ヲ眞面目ニ播種試驗セシモノナシト本官思フニ薩哈噠島ニ於テスラ農業問題ハ地方ニヨリ結局勞力ヲ價ハストナスニ歸セルカ如ク堪察加ニ於テモ然ラン場所ト播種穀物ノ種類ニ依リ成熟スヘクモ詰リ其程度問題ニシテ寧ろ勞力ヲ他方ニ向ケ穀物ヲ買テ食スル方得策ニアラサルカ左ニ極東移民取扱ノ官憲ヨリ堪察加ニ探檢隊ヲ派遣シタル際ノ試驗的成績ニシテ千九百十年四月十三日發刊沿黑龍江總督府半官報ニ記載セル記事ヲ掲ケ參考ニ供セン

千九百八年「ペトロバウロフスク」附近「ボリシエレットク」、「クリユチ」及「フートル」ノ各村ニ開墾ヲ行ヒ翌九年ノ春左ノ試驗的播種ヲナセリ

五月八日「ペトロバウロフスク」ニ播種セシモノハ烏蘇里產及瑞典產大麥、瑞典、烏蘇里佛國燕麥冬越ノ裸麥「クレールエル」及「チモフエーエフカ」(牧草)ニシテ春ハ早ク初夏ハ甚タ乾燥シテ暑カリキ十月一日之ヲ檢セシニ各穀物ハ好ク成長シ成熟セリ尤モ穀類ノ量目ハ輕カリシ「クレールウエル」ト「チモフエーエフカ」ハ發生惡シク弗々成長セルヲ見タリ

五月十日「フートル」村ニ瑞典烏蘇里及佛國產燕麥ト瑞典及烏蘇里產ノ大麥並ニ冬越ノ裸麥ヲ蒔ケリ九月十五日之ヲ檢セシニ各穀物成熟セリ然レトモ甚不揃ニシテ成熟セサルモアリキ穀粒ノ滑カナラサル處ヲ見レハ寒氣ニ侵サレタルモノ、如シト

五月二十日「ボリシエレットク」邑ニ烏蘇里及瑞典產燕麥、烏蘇里及瑞典產大麥、蠶豆、馬鈴薯、玉菜、長蕪及胡瓜ヲ蒔ケリ五月十一日肥料ヲ加ヘタル畑ニ春蒔ノ裸麥、瑞典產ノ大麥ト燕麥五月二十日烏蘇里產燕麥、蠶豆、蕪、長蕪、人參、大根、胡瓜ヲ蒔ケリ而シテ九月二十日之ヲ檢セシニ各穀物ハ成熟スル點ニ達セリ(九月五日第一回ノ寒氣攝氏零度以下三度ニ達ヘリ)麥稈ハ好ク成長セリ然レトモ穀物ハ成熟セザリシ野菜ハ中等ノ成績ヲ擧ケタリ玉菜ハ可ナリ好ク卷キ蠶豆ハ唯瘠セタル莢斗リ胡瓜ハ發生セザリシ

五月二十日「クリユチ」村ニ瑞典產燕麥、地方產ト瑞典產大麥ヲ蒔キ五月二十五日玉菜ヲ苗床ヨリ畑ノ畝ニ移植セリ九月二十五日之ヲ檢セシニ各穀物ハ成長ノ外觀好ク殆シト充分ノ成熟ニ達セリト尙ホ參稽ノ爲メ「クルイニシ」技師ノ報告ナリト云フヲ掲ケンニ曰ク「千九百九年交通省及「リヤブシンスキー」ノ兩探檢隊ハ堪察加ノ地質、氣象等ニ關シ確定的ノ意見ヲ發表セサルカ兩探檢隊ノ意見ハ大體左ニ一致セリト即チ堪察加ヲ殖民スルニハ半島ノ中央一帶即チ中央山脈ノ東西アルノミ五十度ヨリ北部ト「オホツク」海ニ沿フ西海岸ハ農業ヲ起スニ適セス何トナレハ土地カ到ル處泥炭ヨリ成リ蘚苔ニ蔽ハレ濕潤且地下ハ永久結水スレハナリ殖民地ニ適スル地域ハ「カムチヤトカ」河口ヨリ上流七百露里ノ流域ニ限ルト

本年六月十一日發刊半官報ノ記事ニ據レハ農務局ヨリ堪察加農事試驗所ノ維持費並ニ一般州内ニ於ケル農事ニ關スル措置ヲ採ラシムル爲メ一萬三千留ヲ州知事ニ支出シタリト

本官堪察加ノ各著書ニ就キ著者ノ意見ヲ綜合スルニ「カムチヤトカ」河ノ上流ハ中央山脈ト東海岸ニ走ル山脈トヲ以テ包圍セラル、ニ由リ他ノ地方ト氣候ヲ異ニシ所謂大陸的ノ氣候ヲ有スルカ故ニ農業ノ見込アルハ此地ニ限リ其他ハ全然見込ナシト云フニ歸着ス即チ如上探檢隊ノ結論ト一致ス農事試驗所ノ試作結果ハ果シテ他ノ地方モ成熟ノ見込立ツヤ今後

堪察加移民

堪察加移民ノ起原ヲ釋スレバ東部西伯利總督「ムラウイヨフ」カ千八百五十二年ニ二十五家族ヲ移殖シタルヲ其嚆矢トス當時「ムラウイヨフ」總督「アワチャ」灣ニ足跡ヲ印スルヤ極東防禦ノ根據地ハ他ニ之ニ勝ルノ好適地ナシトノ決意ヲ定メ所謂北門ノ鎖鑰トシテ「ベトロバウロフスク」ヲ軍港ト爲サンニハ其地方生産ノ穀物ヲ以テ供給シ一面ニ「アヤン」街道ヲ開鑿シ驛遞村落ヲ設ケ「ヤクーツスク」市ト「オホツク」ヲ聯絡シ郵便旅客ノ遞送ヲ開キ半島トノ交通ヲ開クヲ以テ劈頭ノ急務トセリ同總督「ベトロバウロフスク」ヨリ歸途「ベトロフスキー」伯ニ送リタル書ニ「堪察加ニ於ケル農業ハ或地方ヲ除キ見込アルノミナラス豊富ナル成熟ヲ豫期シ得ヘシ第一ニ三百家族ヲ「アワチャ」灣附近ニ移シ第二ニ牧畜並ニ菜圃兼業者四百家族ヲ「ポリシエレット」附近並ニ「アワチャ」灣ト「ポリシエレット」間及「カムチャツカ」河ノ上流ニ尙ホ二百家族ハ「カムチャツカ」河ノ上流ヨリ河口ニ至ル兩岸ニ移殖スルノ要ヲ認ム若シ急速一時ニ移殖セハ一家族ニ付馬牛各二頭及「イルクツク」ヨリ堪察加ニ至ル食資トシテ四百五十留ヲ要スヘシ然レトモ十年計畫ヲ以テスレハ最初ノ三年ハ如上ノ費用ヲ要スルナランカ(即チ一千家族ニ付四十五萬留)其後ニ至レハ堪察加ニ於テ穀物ヲ得ラルヘク詰リ少ナクモ五分ノ一ハ輸入品ヨリ安ク得ラル、モノト認レハ移住ニ對スル總費額ハ半額ニ減スルコトヲ得ヘシ」云々堪察加半島ニ穀物カ成熟スルヤ否ヤハ彼總督ハ「ベトロバウロフスク」ニ於テ蔬菜ヲ見タルヨリノ推測又「アヤン」街道ヲ開鑿スルノ經費モ豫メ調査シタルニアラス想像的ナリシ然レトモ何事ヲ問ハス一大事業ヲ起スニハ之ニ伴フ多少ノ犠牲ハ豫期セサルヘカラストノ決心ヲ以テ常ニ勇往邁進シタル同總督ノ行動ハ即チ此點ニモ發揮セラレ千八百四十九年軍港ヲ「オホツスク」ヨリ「ベトロバウロフスク」ニ移シ千八百五十二年ニ農民二十五家族ヲ半島ニ二百二家族ヲ「アヤン」街道ニ移殖セリ而シテ其結果如何ト云フニ當時ノ公報ハ其好成绩ヲ報セシモ民間ニハ續々反對ノ報アルヨリ總督ハ特務官吏「ウオルコンスキー」ヲ派遣シ其事實

ヲ調査セシメタリ然ルニ初年ハ勿論次年モ播種穀類成熟セス移民ハ孰レモ糧食ニ缺乏ヲ告ケ官ノ給與ヲ仰キ加フルニ移民間ニハ「チフス」瘧血病ヲ發シ家畜ハ「マイ」川汎濫ノ爲メ牧草ニ缺乏ヲ告ケ多クハ斃死シ開墾ハ地質上困難等ノ事情アリテ彼等自營ノ途立タス「ウオルコンスキー」ト共ニ派遣セラレタル技師ノ復命ニ據レハ「アヤン」街道開鑿ハ十五萬留ヲ要ストノ見込ナリシ總督ハ已ムナク不成功ノ移民ヲシテ隨意他ニ適當ト認ムル地ニ更ニ移住スルコトヲ許可シ「アヤン」ノ車道問題ハ遂ニ廢案トセリ

爾後一方ニ「ベトロバウロフスク」軍港ハ千八百五十六年黒龍江下流「ニコラエツスク」ニ移サレ一時繁榮ヲ來シタル堪察加ハ再ヒ荒寥落寞ノ地ト化シ殆ント千八百九十九年頃迄ハ世人ニ閑却セラレタリ然レトモ時勢ノ推移ハ堪察加ヲシテ何時迄モ睡眠セシムルヲ許サズ殊ニ最近日露戰爭ハ彼ヲ覺醒セシムヘキ刺戟ヲ與ヘタリ即チ千九百九年沿海州ヨリ割キ堪察加ヲ獨立ノ州ト爲シ一面ニ極東移民政策ハ可成堪察加州ニモ移住セシメント獎勵スルノ結果約半世紀餘ヲ隔テタル本年更ニ同地方ノ移民ヲ見ルニ至レリ本官本年堪察加北部視察ノ爲メ便乗セル義勇艦隊履成都府號ハ此移民ヲ乘セ行ケリ其家族三十七家族男女總員百八十四名牛馬約七十頭此移民ハ黒龍州ヨリ移リタルモノナリ彼等ノ代表者昨年堪察加ニ渡航シ移住地ヲ選擇シタルモノナリト云フ同移民ハ純露國人ニアラス「モロカーネ」又ハ「スタロウエール」ト稱シ一種正教トハ異ナル宗教ヲ信シ喫煙セス飲酒セス舊習ヲ墨守シテ一團結ヲ爲シ普通人民ト近接スルヲ好マス勞力ヲ客マスシテ勤勉スルヲ特色トス然レトモ正教徒ヨリ擯斥セラル、モノカラ曾テ歐露ヨリ人煙稀薄ナル黒龍州ニ移住シタリシニ今ヤ黒龍州モ昔日ノ如クナラス周圍ニ移民入り込ミ來レルヲ嫌忌シ更ニ人煙稀薄ノ堪察加ニ移住ヲ企テタルモノナリ堪察加ノ廣漠ニシテ周圍ノ煩累ナク魚類ト獸類トニ富ムヲ見込ミタル「モロカーネ」二十八家族(百五十人)ハ「タリヤ」灣「カザク」岬附近ノ沿岸ニ「スタロオブリヤトツイ」九家族(三十人)ハ「バラツンカ」川ノ支流「チーハヤ」川口ニ落着キタリ本官ハ移民ノ上陸スル狀況ト移住地ヲ視察スル爲メ我乘船ノ「タリヤ」灣ヲ巡航スルト聞キ「ベトロバウロフスク」ニ上陸ヲ見合セ同灣ヲ巡航シ實況ヲ詳ニセリ當時我六月十四日「タリヤ」灣ノ沿岸ハ未タ處々ニ殘雪アリテ寒冷皮膚ニ粟ヲ生シ更

ニ春色動カス滿眸荒寒落葉妻子ヲ率ヒタル移民上陸スルモ雨露ヲ凌クヘキ小舎スラナク一同上陸ヲ躊躇セルモノ、如シ本官「ベトロバウロフスキ」郡長ニ彼等ノ上陸セサル理由ヲ問ヒタル處彼等ノ間ニ議論起リ斯ル處ナランニハ我々移住シ來ラス昨年探検者ノ報告トハ大ニ一致セサルモノアリ此儘引返スヘシトノ提言ヲ爲スモノアリテ協議中ナリト本官ハ如何ニ決スヘキヤト傍觀シツ、其夜ヲ經過セリ然ルニ翌日ハ前日ト正反對ニ珍敷晴天旭日ノ登ルト同時ニ暖氣ヲ生シ昨日ノ寒冷ハ何レニカ去リテ沿岸ニ露宿スルモ敢テ耐ヘ難キニアラスナリタレハ忽チ彼等ヲシテ心氣一轉セシメ斯クテ我乘船ハ移民ノ家族牛馬等ヲ揚陸シ「ベトロバウロフスキ」港ニ歸還セルカ其後ノ狀態ニ就キ九月十四日發刊沿黑龍江總督府半官報ニ掲載セルアリ移民ハ一着土窟的ノ土盛小舎ヲ築キ菜圃ヲ開墾シ其種子ハ「ベトロバウロフスキ」農事試験所ヨリ供給ヲ受ケタリ然レトモ夏季ノ天候不順ナリシ爲メ畑作ハ豫期ノ如クナラス行政官ハ新移民ノ爲メ「タリヤ」灣ノ漁業者ニ彼等ノ捕獲魚ヲ買ハシムルコトヲ交渉シ傍ラ捕魚ニ從事セシム不幸ニシテ蛙鱉ノ來游少ナク八月ニ「モロカーネ」人等ハ一萬尾「スタロオブリヤトツイ」等ハ約八千尾ヲ百尾ニ付六留ノ約ヲ以テ賣渡セリ「モロカーネ」人等ハ牛馬ヲ僅ニ有スルカ如上ノ試験所ハ試験トシテ綿羊、山羊、鶏及蜜蜂ヲ蕃殖セシムル爲メ彼等ニ與ヘリ尙ホ新移民ヲ保護スル爲メ行政廳ハ官衙用薪材ヲ彼等ニ限リ請負ハシムルコト、セリ其他牧草刈場ヲ「ベトロバウロフスキ」ノ附近ニ與ヘ刈リタル牧草ヲ市ニ賣却スルニ便ナラシム新移民ハ熱心ニ自己ノ經濟ヲ整備シ或者ハ既ニ家屋ヲ建築スルニ至レリ「タリヤ」灣ト「チーハヤ」川ニ移住シタル輩ノ外三家族(十八)「ベトロバウロフスキ」市ニ移住シタルモノアリ是等ハ自己ノ馬ヲ以テ運搬業ヲ營ミ官設工事ノ材料ヲ運搬シ居レリ右ノ内三家族ト獨身者二名計十六名ハ歸還シ八月三日新ニ「トランジト」號ニテ浦潮ヨリ「ベトロバウロフスキ」ニ「スタラオブリヤトツイ」人十四條移住シ來リタリト

本年十二月六日發刊ノ半官報ニ「アワチヤ」灣ニ殖民村落ヲ置カル、ニ至リタレハ州知事ノ申立ニ據リ總督ハ今後同灣ニ漁區ノ新交付ヲ止メ三ヶ所以下ノ製魚區ヲ許シ殖民ノ漁獲セシ魚類ヲ買ヒ製造セシムル方針ニ改メタリト前記新移民ハ農牧業ノ傍ラ此保護ニヨリ漁撈ニ從事シ自營ノ途ヲ立ツルニ至ルヘシ新移民ノ狀況ハ叙上ノ如クナル因果シテ永久ニ落

着クコトヲ得ルヤ否ハ移民ノ最モ困難トスル當初一年ヲ經過シタル上ニ於テノミ判斷シ得ラルヘシ
尙ホ本年開キタル新村落ハ總督ニ感謝ノ意ヲ表スル爲メ「ゴンドチイエフスコエ」村ト命名セシト云フ

「タリヤ」灣

「タリヤ」灣ハ「アワチヤ」灣ノ一部ニシテ「ベトロバウロフスキ」港ト正反對ノ位置ニ在リ其距離約十哩灣内廣ク水深モ相當ニ深ク船舶ノ錨泊ニ適ス又陸地ハ平坦若クハ緩傾斜ノ地多ク「ベトロバウロフスキ」ニ比シ大市街ヲ設クルコトヲ得ヘシ故ニ堪察加州ヲ置キ州知事ノ駐在地ヲ定ムルニ當リ「タリヤ」灣ヲ開キ其沿岸ニ官衙ヲ建設スヘシトノ議起リ其利害ニ關シテハ大ニ考究セラレタルモノナルカ結局「ベトロバウロフスキ」ニ州廳ヲ置クコトニ決定セリ蓋シ「ベトロバウロフスキ」港ハ港内狹隘ノ嫌アルモ一面ニ滿山樺ト赤楊トヲ以テ蔚蒼タル丘陵ヲ有スル他面ニ天然ノ沙嘴突出ヲ以テ風波ヲ防キ船舶ノ通路ハ二個ノ船舶並行シ能ハサル程ナルモ港内ノ水深豫想外ニ深ク二千餘噸ノ船ヲ棧橋ニ繋留シ得ルヲ以テムラウイヨフ將軍カ嘗テ世界廣シト雖モ之ニ匹敵スル港ナシト一驚ヲ喫シ忽チ「オホツク」ヨリ軍港ヲ之ニ移シタルコトアル歴史ヲ聯想セシム又一面ニ同方面ハ建築材料ニ乏シクシテ從來ノ住民カ多大ノ費ヲ投シ建築セル家屋ヲ有スル今日「タリヤ」灣ニ新ニ州廳ヲ置クハ情實ノ上ヨリスルモ之ヲ許サ、ル處アリタルナランカ而シテ「タリヤ」灣ノ著名ナルハ曾テ「クリミヤ」戰爭ノ際英佛同盟艦隊カ當時ノ露國軍港「ベトロバウロフスキ」ヲ砲撃シタル際英佛艦隊ハ此「タリヤ」灣ヲ根據地トシタルト又同盟艦隊ノ司令官「ブライス」提督カ指揮ヲ過リ自殺セシ其死骸ヲ同灣ノ沿岸ニ葬リタルコト是ナリ紀念ノ十字架アリ表面ニハ英國提督「ブライス」紀念ノ爲メ千八百八十二年九月四日巡洋艦「アフリカ」之ヲ建ツ裏面ニハ千八百五十四年八月二十日乃至二十四日「ベトロバウロフスキ」市攻撃ノ際戰死セシ佛國及英國人紀念ノ爲メトアリ尙又近ク同灣ノ名世人ニ知ラレタルハ堪察加商工業會社千八百九十九年五月勅裁ヲ經テ大規模ノ罐詰製造及肥料乾燥機械并ニ蒸氣仕掛ノ木挽機械ヲ同灣ノ沿岸ニ据付ケタルニ在リ(詳細ハ堪察加商工業會社本部ヲ參照スヘシ)本官今回其製造場ヲ一覽シタルニ肥料乾

燥機械ハ其儘ニ拋棄シアリ其生産力ハ一晝夜ニ七十五噸ノ肥料ヲ製シ得ルモノナリト木挽機械ハ取寄セタル儘其當時据付ケノ運ニ至ラサリシモノ、如シ

「モルジョーワヤ」灣ト鱈漁業

「モルジョーワヤ」灣ハ「ベトロバウロフスク」港ヲ距ル北ニ八十二哩（シブンスキー）ニ在リ日露漁業協約ニ「インレット」トシテ露國ニ留保セラレタル「ベチエウインスカヤ」入江ト殆ント背合セノ位置ニ在リ或地圖ニハ同灣ヲ示サ、ルカ北ヨリ南ニ深ク灣入シ約二千尺ノ山岳ヲ以テ圍繞シ水深ハ十五乃至十七露間最モ岸ニ近キ處ニテ五露間アリ頗ル安全ナル港灣ナリト認ム灣ノ最奥部ニ小川アリ露國漁業者「グルシエツキー」會社ハ同灣ヲ租借シテ鱈漁ヲ經營シツ、アリ納屋ヲ小川ノ側ニ建テ日本形ノ三羽船ニ日本漁夫各四、五名ヲ乗セ毎日遠ク灣口ニ出テ延繩ヲ以テ鱈ヲ釣リ來ル鱈ハ鹽藏シ肝ハ油ニ煎熬シ内臟其他不用部分ヨリ「ベ」粕ヲ製造ス三羽船ノ遠ク灣口ニ出ルニハ帆ヲ以テシ又無風ノ際ハ小蒸汽ニテ曳船セリ右三羽船ハ五哩ノ遠クニ航スルモノナルカ其必要ハ灣内ニテ釣ル鱈ハ小形ナルカ故ナリト日本漁夫ノ雇ハレ居ル數ハ約七十名ナリシト抑モ「グルシエツキー」會社ノ許可條件ハ露國人河川漁業ノ例トモ又一般日露漁業者ノ準スヘキ漁業規則ニ據リタルモノトモ異ナル點アルヲ認ム本官ハ之ヲ當該官憲ニ質サント考ヘタレト萬一本官ノ質疑ハ一ノ抗議ト誤解セラレンカ毎年七十名ノ日本人ハ出稼ノ口ヲ失フコト、ナルカ故ニ寧ロ默シテ他日之ト同一ノ漁業ヲ我國民ニ起サシムル好個ノ材料トスヘク留保ス

「ウスチ、カムチャツカ」

「ウスチ、カムチャツカ」ハ堪察加東海岸ニ在リ「ベトロバウロフスク」ヲ距ル二百八十五哩「ウスチ、カムチャツカ」トハ「カムチャツカ」河ノ河口ト云フ義ニシテ河口ヨリ約十露里上流ニ同稱ノ村アリ又其河口ハ北緯約五十六度七分東經約百

六十二度三十五分ニ在リ河口ハ河流ト海波トニ據リ毎年多少變化ス現時ノ河口ハ舊時ノ河口ヨリ約五露里余西南ニ走セ海ニ入り之ニ沿フ左岸ノ沙嘴遠ク突出セリ河口ニ對シ淺瀬アリ河口ノ水道最モ淺キ處三尺河ニ入レハ十二乃至二十四尺アリ河口ヨリ左右ノ兩岸ハ沙濱ノ平坦地ニシテ各約二十露里モアラシカ左ノ岬角ハ「カムチャツカ」岬ニシテ約千二百尺ノ山岳アリ此突角ヲ以テ「ウスチ、カムチャツカ」灣ヲ形成ス同灣ヨリノ展望西北遙ニ「シウエリユチ」火山（四九、五）ト西ニ方リテ第一ノ高峰「クリチエフスカヤ」火山（三六、四）雲際ニ聳（噴火セル狀壯快ナリ）「カムチャツカ」河ハ堪察加半島唯一ノ大河ニシテ源ヲ「ガナル」村附近ノ分水嶺ニ發シ其長サ一千露里ヲ算シ後者ノ高山ヲ繞リテ東ニ走セ河口ヨリ約十露里ノ處ニ於テ一轉シ西南ニ向テ海ニ入ル其轉回スル處ニ「ウスチ、カムチャツカ」邑アリ（此邑ヨリ海岸ニ至ル河幅五百十六露間）同邑ニ向テ東ヨリ「チルビチエ」湖「カムチャツカ」河ニ合シ海ニ注ク同湖ハ東七、八露里ニ至ルマテハ一ノ支流ニシテ夫ヨリ東北ニ向テ廣カル大湖水ナリ海豹ノ多ク棲ムヲ以テ其名アリ「ウスチ、カムチャツカ」邑ハ其戶數約十七戶人口約二百余此住民夏ハ自己ノ食糧ノ爲メ漁撈ヲ營ミ冬ハ山ニ入り狩獵ヲ爲ス

「カムチャツカ」河ハ堪察加半島ノ大動脈ヲ爲シ内部ノ運輸ノ便ヲ助ク同河ハ三尺五寸ノ吃水ヲ有スル船ナレハ四百五十露里ヲ通航シ得ヘク其上流筏ナレハ尙二百五十露里ヲ航行シ得ヘシト云フ其沿岸處々ニ村落アリ其數十七個村ヲ算ス人口男女千九百二十人其物資ハ同河舟筏ノ便ニ依リ運搬ス「ウスチ、カムチャツカ」灣ハ海路物資供給汽船ノ碇泊地トシテ樞要ノ位置ヲ占ム地圖ノ上ヨリ觀レハ寔ニ良灣ノ如クナルモ實際ニ於テハ然ラス同灣ハ西南ニ向テ開放セラレ、カ故ニ些ノ風アルモ忽チ狂瀾ヲ起シ殊ニ岸打浪ノ激烈ナルコト豫想外ナリ本官ハ本年往復共同地ニ寄航シ河口ヨリ東北約十露里ニ碇泊シタルカ荷役ノ出來ル時ハ甚タ勢ナク陸揚積荷ノ困難驚クヘキモノアリ我乘船ニ有スル義勇艦隊ノ解舟ト人夫朝鮮人ハ到底其用ヲ爲サス漁場ヨリ日本漁夫ト三羽船ヲ借り靜穩ノ時機ヲ見斗ラヒ揚陸セリ而カモ解舟ハ殆ント毎回捲輻ニテ岸ニ捲キ上タル手數ヲ爲サ、ルヘカラス河口ハ岸打浪一層甚シト云フ約十年前佛國ノ名譽領事スノ一氏堪察加商工業會社ノ「プロゾーロフ」等カ河口ニ於テ逆卷クニ浪ニ小蒸汽ヲ轉覆セラレ溺死シタル慘事ヲ回想セリ本官ノ乘

「モルジョーワヤ」灣ト鱈漁業「ウスチ、カムチャツカ」

船ハ河口ヨリ約十露里ノ地ニ一部分陸揚ゲシタルカ之ヲ繼續スル能ハス己ムヲ得ス錨泊地ヲ河口ヨリ東北約二十露里ニ替ヘ揚陸セリ此處ハ比較的靜穩ナリシ「ウスチ、カムチャツカ」邑ニ揚ル貨物ハ遠クナリ且ツ運搬機關ナル車馬ヲ有セサルカ故ニ己ムヲ得サル外ハ此地ニ揚陸セスト云フ

漁業ノ關係ヨリ觀タル「ウスチ、カムチャツカ」ハ現時重要ノ場所タリ「カムチャツカ」河ニ湖上スル魚類殊ニ營業ノ目的物トナル蛙、紅鱒ノ如キ實ニ豊富ナルモノナリ春季解氷ト同時ニ第一ニ湖上スルハ「チャウイチャ」(譯の)ニシテ之ニ次キ紅鱒來ルカ故ニ六月初旬海ニ網ヲ建ツ七月中旬ニ時知ラスト稱スル蛙來リ八月下旬ヨリ銀蛙來リ九月初旬ニ漁撈ヲ終ル如何ナル理由カ鱒ナシ本年本官ノ同地ニ在リタル際海ノ漁區ハ河口ヨリ右岸ニ二ヶ所(二百四十二號)左岸ニ五ヶ所(二百四十四號、二百四十五號、二百四十六號)前者ハ堤清六租借シ(本年一ヶ所ハ製約ヲ解除セラル)後者ハ「デンビー」商會ニ屬シ尙河内ニ三ヶ所アリ一ハ河口ヲ距ル七、八露里ノ島ト「ウスチ、カムチャツカ」邑ノ附近上流ト河口ヨリ左岸河内八、九露里ニ一ヶ所アリ前者二ヶ所ハ露國漁業者「クラマレンコ」後者ハ同「ビリチ」ノ租借ニ係ル昨年「デンビー」ノ海建網一ハ三千二百石他ハ二千七、八石ヲ收獲セリト本年本官往航ニ寄航シタル時ハ紅鱒ノ時季ニシテ相應ノ漁獲アリタルカ歸途寄航ノ際ハ夏鮭(時知)ノ時季ナリシカ甚タ少ナク昨年ニ比シ約五分ノ一ナランカト云ヘリ同地ハ銀蛙多ク湖上スル處ナルカ故ニ其漁獲ヲ見ナレハ本年ノ結果ヲ判斷スル能ハサリシ

罐詰製造機械三ヶ所アリ其内一ハ河口ヨリ上流右岸ノ端ニ据付ケアリ是ハ堪察加商工業會社ノ所有ニシテ曾テ「タリヤ」灣ヨリ移シタルモノ今ニ一回モ運轉セズニハ堤清六ニ屬シ三ハ「ビリチ」ノ所有ナリ而シテ「ビリチ」ノ經營セル罐詰事業ハ英國人トノ共同ニシテ蒸釜六個ヲ有ス一晝夜ノ製罐高二萬余個ト聞ク製品ハ倫敦向ニシテ鱒のすけ及紅鱒ヨリ製造ス自己ノ漁場ヨリ漁獲スル同魚丈ケニテハ機械ヲ十分運轉シ能ハサルニ依リ「デンビー」、「クラマレンコ」漁場等ヨリ契約ニ據リ買入レツ、アリ本年本官歸途寄航ノ際ハ原料ニ缺乏ヲ來シ機械ハ一時運轉ヲ中止シ居レリ

「ノウオ、マリインスキ」哨所ト夏季郡長駐在地

「ノウオ、マリインスキ」哨所ハ「アナド井リ」河口兩岸ノ相迫リタル「アレキサンドル」(北緯六十四度四十四分三十三秒)ニ在リ地質ハ砂土ヨリ成リ哨所人家ノ裏手ニ「カザアチヤ」稱スル小川アリ之ヲ隔テ、丘陵起伏シ小川ヨリ上流ノ「アナド井リ」(岸)ハ展望ノ限界絶壁ニシテ「イウコフ」ト稱スル山アリ夫ヨリ灣入スル所ハ砂濱ニシテ更ニ峻崖トナリ「ミハイル」山アリ對岸ノ「オプセルワーチー」岬ハ東北ヨリ連亘セル丘陵ノ盡頭ニ在リテ絶壁ヲ以テ河ニ臨ム「ノウオ、マリインスキ」哨所ハ千八百八十九年ニ置カレ「アナド井リ」郡長ハ夏季駐在地ニシテ冬季郡長ハ七百露里上流ノ「マルコウオ」邑ニ駐在ス「アナド井リ」郡ノ住民ハ「マルコウオ」邑其他「アナド井リ」河ニ沿ヒタル村落ニ住シ其物資ノ供給ハ最近殆ント全部海路ニ仰クモノニシテ夏秋季各一回定期船官私ノ貨物ヲ積載シ此「ノウオ、マリインスキ」ニ寄航ス郵便發送受授又ハ貨物引取等ノ爲メ郡長ハ夏季哨所ニ出張ス本年ハ露曆六月十九日到着セリト本官郡長「スクリヤレンコ」ト會見シ種々ノ談話ヲ交エタリ郡長ノ出發スルヤ殆ント同時ニ上流村落ノ商人仕入ノ爲メ毛皮貨物ヲ携ヘ「ノウオ、マリインスキ」ニ來リ定期船ノ碇泊セル間ハ商賣取引盛ニ行ハレ殆ント年市ノ觀ヲ呈ス同地ノ附近ニハ樹本ナク殊ニ建築材料ハ遠ク上流ヨリ運搬セサルヲ得サル爲メ家屋ト名ヲ下シ得ヘキモノ數戸ニ過キス總數天幕ヲ合セ約三十戸モアラン郡長ノ出張所スラ隘屋ニシテ他ハ皆戰時狀態ノ如ク天幕ノ野營生活ナリ約一露里ヲ距ル地ニ土人「チュクチ」ノ小舎四、五戸アリ住民ハ冬季「マルコウオ」邑等ニ引上クルヲ以テ四季通シテ住スルモノハ五、六戸ニシテ殆ント番人的ノモノナリト云フ「アナド井リ」河ハ舟筏ノ便アリ上流村落ニ物資ヲ供給シ得ル點ニ於テ重大ノ意味ヲ有スレト惜ムヘキハ結氷セザル間甚タ短ク且ツ殊ニ大欠點トスヘキハ「ノウオ、マリインスキ」哨所附近ハ強風多クシテ揚陸困難ナルコト是ナリ同河ノ南北ニハ左程連亘セル山脈ヲ見ス然ルニ同河口ハ宛モ兩山脈ノ切レ目ノ如ク風ノ唯一通路ト見エ一度吹キ始ムルヤ少ナクモ五日間多クハ一週間以上連續的ニ吹クヲ常トシ殊ニ多キハ東北風ニシテ同風吹キ始ムルヤ河ノ急流ハ一層ノ勢力

「ノウオ、マリインスキ」哨所ト夏季郡長駐在地

ヲ加ヘ陸ト碇泊汽船ノ交通ハ全然杜絶ス船ハ河内五乃至七露間ノ深サニ而カモ岸近クニ碇泊シツ、アリテ斯ノ如キハ他ニ類ヲ見サル不良ノ碇泊洞ナリ左ナキタニ風ナクモ「アナド井リ」河急流ニシテ干満ノ頂點ヲ利用シ辛フシテ陸ト交通ス鮮舟ヨリ落チ溺死セルモノ珍ラシカラス實ニ皆懸命ノ交通ノ若クハ貨物揚陸ヲ爲スモノニシテ危險極マルト云フヘシ郡長ハ同哨所ニ定期船ノ寄航ヲ待チ毎年毛皮稅ニ取立テタル毛皮ヲ携ヘ來リ競賣ス本年本官同地滞在中七月十六日其競賣ヲ執行セリ（アナド井リ「チユコトスキ」兩郡ノ海陸產物ノ部參照アレ）競賣ノ手數料ハ買人ヨリ四分賣人ヨリ三分徵收スト聞ク「ベトロバウロフスク」ノ毛皮競賣手數料トハ多少ノ差アリト聞クカ儘附記ス

同哨所ニ別項ニ記スル如ク無線電信機ヲ裝置セラル、コト、ナリ本年ヨリ着手アリ本官滞在中其機械又ハ之ニ要スル分解家屋等運搬アリ其裝置所ハ小川ノ裏面ニ起伏スル丘陵ニ土地ヲ撰定セラレタリ明年竣成通信ヲ開始セラルヘシ

米國商「スウエンツエン」商舖

「アナド井リ」河口「ノウオ、マリインスキ」哨所ニ異彩ヲ放テル商舖アリ米國商「スウエンツエン」ナル者同國人タラシタ一ニルナル者ノ後ヲ襲キ商業ヲ營ミツ、アル是ナリ現時モタラシタ一ニルハ全然關係ヲ絶テタルモノニアラサルカ如シ彼ハ千八百九十五年ノ頃商業ヲ營ムノ權利ヲ沿黑龍江總督ヨリ得タリト云フ地方住民ノ需要品ヲ廣ク供給スルカ爲メ地方住民ハ生活ノ便宜ヲ得ツ、アリト雖モ一面ニ彼ニ潤澤ナル資金ヲ以テ商業シツ、アレハ他ノ露商ハ到底之ニ對抗スルヲ得ス彼ノ勢力ハ地方產物ヲ一手ニ買占ルアリテ彼ニ營業權ヲ與ヘタルハ專賣權ヲ與ヘタルト一般ニシテ其弊ノ頗ル大ナルモノアルヲ思ハサルヘカラス千九百八年ノ半ヨリ「ルスカヤ、コーシカ」ト稱スル「アナド井リ」海灣ノ入口ニ在ル沙嘴ニ土人「チユクチ」ヲ相手トセル壯大ナル商品倉庫ヲ建テリ之ニ彼等ノ嗜好品ヲ網羅貯藏シ一面ニ「チユクチ」數名ヲ番頭ニ雇入レ同番頭ハ商品ヲ携ヘ「チユコトスキ」半島ノ土人部落ヲ廻リ有ユル毛皮ヲ商品ト交換シ來ル計畫ニシテ抑モ「ルスカヤ、コーシカ」ニ土地ヲ撰定シタルハ同地カ「チユクチ」ノ重要ナル通路ニ當リ且ツ「チユコトスキ」半島

ヨリ「アナド井リ」ノ「ノウオ、マリインスキ」若クハ「マルコウオ」邑ニ日用必需品ヲ求メニ赴ク關門ナルヲ以テ此ニ彼等ヲ擁シテ彼等ノ携ヘ來ル貿易品ヲ押ヘントス斯クノ如クニシテスウエンツエンハ「アナド井リ」方面唯一ノ毛皮買集者トナレリ之ニ反シテ土人ヲ相手トスル露國ノ商人ハ資本ノ上ヨリ土人ノ嗜好品ヲ網羅シ置クヲ得サレハ顧客ハ皆米國商ニ取ラル、有様ナリト（千九百九年十月四日「ダリョーカ」本官ノ乘船カ「アナド井リ」灣ニ於テ流水ニ封鎖セラレ動キモナラサル際スウエンツエンノ雇小蒸汽「セツドン」(Siddon) 米國ヨリ「アナド井リ」ニ航セントテ同シク流水ニ圍繞セラレ我船ノ側ニ來リタルカ船體ノ小型ナル丈ケ流水間ヲ縫航スルコト容易ナルヲ以テ我船ヨリ先キニ見ヘスナリタリ又「シーウルフ」(Sea-wolf)ト稱スル小帆船石油發動機ヲ備フルモノ其流水間ヲ縫航シ來リタルカ其大膽ナル驚クニ堪ヘタリ畢竟此危險ヲ冒ス所以ハ露國定期船ノ來ラサル前ニ目的地ニ達シ毛皮ノ買集ニ先鞭ヲ着ケントスルニ在リ無監督ノ地方ニ商品ヲ輸入スル誰レカ「ラム」酒ノ如キ密輸入ナキヲ保センヤ

「アナド井リ」郡村落井ニ人口

「アナド井リ」地方ヲ「ギジガ」郡ヨリ分離シ郡ヲ置キタルハ千八百八十七年ニシテ初期ノ郡長ニ任命セラレタルハドクトル、グリネウエツキー氏ナリ（千八百八十九年）同氏ハ赴任後二ケ年ヲ經テ「アナド井リ」氣候ノ犧牲トナリ千八百九十一年夏「マルコウオ」ヨリ「ノウオ、マリインスキ」哨所ニ向テ河ヲ下ル途中死シ其後ヲ襲キタルハ現時ノ沿黑龍江總督ゴンダツチーナリ同氏ハ傍ラ人類學研究ノ目的ヲ以テ好テ極北邊陲ノ地ニ赴任シ三ケ年ノ星霜ヲ郡長トシテ地方ノ行政ニ執掌シ管内ヲ縱横ニ跋渉シテ人種風俗ヲ研究シ人類學界ニ貢獻シタルノ多大ナル彼ノ著書ニ據リ知ルヲ得ヘシ爾後交迭ヲ重ネ現時ノ郡長ハスタリヤレンコト云フ千九百九年沿海州ヲ割キ獨立ノ堪察加州ヲ置カル、ヤ茲ニ「アナド井リ」郡ヲ割キ「チユコトスキ」半島ニ同名ノ郡ヲ新ニ置カレタリ

「アナド井リ」郡（チユコトスキ）ノ人口ハ千八百九十七年露西亞全國人口調査ノ際計上シタル數ハ七千四百九十六人男三千八百四

米國商「スウエンツエン」商舖 「アナド井リ」郡村落井ニ人口

十二人女三千六百五十四人降千九百七年ノ公報ニ據レハ同年二月一日ノ現在ハ一萬二千八十四人ニシテ「マルコウオ」邑ノ人口ハ三百十
一人ナリ異人種ハ遊牧ノ民ニシテ馴鹿ト共ニ轉住スルヲ以テ統計ハ正確ヲ期シ難シ例ヘハ一ニ千九百七年ノ異人種ハ
一萬千七百七十三人トアルカ千九百一年沿海州統計鑑ニ據レハ其數一萬二千四百八十人トアリ又千九百二年一月一日ノ現
在異人種ハ八千六百一十一人トシテ左ノ如ク之ヲ細別セリ

- 「チユク」 六千五百五十八人
- 「アイワンツ」 千二百五十八人
- 「カヤヤキ」 二百四十人
- 「ユカバール」 二百十人
- 「トングラス」 二百一人
- 「チユロツ」 百六十人

本官カ「ノウオ、マリインスク」ニ於テ「アナドナリ」郡長ト會見シタル際尋ネタル處ニ據レハ「アナドナリ」郡ハ「チユコ
トスキ」郡ヲ合セ約一萬五千人アリト答ヘタリ

「アナドナリ」郡ノ露國人村落(十四)ヲ紹介センニ本官ハ「アナドナリ」河口ノ「ノウオ、マリインスク」外上流ハ視察スル
ヲ得サリシヲ以テ多少古キ嫌アリト雖モ同地方ノ如キ左程著シキ變化ナキカ故ニゴングッチー氏ノ郡長タリシ際調査セ
シモノヲ彼ノ著書(「アナドナリ」河ニ沿フ村落ノ報告千八百九十七年刊行地學協會雜誌ニ掲載アリ)ニ據ニ左ニ摘録シ參稽ニ資セン

「エローボリスキー」村ハ「マルコウオ」邑ヨリ七流約百八十露里「アナドナリ」沙ノ左岸ニ在リ(「エローボリスキー」川「アナドナリ」河
千八百八十二年ニ置カル岸ハ稍高ク直徑三四「ウエルシヨ」ノ落葉松繁茂ス毎年春河水汎濫ノ際ハ天井又ハ樺ノ如キ
物置若クハ舟ニ避難ス結氷開ク時ハ河岸五乃至八露里間崩レ流ル、コトアレハ早晚同村ノ建物ハ奥ニ移スコト來ルヘシト
人 家 十三戸(此内ニ禮拜堂ト)
人 口 五十三人男 二十七人
女 二十六人

- 人 口 五十三人男 二十七人
女 二十六人
- 橋 犬 六十六頭

村民ハ皆露國人化シタル土人ニシテ露語ヲ話シ祖先ノ語ヲ知ラス然レトモ「チユクチ」人ト交通頻繁ナルヲ以テ「チユコ
ツト」語ヲ解ス冬季十月ヨリ四月マテ殊ニ十二月ヨリ二月ニ至ル間ハ「チユクチ」「ラムート」「チユワンツ」等馴鹿ヲ
率ヒ該村附近ニ遊牧スルヲ以テ村民ハ鹿肉ヲ求ムルヲ得且ツ附近ノ河ニ魚類多ク千八百九十四年ニハ七月十日ヨリ漁撈
ヲ始メ鮭三千尾冷凍シ八千九百尾ヲ乾燥シ貯藏セリ(中流以下)獸類モ附近ニ多シ鼠ノ多キ年ハ一層多シト同年毛皮獵業ハ
赤狐二十七枚、三色狐五枚、雜三枚、木鼠三十二枚、白色鼬三十八枚ヲ獲タリ(中流ナリ)別項貿易ノ部ニ記スル如ク當村ニ一
月下旬ヨリ二月初旬ニ掛ケ年市ノ貿易開ケ「マルコウオ」邑民其他土人等輻輳ス土人ト交換貿易ノ行ハレタル高ハ貿易
ノ部ヲ參照スヘシ

「アシヨルキノ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ上流約二十露里(冬季定マリ)「アナドナリ」河ノ左岸ニ在リ岸ハ稍高ク赤楊ノ小
木及柳ノ類繁茂ス毎年春河水汎濫ス

- 人 家 十 戸
- 人 口 二十七人男十三人
女十四人
- 橋 犬 四十一頭

千八百九十一年七月九日ヨリ漁撈ヲ始メ九月十五日ニ至ル中流以下ノ漁獲ニテ鮭六千四百尾乾燥シ三千七百尾冷凍セリ
ト又毛皮獵業ハ同年赤狐五十七枚、三色狐四枚、黑狐一枚、北極狐二枚、雜五枚、白色鼬二十四枚ヲ獲タリト云フ
「ソルダートウオ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ上流約十二露里(冬季)「アナドナリ」河ノ左岸ニ在リ同岸ハ高ク赤楊ト柳ノ類
繁茂ス同村ノ附近ニハ建築材ニ適スル白楊ト丸葉楊アリ

- 人 家 九 戸
- 人 口 四十三人男二十二
女二十一人
- 橋 犬 五十七頭

「アナドナリ」郡村落並ニ人口

千八百九十四年七月九日ヨリ漁撈ヲ始メ九月十五日至ル鮭四千七百尾ヲ乾燥シ三千七百尾ヲ冷凍セリ(中流以下) 獸獵ハ赤狐三十六枚、三色狐三枚、北極狐五枚、熊四枚、白色鼬二十七枚、野生馴鹿五十三枚(中流ナリ)ヲ獲タリト

「ザ、マルコフコイ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ上流約百五十露間「アナド井リ」河ノ支流「マルコフカ」川ノ左岸ニ在リ(「マルコフカ」川「アナド井リ」河ニ合流スル僅ニ上流) 同岸ハ高ク赤楊ト柳ノ類繁茂ス建築材ハ十露里ヲ隔ツル地ニ求メサレハ無シ

人 口 二十二男十三人女九人
家 戸 八
犬 二十四頭

千八百九十四年ハ七月九日ヨリ漁撈ヲ始メ九月十五日ニ至ル鮭千七百五十尾ヲ乾燥シ四千八百五十尾ヲ冷凍セリ(中流ナリ) 同年ノ獵業ハ赤狐三枚、三色狐一枚、熊一枚、白色鼬八枚、野生馴鹿十三枚ヲ獲タリト(中流ナリ)

「マルコウオ」邑 ハ「マルコフカ」川ノ「アナド井リ」河ニ合流スル地點ヨリ四百露間下流ノ右岸ニ在リ「アナド井リ」河口ヨリ七百露里岸ハ低ク赤楊ト柳ノ類繁茂ス本邑ハ「アナド井リ」郡長ノ駐在地ニシテ郡役所、寺院、禮拜堂、小學校、官設倉庫等アリ住民ハ官吏及僧侶ヲ除キ皆露西亞人化シタル土人ニシテ總人口三百四人(前記三百十一人トアルハ現時ノ官吏三家族トナリタルヲ含ム) 其人種別ヲ示セハ左ノ如シ

「チユロソツイ」	二十四家族	男七十人	女七十九人
「ユカギールイ」	九家族	男十七人	女十九人
「ラムーツイ」	四家族	男四人	女三人
「チユク」	三家族	男五人	女四人
「ギザギンスキーエ」平民	八家族	男二十六人	女三十三人

農民	二家族	男四人	女四人
官吏	一家族	男一人	女一人
僧侶	二家族	男六人	女十二人
哥薩克	四家族	男四人	女四人
商人 <small>(「ペトロワロフ」 「スク」其他ノ平民)</small>	三家族	男九人	女八人

「マルコウオ」邑露西亞人ナル者ノ淵源ヲ尋ヌレハ彼等ハ往時「アナド井リ」地方ヲ征服シタル哥薩克中此處ニ止マリ土人ノ婦女ト結婚シタル其後裔ナリト而シテ歲月ヲ經過スルノ久シキ途ニ露西亞人ノ容貌ヲ失ヒ土人ニ化シ「チユク」其他ノ土人ト面相ニ於テ何等異ナルナク祖先ノ語、信教及風俗ヲ稍存シ地方ノ自然的事情ニ依リ魚ヲ漁シ禽獸ヲ獵シ生存スルニ至レリ又一方ヨリ「チユロソツイ」、「ユカギールイ」及「ラムーツイ」等千八百四十五年代ヨリ漸次「アナド井リ」河ノ上流ヨリ魚類ヲ漁シ馴鹿等ヲ獵スル爲メ下流ニ轉住シ來リ自然露西亞人ニ化シタルアリ千八百六十二年「マルコウオ」邑ニ寺院建設セラレ、ヤ各種ノ人民ハ同邑ニ輻輳スルコトナレリト

「マルコウオ」邑ハ低キ海岸ニ配置セラレ、ヲ以テ春季河水汎濫ノ際ハ寺院ト二三ノ人家ヲ除キ外ハ皆浸水ス「ラバーズイ」ト稱スル高土間ノ物置ニ避難ス同邑ノ附近ハ現時赤楊、柳ノ類アルノミニシテ建築材落葉松ノ如キ近キハ已ニ伐リ盡シ「エリーボル」村ヨリ約五露里上流又ハ「マリコウオ」邑ヨリ上流約六十露里ヲ隔ツル地ニ求メサレハ之ヲ得ルコト能ハス依テ同邑ノ建物ハ白楊樹等ヲ以テ作り殆ント人家ハ就レモ二室ノ外ナク屋根ハ板ヲ以テ葺ケル家ハ官衙ト豪商ニ限リ其他ハ木皮ニテ蔽ヒ窓ノ如キ玻璃ヲ用ヒタルモノ殆ント稀ニシテ冬ハ氷ヲ以テ之ヲ閉チ夏季ハ鯨又ハ海馬、海豹等ノ膀胱皮ヲ以テ之ヲ張ル其貧窶ノ狀殆ント半穴居のナリ而シテ住民ハ夏季魚類ヲ漁シ馴鹿其他ノ獸類ト鳥類ヲ狩獵シ其肉ヲ喰ヒ其皮ヲ賣リ(千八百九十四年赤狐四十三枚、三色狐十一枚、北極狐一枚、野生馴鹿五十三枚、白色鼬二十七枚、熊七枚) 冬季ハ犬橇ヲ以テ運搬業(千八百九十四年積大四百三頭アリ)ト手職業ヲ以テ生活ス女ノ業ハ馴鹿皮ヲ滑シ之ヨリ「クフリヤンカ」ト稱スル衣服ヲ裁シ「トルバス」ト稱スル履物等ヲ縫フニ在リ右ハ自家男ノミ

「アナド井リ」郡村落並ニ人口

ナラス交換物ノ商品トナルモノナリ河ノ結氷開クハ六月上旬稀ニ下旬ニシテ其後ハ住民各四方ニ離散ス或者ハ家族ヲ卒
 ヒ下流ニ航シ七月中旬マテ漁撈シ同時ニ鳥類ヲ狩獵シ夫ヨリ歸村シテ鮭ノ湖上ヲ待ツ他ノ者ハ家族ト夏ノ住家ニ移リ魚
 干棚、小舟等鮭ノ漁撈ニ必要具ヲ修理シツ、漁撈ヲ營ミ三者ハ最後ノ降雪頃「マイン」川ニ行キ春ノ馴鹿ヲ獵シ河ノ結氷
 開クヤ家族ヲ迎ヒニ來リ獵獲セシ馴鹿ノ始末ヲ爲ス(千八百九十四年春五十六頭、夏五十七頭獵セリト)要スルニ住民ハ近クハ百露間遠キハ十二露里
 ニ出向キ思ヒ思ヒノ業ニ從事シ鮭ノ湖上ヲ待ツ抑モ鮭漁ハ住民自己ノミナラス樺犬ノ糧食ニ充ツルモノナレハ其漁獲ノ
 多少ハ直接生活問題ニ關係ス毎年多少ノ差アルヘキモ干魚ノ製造高約六、七萬尾ト凍魚約二三萬尾ヲ貯藏スト千八百九
 十四年ニハ五萬六千九百尾ヲ乾燥シ一萬六千六百尾ヲ冷凍セリト

漁具ハ馬ノ尾毛ニテ編ミタル差網、麻糸製曳網、笠ニシテ又粗朶ヲ打込ミ一種ノ築ヲ作り漁ス冬ヲ越ス魚類ハ「ウオストリ
 ヤク」「チール」「ネリマ」「ハリトン」「カニヨーク」及「ゴルブン」ニシテ三月ヨリ五月ニ至ル「マルコウオ」邑ヨリ下流約
 十二露里ノ處ニ多ク漁セラルル河ノ結氷開クヤ下流ヨリ湖上スル「シチユカ」「ネリマ」又僅ニ「チール」上網シ六月初旬
 頃河水ノ多キ時「マイン」川ノ合流點附近ニ「ネリマ」ヲ漁シ六月中旬河水ノ減シテ後下流ヨリ「ウオストリヤク」ト「ハリ
 トン」湖上ス六月下旬ヨリ「チール」ヲ多ク漁シ同魚ハ七月一杯湖上ス七月上旬ヨリ「ゴルブン」殆ント鮭ト同時ニ湖上シ
 少シク後レテ「ネリマ」現ハレ九月初旬マテ鮭ト同時ニ上網ス鮭ノ走り七月初旬ニシテ連續的ニ湖上セス八月初旬ヨリ多
 ク漁獲アリ而シテ九月中旬河ノ結氷スルマテ漸次減少シツ、上網ス九月中旬小鱈ノ現ハル、コトアリト

同邑ニハ貯蓄備荒的ノ倉庫アリ鮭百尾ヲ漁獲スレハ一人ニ付假令ハハ五尾宛夏季ノ馴鹿獵ヲ營ミタル者ヨリハ一尾ツ
 ヲト云フカ如ク醃集シテ冬季臨時ノ用途ニ充ツル爲メ之ヲ貯藏ス(千八百九十四年ニハ六千二百三十三頭ハ孰レノ家モ貯蓄セシ
 クナルヲ以テ其頃ヨリ必要者ニ貸與ス假令ハハ「ギジガ」ニ商用ノ爲メ旅行スルカ或ハ「アニユイ」ノ年市又ハ「ノウオ」、マ
 リインスキー」ニ赴ク等ノ如キ場合途中ニ購フヘキ樺犬ノ干魚ナキ時ハ此貯蓄倉庫ヨリ借入レ後之ヲ返附ス
 千八百八十三年「マルコウオ」邑ニ寺院監理ノ小學校開ケリ毎年授業ハ河ノ結氷季ヨリ翌年解氷スルマテ殆ント八ヶ月間

トス

官設倉庫ナルモノアリ住氏ノ日用重需品ヲ二ヶ年分宛貯藏シ之ヲ拂下ク(別項ノ同記事參照)

商店ハ小賣商五戸各種ノ營業鑑札ヲ受ケ營業スルモノ十人アリト云ツ

「アナド井リ」人ノ食物ハ第一ニ魚類ニ次クハ馴鹿肉稀ニ野禽トス冬季彼等ハ「ユーコラ」ト稱スル干魚夏ハ鹽ヲ加ヘス焚
 キタル魚ヲ喰フ干魚ハ時トシテ火ニ炙リ又ハ之ヲ焚クコトアリ生ノ魚類ヲ其儘食スルコトハ最モ彼等ノ好ム處ニシテ又
 凍魚ヲ削リ刺身ノ如クシテ食スルモ好物ノ一ナリ堪察加半島ニ於テ食糧ニ製造スル醃酵サセタル魚ハ「マルコウオ」邑ニ
 於テハ之ヲ製造セスト云フ馴鹿肉ハ之ヲ焚ク若シ蔭干シタル肉ナレハ生ノ儘食ス馴鹿ノ腦味噌、骨髓、軟骨ハ大好物ニシ
 テ生ノ儘之ヲ食ス氣候、寒氣酸酷ノ地ハ氣管カ自然ニ脂肪多キ物ヲ好ムヲ以テ馴鹿脂ヲ副食物トシテ一度ニ約一斤モ食
 スト住民カ魚ト鹿肉ヲ食スル量ハ貧富ト馴鹿獵ノ豊凶ニ關係スト雖モ又時季ニ據リテモ異ナル即チ春秋ハ鹿肉其主ヲ占
 ム中流社會ハ一般ニ一年ノ三分ノ一ハ鹿肉ニシテ其餘ハ魚類ヲ食スト云フヲ得ヘシト「オルス」氏ノ著書ニ其
 計算ヲ出セルアリ即チ一家族ヲ八人ト假定シ一ヶ月鹿七頭宛トスレハ五ヶ月ニテ計三十五頭一日ニ魚(鮭ヲ)七尾宛トスレ
 ハ五ヶ月ニ千六百四尾樺犬(立)一日一頭ニ付一尾トスレハ九ヶ月ニ三千三百五尾合計馴鹿三十五頭ト干魚四千三百
 六十九尾ノ貯蓄ヲ要ス漁獵間ノ月ハ削除シタルモノニシテ馴鹿ハ平均一頭三布度十五「フント」トス「マルコウオ」人ハ概
 シテ大食ニシテ普通一晝夜ニ少ナキハ三回多キハ五回食物ヲ焚ク魚ト鹿肉トヲ混シテ焚クコトアリ其副食物トシテ夏季
 準備セル草實ト野鼠ノ穴ヨリ得ルト云フ或植物ノ根「ベリヒ」及「マカラスイ」ト種スルモノヲ食スト云フ「マルコウオ」人
 ニ取リ必要缺クヘカラサルモノハ磚茶ニシテ他ノ人民ニ取リ難ト雖モ如キ關係アリ裕福ナルモノハ一日ニ五六回中等
 社會ハ二三回最モ貧困ナル者ハ高價ナル爲メニ(磚茶一枚一留五十哥時トシテ二留二十五哥二連ス)一晝夜ニ漸ク一回喫ス中等社會ハ茶ニ僅カノ砂糖
 (十哥以上)ヲ加ヘ喫スルヲ得ルモ貧民ハ斯ル費澤ナルコトヲ許サレハ砂糖ナシニ喫ス麵粉ヲ食スルコトハ官吏僧侶及
 二三ノ商人ニ限り而カモ其量タルヤ僅少ナリト麥粉ハ「ギジガ」(マルコウオノ邑)ヨリ商人カ自家用ニ僅カ移入シ商品ニハ殆ン

「アナド井リ」部村落並ニ人口

ト仕入レズ最近ハ中流社會カ祭日等ニ外見ヲ飾ル爲メ麵麩ヲ食卓ニ供スルコト、ナリ其麥粉ヲ求ムルニハ商人ニ非常ノ價格ヲ食ラル固ヨリ外見ノ爲ナレハ來客モ殆ント僅ニ之ヲ食ス宛モ普通歐米人カ喫茶ノ際菓子ヲ食スルト一般ナリト云フ鹽モ最近ニ其味ヲ知リタルモノニシテ漸次其需要廣マリツ、アリ大體食物ニ鹽ヲ用ヒス之ニ慣レサルカ故ニ其使用量甚タ尠ナク普通吾々ノ爲メニ調理セルモノハ食シ得スト云フ交通不便ノ爲メ鹽ノ價格モ頗ル高ク一布度五留ニ達スルコトアリ魚ノ製造ニ鹽ヲ用ユルハ官吏外來ノ商人等ニ限ルト云フ

凡テ北方ノ住民カ酒ヲ好ムハ一般ノ現象ニシテ「アナド井リ」河流域ノ人民カ酒ヲ好ムモ實ニ甚シキモノアリ曾テ「アナド井リ」方面ニ移入スル途ハ「ギジガ」ヨリナリシカ「ギジガ」ノ郡長千八百九十三年頃迄酒ノ輸入ヲ禁シ住民ヲ保護シタリ然ルニ同年同地ノ住民國法ノ許スコトヲ知り團體ノ決議ヲ以テ酒店ヲ開クコトヲ請願シ遂ニ「ガギジ」ニ於テ酒ヲ賣ルコト、ナリタレハ爾來「マルコウオ」人モ無制限ニ酒ヲ移入シ得ルコト、ナリ延テ遊牧ノ土人モ其害毒ノ弊ヲ享有スルニ至レリ曾テ「マルコウオ」ヨリ「アニユイ」ノ年市ニ赴キタルモノハ歸途ニ「ヤクト」トスコエ州應ヨリ數量ヲ限リ酒ヲ買フコトヲ許サレ邑ニ携ヘ來リ借侶其他裕福ナル者ニ高價ヲ以テ之ヲ賣レリ酒ノ有ル限リハ互ニ往來シ殆ント全村醉人ヲ出ス就中好酒家ハ連日飲ミ續ケ祭日ノ觀ヲ呈シ酒盡クルヤ始メテ精進日ノ如ク寂寥ノ舊態ニ復ス飲ミ盡セハ如何ニ高價ヲ拂フモ之ヲ求ムル處ナキカ故ニ其器物ニ水ヲ入レ之ヲ飲ミ器物ニ酒氣ノアル内ハ之ヲ嗅キ居ルト云フニ至テハ酒ヲ好ム程度ノ甚シキヲ知ルヘシ同地方ハ酒ノ代用ニ「ムホモール」ト稱スル茸ヲ乾燥シ置キ之ヲ水ニ浸シ飲ムト云フ此茸ハ毒ヲ有スルカ故ニ一種ノ魔醉ヲ起シ快樂ヲ感ス本官ハ「コルサコフ」ニ於テ露國因徒カ附子ヲ乾燥シ之ヲ就眠ノ際少量宛食シ醉ヲ買フコトヲ知レリ即チ此類ナラン

「アナド井リ」河流域西部ノ地質殊ニ森林アル一帶ハ泥土ニシテ其下ニハ粘土若クハ砂土アリ森林ナキ地即チ郡ノ東部「ノウオ、マリインスク」附近ノ土地ハ砂土多ク處トシテ粘土交リト砂礫ノ地アレトモ農業ニ適セス郡長此處ニ蔬菜ヲ試作シタルコトアレト其効果ナカリシト「マルコウオ」邑附近ノ泥土ニハ燕ヲ蒔ケハ漸ク林檎大ノモノヲ得ルト云フ然レト

モ二三ノ者ヲ除ク外ハ之ヲ作ル者ナシ千八百九十四年馬鈴薯ヲ六「フント」蒔キ約四布度蕪茶七ニ一杯蒔キ約九布度收穫セシト蕪ハ中作馬鈴薯ハ中以上ノ作ナリト云フニ至テ推シテ知ルヘシ同邑附近ハ「チモフエー」エフカト稱スル牧草ニ似タル草繁茂シ其高サ約三尺ニ達スルアリテ牧畜ニ適ス然レトモ其範圍狹クハ牧畜ヲ盛大ニ營ムコト能ハス乳牛十頭位使用スルニハ十分ナラント「ノウオ、マリインスク」附近ニモ家畜ヲ僅ニ飼養スルニ足ルヘキ草アリト

「覆盆子」ウオジャニーツア（方言）「ブルスニク」（我國富士ノ麓ニ於テ富）「ゴルビーツア」（北海道ニ於テ之ヲ）ノ類ハ到處卑濕ノ沼澤ニ無盡藏ナリ赤キ「スモロー」ヂナ（灌木）「マルコウオ」邑ノ附近ニ多ク又處トシテ「アナド井リ」河ノ岸ニ在リ同邑ヨリ「ケドロー」ワヤ、カサト稱スル沙嘴ニ至ル黒「スモロー」ヂナト濱梨アリ覆盆子ハ「アナド井リ」河ノ上流ニ處トシテ之ヲ見ル假松ハ殊ニ同邑ノ附近前記ノ沙嘴ニ至ル間ニ多ク在リ其實ハ「アレヒ」ト稱シ露人之ヲ好テ食ス住民ハ叙上ノ草實ヲ食シ又冬季用ニ貯藏ス彼等ハ磚茶ト其草實ノ外植物的ノ食物ヲ食セサルカ故ニ殊ニ其草實ト假松ノ實ハ蔬菜ニ乏シキ地方ニ取リ壞血病ノ豫防ニ必要ナリト云フ

「ウ、パンノイ」村 ハ「マルコフカ」川ノ「アナド井リ」河ニ合流スル處「マルコウオ」邑ヨリ下流四百露間ニ在リ岸ハ稍高ク柳ノ類ト赤楊繁茂ス

- 人 家 十一戸
- 人 口 二十四人男十一人 女十三人
- 橈 犬 四十四頭

千八百九十四年中漁以下ナリト云フヲ以テ鮭四千尾ヲ乾燥シ千尾ヲ冷凍セリ獵業ハ赤狐十枚、三色狐一枚、野生馴鹿百三十五枚ヲ獵獲セリ

- 「アナド井リ」スカヤ、クレーボスチ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ下流約二十四露里（冬）在リ
- 人 家 五 戸

「アナド井リ」郡村落並ニ人口

人 口 十五人男八人
穉 犬 三十一頭

同村ハ十八世紀ノ末葉ニ商人「ウオロビヨフ」ナル者ニ依リ商業ノ目的ヲ以テ基ヒセラル「アナド井リ」河ノ右岸同河ト「マイン」支流ヲ聯絡セシムル處ニ在リ當時建物ハ數戸ヨリ成リ其周圍ハ木材ヲ城壁ノ如ク繞ラシ「チユクチ」ノ襲撃ヲ警戒ス「ウオロビヨフ」ハ番頭ト雇人ヲ此處ニ置キ自身ハ時トシテ來リ貿易ヲ監督セリ八月中旬太平洋沿岸ニ住スル「シヂヤチイエ、チユクチ」カ「バイダカ」舟ニ乘リ交換貿易ノ爲メニ此村ニ來ル其數二十隻乃至四十隻ニ達セリ此地ヲ「マインスカヤ、アルテリ」又ハ「アナド井ルスカヤ、クレイボスチ」ト稱セリ十九世紀ノ初葉ニ商人バラノフナル者政府ヨリ貿易ノ專賣特許ヲ受ケ此地ニ來リ千八百四十四年迄繼續セリ同年彼死シテ專賣業止ム村民ハ其當時「ギジガ」ヨリ移住セル平民及農民ナリ其後「ギジガ」及「カルイマ」地方ヨリ自由ノ貿易商來ルコト、ナリタルカ常住セサルヲ以テ建物殊ニ周圍ノ城壁ニ對シテハ修理ノ注意ヲ拂ハサリシ蓋シ其頃ハ漸次「チユクチ」モ敵對行爲ヲ現ハサ、ルコト、ナリタレハ警戒モ自然必要ヲ見サルニ至レルモノナリ且亦太平洋沿岸ニ亞米利加人現ハレ土人ノ必需品ヲ供給スルニ至リタレハ彼等モ年々同村ニ來ル數ヲ減セリ從テ建物ハ腐朽ニ屬シ住民ハ多ク「マルコウオ」邑ニ住リ殊ニ千八百四十四年ヨリ同村ニ在リタル僧侶モ千八百六十年代ノ初メ「マルコウオ」ニ移ルコト、ナリタレハ愈離散シテ僅ニ前記ノ人家ヲ殘スニ至レリ現時其要塞ハ何等ノ跡ヲ止メス城壁ノ一部ハ流失シ一部ハ住民燃料ニ之ヲ持チ去レリ

千八百九十四年中漁以下ニテ鮭二千五百尾乾燥シ五百尾ヲ冷凍セリ獵業ハ糶一枚、赤狐四枚、北極狐三枚、白色鼬十八枚、野生馴鹿五十三枚ヲ獲タリト

「ウ、ワカリーノイ、プロトキ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ下流約八十露里(冬)「マイン」支流ノ左岸「ワカリーナヤ」水路ノ合流口ニ在リ岸ハ高ク赤楊ノ小木及柳ノ類繁茂ス

人 家 三 戸

人 口 十一人男八人
穉 犬 十六頭

漁業ノ關係ヨリ云ヘハ同村ハ「アナド井リ」河流域中第一位ヲ占メ魚族多ク且肥滿セル地ナリト云フ千八百九十四年ノ漁獲高詳ナラス獵業ハ中獵ニシテ糶二枚、赤狐九枚、北極狐五枚、熊一枚、狼二枚、白色鼬四十五枚、野生馴鹿二百二十枚ヲ獲タリト

人 家 三 戸
人 口 十二人男八人
穉 犬 十一頭

「ウスチベーラヤ」村 ハ「アナド井リ」河右岸「マルコウオ」邑ヨリ下流約二百四十露里(冬)ニ在リ岸低シ

千八百九十四年同村ノ獵業ハ中獵以上ニテ糶五枚、赤狐十四枚、三色狐二枚、北極狐八枚、狼六枚、熊一枚、野生馴鹿四百十三枚ヲ獲タリト

人 家 一 戸
人 口 七人男五人
穉 犬 六頭

「ロウツイウイルガン」村 ハ「アナド井リ」河ノ左岸「マルコウオ」邑ヨリ下流約二百四露里(冬)ニ左リ岸ハ稍高クシテ赤楊ノ小木及柳ノ類繁茂ス

千八百九十四年同村ノ獵業ハ野生馴鹿八十二枚、赤狐二枚、糶一枚、北極狐三枚ヲ獵獲セリ漁業ハ同年鮭百尾ヲ乾燥シ二百尾ヲ冷凍セリト

「ウ、ウテーシコフ」村 ハ「アナド井リ」河ノ右岸「マルコウオ」邑ヨリ約二百八露里下流ニ在リ河岸ハ稍高クシテ樹木殆

「アナド井リ」村落並ニ人口

ント無シ

人 家 二 戸
人 口 十 人 男五 人 女五 人
橈 犬 十六 頭

千八百九十四年同村ノ獵業ハ野生馴鹿二百七十九枚、北極狐七枚、赤狐八枚、三色狐三枚、羆一枚、狼二枚、熊一枚ヲ獲タリ(中獵ナ)漁業ハ同年中漁ニテ百尾乾燥シ二百尾冷凍セシト

「エツイグイン」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ下流約二百十六露里ヲ距ル「アナド井リ」河内一ノ島ニ在リ島ノ地勢稍高ク柳ノ類ト赤楊繁茂ス

人 家 二 戸
人 口 十三 人 男八 人 女五 人
橈 犬 七 頭

千八百九十四年ノ獵業ハ野生馴鹿四百枚、北極狐二十六枚、赤狐二枚、羆一枚、狼一枚、熊一枚ヲ獲タリト(中獵ナ)「ツネニカアウ」村 ハ「マルコウオ」邑ヨリ下流約二百四十四露里(路ニ横ル)「アナド井リ」河内一ノ島ニ在リ島ノ地勢稍高ク赤楊ト柳ノ類繁茂ス

人 家 一 戸
人 口 五 人 男三 人 女二 人
橈 犬 五 頭

千八百九十四年ノ獵業ハ野生馴鹿百五十六枚、北極狐十枚、赤狐五枚ヲ獲タリト(不獵ナ)「ノウオ、マリインスク」村 ハ「アナド井リ」河口同河ノ右岸ニ在リ「マルコウオ」邑ヨリ下流約七百露里冬季ノ定マリタ

ル路ニ據レハ約四百七十露里ナリト

人 家 六 戸
人 口 三十三 人 男二十 人 女十三 人
橈 犬 六十六 頭(チユクチノ所屬十九頭、哥薩克ノ所有十八頭其他ハ官有ニ屬ス)

人口ノ内官吏一名哥薩克五名僧侶ノ婦人一名ト哥薩克ノ男兒一名ヲ含ム其他ハ露西亞人化シ洗禮ヲ受ケタル「チユクチ」ナリ村民ハ「アナド井リ」河ニ出入スル海豹ノ類ト野生馴鹿其他ノ獸類ヲ獵シ且ツ漁撈ヲ爲シ生活ス千八百九十四年ノ獵業ハ野生馴鹿二十三枚、海豹四十枚、大海豹九枚、北極狐白色五十六枚、同綠色一枚、赤狐一枚、羆一枚、ヲ獲タリ馴鹿ノ外ハ概シテ中獵ナリト同年漁業ハ六月二十九日ヨリ始メ橈犬ノ食糧トシテ二千尾ヲ乾燥シ五百尾ヲ冷凍セリ右ハ「チユクチ」ノ漁獵ニシテ哥薩克ハ同年北極狐三十六枚、赤狐二枚、狼一枚ヲ獵シ橈犬ノ食料ニ鮭八千尾ヲ「ユーコラ」ニ乾シ七千尾ヲ穴埋トセリ
同村ハ附近ニ樹木ナキヲ以テ燃料ハ流木ニ俟ツ(同村ノ詳細ハ別項、ノウオ、マ、リインスク、曙所ノ部参照)

「アナド井リ」郡役所々在地ノ交通状態

「アナド井リ」郡長ノ駐在地タル「マルコウオ」邑ハ「アナド井リ」河口ト同河水源トノ稍中間ニ在リ同邑ニ對スル交通路ニ三ツアリ其一ハ「ヤクトトスク」府ヨリ「ヤーナ」河ノ「ウエルホヤンスク」、「カルイマ」河ノ「スレドネ、カルイムスク」、「ニ」ジネ、カルイムスク」夫ヨリ小「アニユイ」川(カルイマノ支流)ノ「アニユイ」川ノ支流「フダヤ、ワダー」川ヨリ「アナド井リ」河ノ支流「ヤブロン」川ニ出テ
ハ「川ヨリ分水嶺ニ、三ヲ横斷シ大「アニユイ」川ノ支流「フダヤ、ワダー」川ヨリ「アナド井リ」河ノ支流「ヤブロン」川ニ出テ夫ヨリ本流ヲ下リ「マルコウオ」邑ニ來ル(千八百九十二年オルス「フイフ」氏ハ十二月十五日「ハバロフスク」市ニ到着セシト云フ)其二ハ「オホツク」海ニ瀕スル「ギジガ」ヨリ「ペンジン」灣奥ノ「ベルムスコエ、カリヤクスコエ」ニ出テ夫ヨリ「ペンジン」川ノ支流「プロドリナヤ」

「アナド井リ」郡役所々在地ノ交通状態

川ニ向ヒ「ウシカニ」ト「ウイチゲムスキー」ノ二山脈ヲ横斷シ「ベンジナ」ト稱スル處ニ出テ「ナリギムカ」、「オルロフスカヤ」、「メヂンスカヤ」ヲ經テ「マルコウオ」邑ニ到ル此通路里程約八百露里第三ハ「アナド井リ」河口ヨリ來ルモノ里程七百露里（定マリタルトキハ四百七十露里ニアリ）後者ハ夏舟筏ノ便アレト其他ハ三者共冬季犬橇若クハ馴鹿橇ニアラサレハ交通スル能ハス一般世間ニ使用スル馬匹ハ同地方ニ絶無ナレハ唯一犬ト馴鹿ニ頼ルノ外ナシ假ニ馬匹ヲ有スト雖モ堅雪トナラサル間ハ積雪ヲ行ク能ハス北方ニ於ケル唯一ノ交通機關ハ犬ニシテ凡テ北方人民カ犬ヲ飼フハ馬ヲ飼フト同一ツナリ其數ノ多少ニ依リ貧富ヲ測ル尺度ト爲ル

前記「ギジガ」ト「マルコウオ」間冬季交通ノ犬橇ニ要スル日數ハ片道普通十八日乃至二十五日「ベンジナ」川口ノ附近ニ在ル「カアメンスコエ」村マテ十二日乃至十八日「マルコウオ」ヨリ「ノウオ、マリインスク」即チ「アナド井リ」河口マテ十日乃至十六日「アニユイ」ノ年市場マテ「マルコウオ」ヨリ十四日乃至十八日途中吹雪遭遇スレハ第一ハ往復ニ四十日乃至五十四日第二ハ二十七日乃至二十九日第三ハ二十二日乃至三十四日ヲ要スト此旅行ニ殊ニ困難ヲ極ムルハ橇犬若クハ馴鹿ノ食物ナリ多クハ犬橇ヲ使用スルモノナルカ長途ノ旅行彼等ノ食糧（即チ「ユイコラ」ヲ稱スル干魚）ヲ携ヘ行クニハ特ニ夫レカ爲メ橇ヲ増サハルヘカラス然ルニ犬一頭曳ク力ハ荷物一布度乃至一布度半ヲ限度トシ普通十二頭ヲ橇一臺ニ繋キ曳カシムルモノナレハ橇ヲ増スト同時ニ其橇犬カ食スル物モ隨テ要スルモノナレハナリ比較的的交通ノ易キハ「マルコウオ」ヨリ「ギジガ」ニ出ルモノナリト其故ハ途中ニ「カリヤキ」人ノ部落アリテ多少犬ノ食物ヲ貯藏シ居レハ之ヲ買ヒ求ムルコトヲ得然レトモ「ベンジナ」灣不漁ノ時ハ彼等自身ニモ犬ヲ飼養スルニ要シ賣リ惜ミ仲々安ク賣ラス普通貨物ノ運賃ハ一布度ニ付三留ナルカ犬ノ食糧不足ノ時ハ此運賃モ騰貴スト云フ「アニユイ」ニ旅行スルニハ途中之ヲ求ムル處ナシ之ヲ携フルカ又ハ途中馴鹿ヲ買ヒ之ヲ屠リ犬ヲ養フノ外ナク爲メニ多クノ旅費ヲ要スト云フ「ノウオ、マリインスク」ニ出ルニハ夏途中「アナド井リ」河ニ於テ漁獲貯藏セシムルカ出發前途中マテ送り置クカノ方法ヲ以テシ「ノウオ、マリインスク」ニ着スレハ同地ニハ常ニ其貯藏ヲ有スト

「アナド井リ」河ノ融解ヲ俟テ郡長ハ舟ニテ「アナド井リ」河口ニ下ル之ニ十日乃至十二、三日ヲ要スシ「ノウオ、マリインスキー」哨所ニ於テ我七月中旬春季定期船ノ來ルヲ待テ郵便ノ受授郡役所又官設倉庫ノ貨物ヲ受取リ之ヲ舟ニ積ミ「マルコウオ」ニ送ル此舟ノ再ヒ來ルヲ待タス又我八月中旬秋季定期船ノ來ルヲ俟タスシテ郡長ハ同哨所ヲ引揚ケ「マルコウオ」邑ニ歸ル是カ漸ク「アナド井リ」河ノ結氷前ニ到着スルモノニシテ秋季定期船ノ來ルヲ俟テハ途中河ノ凍結ニ逢ヒ「マルコウオ」ニ歸着スル能ハスト實ニ僅カニ、三ヶ月間ニ長キ冬ノ準備ヲ爲スモノナリ此不便ヲ排除スル爲メ本年十月十五日發刊半官報ノ所報ニ據レバ九月二十七日大臣會議ニ於テ「アナド井リ」郡役所ニ發動機ヲ裝置スル小蒸汽船ヲ備ヘシムルコトヲ議セリ此提議ハ固ヨリ總督ニシテ彼ハ郡長トシテ曾テ三ヶ年間に職シ地方ノ事情ニ明カナリ秋「ノウオ、マリインスク」ヨリ「マルコウオ」ニ漕キ上ルカ犬ヲ舟ニ繋キ河岸ヲ曳カシムルニ約三十日間ヲ費スコト往々アリト云フニ至テハ其困難察スヘシ其案ハ二隻ノ被曳舟ト之ヲ曳ク發動機ヲ裝置スル小蒸汽ニシテ其費用二萬九千五百留ヲ計上セリ大臣會議ハ之ヲ必要ト認メ内務大臣ヲシテ議會ノ協賛ヲ經ル爲メ同會ニ提出ノ手續ヲ執ラシメタリト

「アナド井リ」河ト漁業

「アナド井リ」河ハ其源ヲ「スタノウオ」山脈ニ發シ其延長千六百露里餘「ヤローボル」ニ至ル間一見瀑布ノ如キ觀ヲ呈シ「ペリドン」ト稱スル水源ノ豐富ナル支川ト合シ「アナド井リ」ノ本流ハ八十露里間ノ河幅ニ達ス「マルコウオ」邑（郡長在り）上流七百露里ヨリ上流ハ水勢急流ニシテ「ヤローボル」ニ遡航スルハ至難ナリト此間ニ幾多ノ支川アリ孰レモ皆瀑布ノ如キ性質ヲ有ス河ノ兩岸ハ山岳ニシテ針葉樹アリ「マルコウオ」邑ニ近クニ隨テ森林ナシ同邑附近ノ河幅ハ百乃至三百五十露里間トナリ夫ヨリ漸次廣カリ場所ニ依リ五百乃至七百露里間アリ「マルコフ」邑附近ノ深サハ約十尺前後減水ノ時ト雖モ六尺以下ニ下ルコトナシ同邑ヨリ支流「マイン」川マテノ岸ハ低ク兩岸ノ奥ヨリ連亘シテ稍高キ山脈「アナド井リ」河ニ迫ル夫ヨリ支流「ペーラヤ」川ニ至ル間ハ左岸至ル處低ク右岸ハ河ノ附近處々低ク又沼澤地ニシテ近距離ニ高カラサル

「アナド井リ」河ト漁業

山脈起伏シテ河ト併行シ「ペーラヤ」川口ニ對スル邊ニ於テ更ニ河ニ迫ル「アナドネリ」河ハ殆ント其河口トノ中央ニ於テ「マイン」及「ペーラヤ」ト稱スル大支流之ニ合ス此支流ハ水源豐富ニシテ川幅ト云ヒ其急流ナルコト本流ト殆ント讓ル處ナク且ツ舟筏ノ便アリ(千八百六十六年露米電信會社ノ小蒸「アナドネリ」川ヲ通航シタルコトアリ)夫ヨリ「クラスナヤ」支流ニ至ル間ハ河幅廣ク一露里半乃至五露里ノ處アリ左程急流ナラス左岸低ク右岸ハ處々ニ「ボルボリ」山脈ノ一部斜坂河ニ迫リ兩岸處トシテ何等ノ植物ナク又處トシテ低濕ノ地ニ矮小ナル灌木或ハ楊柳ノ類アリ

「クラスナヤ」ト稱スル支流ノ合流點ヨリ下流兩岸處トシテ遠ク突出セル沙嘴アリテ天然の通航船ノ碇泊所タリ「アナドネリ」河ト此邊河幅廣キカ故ニ強風ノ際ハ高浪ヲ生シ地方ノ比較的大ナル舟ニテモ航行危險ナリ「アメリカンスカヤ」ト稱アル沙嘴ノ下流ハ流勢全ク緩ニシテ同時ニ海潮到達シ干満ノ爲メ儘カニ逆流アルヲ認ム夫ヨリ下流ニ向ツテハ次第ニ其影響ヲ多ク感スルコトナリ遂ニ「ノウオ、マリインスタ」(夏季郡長ニ駐在地)ニ達ス此ニ至ツテ河ハ兩岸ノ山岳丘陵ニ迫ラレ潮ノ干満ハ一日ニ二回アリ但シ其間隔ハ一定セス干満ノ差ハ數尺アリテ潮勢激烈殊ニ干潮ノ激流ナルコトハ十二個ノ欄ヲ備フル端艇ト雖モ中流ヲ通航スル能ハス中流ト沿岸ハ殆ント反對ニシテ中流力干潮ノ時ハ沿岸ハ尙ホ逆流ス

春期「アナドネリ」河ハ「マルコウオ」邑附近ニ於テ露曆五月一日頃ヨリ融解ヲ始メ五月二十日乃至六月一日ニ河ノ中流ニ於ケル氷開キ流出スト同邑住民ヂイヤチコフ氏ノ「アナドネリ」地方記録(黑龍江地方研究會ノ出版ニ係ル)ニ河開キノ日ヲ左ノ如ク記セリ

- 千八百六十六年 六月六日
- 千八百七十八年 五月十一日
- 千八百八十二年 五月十五日
- 千八百八十七年 六月四日
- 千八百九十年 六月一日

「ノウオ、マリインスタ」附近ノ氷ハ六月中旬マテ融解セサルコト稀ナラス同地附近ハ是迄六月五日ヨリ早ク開キタルコトナシト「マイン」支流ハ「アナドネリ」本流ヨリ深ク且ツ急流ナルカ故ニ多少「マルコウオ」邑附近ヨリ早ク氷開ラテ孰レモ河ノ開ク前ニハ二露里間以上氷上ニ水上リ氾濫ヲ來シ二三日ヲ經テ減水ス七月十日乃至十五日ニ至レハ河ハ舊態ニ復ス而シテ秋結氷ノ始マリハ九月五日乃至十日ニシテ同月下旬遅クモ十一月一日頃詰氷ト爲リ氷上ヲ行クヲ得ヘシト前記ヂイヤチコフ氏ノ記録ニ據レハ「アナドネリ」河「ハマルコウオ」邑ヨリ上流五百露里舟筏ノ便アリ其他支流ノ延長ト舟筏ノ便アル距離ヲ左ノ如ク記セリ

「アナドネリ」河ニ合スル支流ノ名稱	延長	小舟ニテ通航シ得ヘキ距離
「ペーラヤ」川	四百五十露里余	三百五十露里
「マイン」川	五百露里余	三百露里
「ウアゲンカ」川	三百露里以下	百露里乃至百五十露里
「シユナイヤ」川	約二百露里	六十露里乃至七十露里
「エリボン」川	約四百露里	二百露里
「ヤブロン」川	約三百露里	通航スルヲ得ス
「ベレド」川	約二百五十露里	約百露里

「アナドネリ」海ハ南「ナワリン」岬(北緯六十二度十四分)ト北「チユコトスキ」岬(北緯六十四度十六分)ヲ以テ形成シ「アナドネリ」海灣ハ南「グ」(北緯六十四度二十五分)ト北「ルスカヤ、コーシカ」ト稱スル沙嘴ノ聖「ワシリー」岬(北緯六十四度三十五分五十三秒)ヲ以テ成ル其沙嘴ノ突出セルコト約二十七哩一ノ入江アリ之ヲ「クリンコフストレームト」云フ深サ十二尺乃至二十一尺夫ヨリ約二十三哩ヲ航スレハ聖「ニコライ」入江ト稱スルアリ深サ約十七尺同入江ニ於テ東北西伯利會社カ砂金ヲ附近ニ發見シタルヲ以テ著名トナリ其沿岸ニ建物ヲ見受ケタリ同入江ニ對シ「ライド」淺瀬ト稱スル淺瀬アリ深サ三尺乃至五尺其北方水道ハ深サ平均シ安全ナル由ヲ以テ本官ノ乗船ハ其淺瀬ト入江トノ間ヲ航セリ「ザセレニエ」岬(北緯六十四度四十二分七秒)ノ附近ニ小嶼アリ「アリユムカ」ト

「アナドネリ」河ト流業

稱ス其南方ヲ廻航シ「ノウオ、マリインスキー」哨所ニ航ス餘リニ針路ヲ岸近ク取リタル爲メ同哨所附近ノ淺瀬ニ坐沙セリ同海灣ハ概シテ淺キカ如クナレト尙ホ測量セハ深キ水道ヲ發見スルヤモ計ラレス同灣ハ船餘航スルニ付「ルスカヤ、コ一シカ」沙嘴ニ並ヒテヨリ「ノウオ、マリインスク」マテ約三時間ヲ要ス

前記「アナドネリ」河口附近ト「アナドネリ」海灣ニ漁區ヲ租借スル露國漁業者三名アリ一ヲ「エリクソン」ト云ヒ其開始ハ明治四十一年ニシテ「ノウオ、マリインスク」附近聖「ミハイル」岬及「ネイマン」岬ニ漁區ヲ有ス(五漁區)二ヲ「グルシエツキ」會社トス四十二年開始シ對岸「オブセルワトチー」岬ニ漁區ヲ有シ三ヲ「ソーネト」云ヒ漁區(二漁區)ヲ「カンチャラン」ニ有ス

千九百九、十年兩年間前記漁業者ノ收穫セシ數量ヲ左ニ示ス
千九百九年度

甲、「エリクソン」ノ收穫高

- (一) 聖「ミハイル」岬漁區ニ於テ
 鮭九萬千六百十六尾 此量目一萬六千三十二布度
- (二) 「ネイマン」岬ノ上流ニ露里ニ於テ
 同八千二百三十四尾 此量目千四百四十布度
- (三) 「アナドネリ」河聖「ミハイル」岬ヨリ下流ニ露里ニ於テ
 同十五萬七百四十六尾 此量目二萬六千三百八十布度
- (四) 「アナドネリ」河口「ネイマン」岬ニ於テ
 同九千八百六十四尾 此量目千七百二十六布度八「フント」
 製造魚卵百三十樽 此量目八百二十一布度三十三「フント」

右ノ鮭ヲ樽漬ニ製造セシモノ 七 百 十 樽

日本風ニ製造セシ高 九萬三千八百九十尾

冷蔵セシ高 七萬三千六百九十九尾

「ホレリ」(やまめ)ノ冷蔵高 二千二百四十九尾

同 鹽 藏 五 十 布 度

乙、「グルシエツキ」會社ノ收穫高

「アナドネリ」河、「オブセルワトチー」岬ニ於テ

鮭二十七萬尾 此量目四萬五千布度

製造魚卵 千二百布度

丙、「ソーネ」ノ收穫高

「カンチャラン」川ニ於テ

鮭六千二百一十一尾 此量目千七十一布度

合計鮭九萬千六百四十九布度八「フント」

魚卵二千二十一布度三十三「フント」

千九百九年度

甲、「エリクソン」ノ收穫高

漁區五ヶ所ニ於テ

鮭 三十五萬七千六十三尾

「ガリツイ」(やまめ)ノ類 八千八百九十五尾

「アナドネリ」河ト漁業

右ノ鮭ヲ以テ製造セシ「シヨムガ」漬一萬千六百六十六布度

開キ漬

一萬四千三十六布度

冷蔵セシ高

二萬九千四百九十九布度

魚卵ノ製造高

八百四布度

乙、「グルシエツキ」會社ノ收穫高

鮭

二十四萬三千三百八十三尾

右ノ鮭ヲ以テ製造セシ「シヨムガ」漬三萬二千六百六十六布度

開キ漬

二百三十七布度

魚卵ノ製造高

九百六十五布度

丙、「ソーネ」ノ收穫高

漁區ニケ所ニ於テ

鮭

三萬二千五百七十尾

右ノ鮭ヲ以テ製造セシ開キ漬 五千三十二布度

魚卵ノ製造高

百二十布度

地方住民ニ取リ漁業ハ唯一ノ食資ヲ求ムルモノナルカ故ニ重大ナル意味ヲ有ス殊ニ住民自己之ニ據リ生命ヲ繫クノミナ
ラス地方唯一ノ交通機關タル冬季橋ヲ曳カシムル犬ヲ之ニ依リ飼養セサルヘカラス漁業彼等カ魚類ヲ捕獲スルハ宛モ播
種穀物ヲ收穫スルト一般ナリ「アナド井リ」河ニ棲ム魚族ハ純然タル川魚トシテ「ネリマ」、「チール」、「ムクスン」、「ハリウ
ス」(皆鮭科)、「ウオストリヤク」(不詳)、「シチユールカ」(頭部稜魚ノ如ク胸ハあめ鱗)、「ナリーム」(鱈ニ)、「ゴリボン」(不詳)、「カニョー
ク」(不詳)等アリ海ヨリ湖河スル魚ハ鮭、鱒(「ペーラ」支流)、「小鱒」(「ゴーレツ」、「マリマ」(後ノ二者ハ)、「あめ鱒」トス右ノ内「ウ
オストリヤク」、「ゴルボン」、「チール」及「ネリマ」ヲ白魚ト稱シ賞美スレト重ナル食資トシテ漁シ之ヲ「ユーコラ」ニ製造

シ貯藏スルハ鮭、鱒、「コーレツ」ノ類ニシテ之ヲ紅魚ト稱シ外來漁業者カ輸出ノ目的物ト爲スモ此紅魚トス

「マルコウオ」其他ノ住民カ前記ノ魚族ヲ漁撈スルニ使用スル漁具ハ左ノ如シ

- (一) 曳 網(網ヲ結フ綿糸ナキ爲メ麻布ヲ解キ之ヲ摺リ合セ)
- (二) 「セエトキ」(曳網(馬ノ尾毛ヲ合セ結ビタルモノト前記ノ糸ヲ以テ結ビタルア)ノ類(リ前者チ「ウオロシャ」イヤ)後者チ「ペレウイヤ」ト稱ス)
- (三) 「エー」(「ズ」類)
- (四) 「ザエズク」(「ズ」類)
- (五) 「メレ」(「メ」類(但シ糸網ヲ以テ二重ニ製シ)之ヲ前記ノ線ニ數個設置シ魚ヲ捕フ)
- (六) 「モル」(「ダ」類(我國ニ於テ製スルト同シキ前記ノ線ニ裝)置スルカ又ハ獨立ニ河中魚ノ多キ所ニ置ク)
- (七) 釣 鈎
- (八) 釣 リ 針

右二者ハ黒龍江ノ川建網ノ如ク一方岸ヨリ河ノ中流ニ向ケ細木ヲ打チ込ミ湖上魚ヲ遮ルモノナリ

前記ノ尾毛ヨリ製スル網ハ凍ラサルヲ以テ冬季水ヲ切り穴ヲ穿チ水下ノ漁撈ニ専ラ使用ス麻糸ヲ以テ製シタル(一)及
(二)ノ網ハ夏ノ漁具トス漁獲魚ヲ製造スルニハ概シテ三種トス(一)「ユーコラ」即チ干魚トス(二)「アルギーズ」ト稱シ穴
ヲ掘リ之ニ魚ヲ投ジ冬ニ至ルマテ醱酵セシム(三)時季ニ依リ氷凍セシム

漁季ハ露國ノ祭日「イリイナ」即七月二十日ヨリ九月十日乃至十五日ニシテ其盛時ハ八月一日ヨリ二十五日マテトス本
年本官ノ乗船露曆六月三十日「ノウオ、マリインスク」ニ着セシカ未タ「アナド井リ」河ニ鮭ノ湖上ヲ見サリシ然ルニ滞在
中七月五、六日頃ヨリ湖河始マリ(普通七月十日)潮ノ際「白海豚」カ鮭ヲ逐跡シ處々ニ潮ヲ噴キ出沒スルヲ見タリ「ノウオ、マ
リインスク」ヨリ「マルコウオ」マテ七百露里アレハ丁度七月二十日頃ヨリ漁撈ニ着手スルト云フニ符合セリ鱒ハ「ペーラ

「ヤ」支流ヨリ上流ニ遡上セス鮭モ「マルコウオ」邑ヨリ上流ニハ多ク遡上セス小鯨ハ九月十五日頃同邑附近ニ現ハル、コトアリト「ノウオ、マリインスタ」ニ於テ年々鮭ノ豊凶ヲ豫知スル所謂前徴ハ「アナド井リ」海灣ノ左岸ニ沿ヒ多ク湖河スル年ハ「アナド井リ」河ノ上流ト中流ニ多シ之ニ反シ右岸ヲ湖上スル年ハ少ナシト之ニハ次ノ理由アリテ多少根據アルモノト爲セリ「アナド井リ」河ノ右岸ヨリ「バリシチーヤ」ト「クラスナヤ」川同河ニ會合シ毎年同支流ニ多クノ魚散卵ノ爲メ湖上ス左岸ヨリ「アナド井リ」河ニ會合スル支川ナキニアラサレトモ不明ノ原因ニテ同支川ニ湖上スル魚散卵ナシト千九百六年度「アナド井リ」郡ノ露國住民殊ニ「マルコウオ」邑民ニテ漁獲シタル鮭ト鯨ノ高ハ五十五萬七千尾ナリシト鯨ハ多ク湖上セサルヲ以テ鮭其多數ヲ占ム

「アナド井リ」河ハ黑龍江ニ次ク大河ナルカ將來ノ漁業有望ナルヤ否ヲ觀察スルニ黑龍江ノ夫レニ比シ大體魚族尠ナキカ故ニ到底盛大ヲ期スヘカラサルモノノ如シ昨年ノ如キ上流ニ湖上セル鮭尠サクシテ各村居民殊ニ土人ハ飢饉騷ヲ爲シ慘狀ヲ演シタリト右ハ畢竟下流ニ於テ露國漁業者カ漁撈スル爲メ湖上セサルニ在リトシテ彼等ハ本年總督ニ漁區閉鎖ノ請願ヲ爲ストノ説アリ郡長モ之ヲ憂慮セリ果シテ前記三漁業者ノ漁獲カ如上飢饉ノ原因タリシカ俄ニ判斷ヲ下シ難シト雖モ若シ多少ノ原因ヲ爲セシナランニハ「アナド井リ」湖河魚ノ多寡推シテ知ルヘシ會テ三漁業者ノ入込マサル前地方住民ハ嚴格ナル意味ニ於テ漁具ト稱スヘキ物ヲ以テ漁撈シタルコトナク現ニ本官カ目撃シタル馬ノ尾毛網ノ如キニ、三間ノモノナリ之ヲ舟ナシニ岸ヨリ棒ニテ河ニ突キ出シ漁シツ、アリテ果シテ「アナド井リ」河ノ湖河魚幾許アルヤ何人モ之ヲ知ル道理ナシ單ニ無盡藏ナルモノト推測セシニアラサルカ本問題ハ今後數年ヲ經テ始テ解決ヲ見ルヘシ

「アナド井リ」郡ノ禽獸

「アナド井リ」郡ニ冬ヲ越ス鳥殆ント無シ之ニ除外ノアルハ白色ノ鷓鴣シロカ及白色ノ鷹トビアルノミ鷓鴣ハ到ル處ノ沼澤ニ之ヲ見ル諸鳥ノ渡リ來ルハ四月下旬ニシテ其先頭ハ白鳥ニ鶯ウグイス之ニ次クハ雁、鴨、鷓、鷓各及鶴是等ハ皆五月下旬若クハ六月

初旬マテ「マルコウオ」邑附近ト「アナド井リ」河流域ノ融雪地ヲ翔翺シ其後ハ沼澤ニ潜伏シ各巢ヲ作ル歸去ハ八月中旬若クハ下旬ヨリ初マリ九月上旬若クハ中旬ニハ殆ント其跡ヲ止メスト云フ
獸類、同郡内ニ最多キハ野生ノ馴鹿ニシテ殆ント他ニ其比類ヲ見サル程ナリ同群ハ年ニ二回春秋ニ北ヨリ南、南ヨリ北ニ行進ヲ爲ス其數實ニ夥シク通路モ殆ント同一ニシテ其時季モ亦同シ春ノ行進ハ牝鹿ニ據リ開始セラル未タ河ノ氷開カサル時ニシテ南ヨリ北ニ向フ其故ハ夏期北氷洋岸ニ近ツケハ南方ノ沼澤ニ於ケル如キ蚊虻ニ攻メラル、苦悶ナクシテ分婉スルコトヲ得レハナリ若シ何等理由ニ據リ交尾時期マテ「アナド井リ」河ヲ超ユル能ハサル牝鹿ノ一群ハ夏期己ムヲ得ス同河ノ南岸ニ止マルト云フ牝鹿ノ産スルト同時ニ此及蜚蠊出テ糞ヲ苦シムルコト甚シク彼ノ軟キ皮膚ヲ刺スノミナラス其軟毛中ニ卵ヲ置キ非常ナル苦悶ヲ與ヘ爲メニ憤ノ斃ル、コト尠ナシトセスト斯ル苦難ヲ避クル爲メ鹿群ハ豫メ北行スルナリ牝鹿ハ河ノ氷開キヤ否其跡ヲ遂ヒ北行ス歸途ハ牝鹿同道ニテ露曆八月六日頃(時トシテ)ヨリ引返ス春季北行スル牝鹿ハ之ヲ獵セス住民ハ春ノ牝鹿ト秋ノ牝鹿ヲ獵スルモノニシテ殊ニ秋ノ獵ハ住民ニ取リ生活上重要ノ意味ヲ有ス春秋ノ獵孰レモ河ヲ渡ル途中之ヲ殺ス愈渡河ノ期ニ近ツケハ住民ハ其數日前ヨリ各自舟ニ乘リ渡河ノ場所ニ來集シ之ヲ待合ス鹿群ハ大小一群トナリ河ニ飛ヒ込ミ渡リ越エントスソレト云フヤ獵者ハ舟ニテ漕キ寄セ擢ニ裝ヒタル鎗ニテ追跡シ之ヲ衝殺ス獵者ノ經驗ハ驚クヘキモノニシテ小舟ノ動搖スルニ係ハラス敏捷ニ一頭モ多カレト衝キ廻ハリ殆ント心臓ヲ一刺ニテ斃スト云フ殺サレタル鹿ハ沈マス河ノ流ニ從ツテ浮流ス同時ニ其共同者ハ二、三露里河下ニ於テ流レ來ル鹿ヲ拾フ群ノ大小ニ據リ殺ス數モ多少アルカ拾ヒ方ノ間ニ合サル程ハ徒ニ殺サスト云フ年ニ據リ増減アルヘキモ秋「アナド井リ」河ニ於テ約二千頭ヲ殺スト云フ之ニ用ユル舟ハ一種ノ小舟ニシテ最モ輕キヲ尊フカ故ニ些ノ中心ヲ失フコトアレハ轉覆ス毎年一人位溺死スルト云フ河ニ於テ獵スルノ外陸上山岳ニ於テ之ヲ銃殺スルコトアルモ其數ハ頗ル小數ナリト馴鹿肉ハ住民ノ食料ニ供シ皮ハ彼等ノ衣服ト爲ルノミナラス「チユクチ」其他ノ土人向重要貿易品タリ
大鹿ハ「アナド井リ」郡ニ棲マス稀ニ同郡ノ西南部ニ見ルコトアルモ「オモロン」川ノ上流ヨリ偶來ルモノナルヘシト云フ

羚ハ「スタノールウイ」山脈ト其支脈ニハ至テ渺ナク「ボルボリ」山脈ハ「アナドネリ」ノ支流「ベーラヤ」川ノ上流ニ之ヲ見ル
住民ハ之ヲ獵セス

木鼠ハ「アナドネリ」上流ノ針葉樹ニ棲ミ年ニ據リ多少ノ差アリ

「ゼムレロイカ」及「オウラージ」(土鼠ノ一種)ノ各種及野鼠ハ到ル處ノ澤ニ多ク殊ニ「アナドネリ」ノ河ノ下流ニ夥シト「アナド
ネリ」郡ニ棲ム赤色若クハ三色狐ハ此鼠ヲ以テ餌食トス然ルニ地下ニ二尺ハ到ル處永久結氷セルカ何ヲ以テ此鼠類カ自
己ノ食料トシ蕃殖シ地方ノ住民ニ狐ヲシテ重要貿易品タラシムルカ此毛皮ナカラシカ生活上日用品ヲ購買スル財源無カ
ラシム此ニ至ツテ同地方ノ鼠類ハ有益ナル動物ト云フヘシ

狐(赤色及三色)ト北極狐ハ郡内最多ク貿易品ノ大立物ナリ彼ハ沿岸ニ漂着スル海獸ノ肉ヲ食シ蕃殖ス曾テ海獸ノ多キ時代ハ
狐ノ數多カリシカ海獸ノ減少ニ伴ヒ漸ク其數ヲ減シ彼ハ今鼠ノ類ヲ食シツ、アリト

熊ハ諸河川ノ上流ニ多シ同地方産ハ丈ケ低ク毛色黒クシテ猛惡ノ性質ヲ有ス栗色ノ熊モ有リ白熊ハ冬季北氷洋沿岸ニ多
ク時トシテ「アナドネリ」河口ノ氷上ニ之ヲ見ルコトアリ彼ハ氷上ニ海豹等ノ上リ居ルヲ捕ヘ喰ハントシテ氷上ヲ徘徊シ
遂ニ風ノ爲メニ氷塊ト共ニ流サル、モノナリト云フ

豺狼ハ同郡ニ多クシテ冬季時トシテ群ヲ爲シ手飼ノ馴鹿ヲ襲フコトアリ

狸ハ「マルコウオ」邑附近ニ往々見ルコトアリト
白色鼬僅ニ産ス

貂ハ同郡ニ稀ナリト云フ

川臘虎ハ同郡諸河川ノ海ニ注入スル川口ニ棲ム(ハニ川臘虎ト「クニツア」)

海獸中第一位ヲ占ムルモノハ海馬ニシテ之ニ次クハ海豹(大ナルヲ「フ」トス「チユクチ」、「エスキモース」等土人ノ唯一食糧

ナレハ春季解氷時季即チ四月中旬ヨリ六月中之ヲ獵獲シ肉ハ穴藏(土ヲ掘リ下ク半ハ)ニ貯藏シ牙ハ所謂海象牙ト稱スル重要

貿易品ノ一ナリ皮ハ乾燥シ全體ノ價賣ルモノト又北海道ニテ之ヲ「トナリ」ト稱シ其皮ヲ裂キ一ノ長キ紐ヲ作り賣ルモノ
トアリ其用途ハ重ニ犬糧用網ノ手綱若クハ舟ヲ繫ク網ニ用ユ又乾燥シタル皮ノ用途ハ「バイダルカ」ト稱スル舟ヲ作ル時
之ニテ舟ヲ包ム即チ板ノ代用トナリ之ニテ家根ヲ葺キ靴ノ底皮トスル等種々ノ用途アルモノナリ海豹皮ハ主トシテ長靴
ノ膈皮ニ用ヒラル海馬及海豹ノ内臓ヨリ油ヲ煎熬シ食料用ト燃料(暖房)ニ準備ス膀胱ハ乾燥シ空氣ヲ入レ舟ノ浮キ袋ニ
使用ス

鯨ハ冬季太平洋ニ游泳シ夏ハ白令海峡ヲ通過シ北氷洋ニ向フ土人等之ヲ獵シ肉ハ食糧ニ供ス同地方ニ産スル鯨ハ有鬚類
多ク高價ナル鬚アリ土人ノ重要交換品ナリ本年ノ如キ一斤(我百九匁)ニ付四留ニテ賣買セラレタリ

聖「クレスト」灣

聖「クレスト」灣ハ「アナドネリ」灣ノ一部「アナドネリ」河口ヲ跡ル百六十三哩北緯約六十五度三十分東經約百七十八度三
十分ニ在リ同灣ハ北ニ約五十四哩モ灣入シ水深モ二十四露間以上アリ灣口ニ蚯蚓ノ如ク僅カ陸ヲ隔テ、殆ント東西ニ
長ク横ハル沙嘴アリ其沙嘴ヲ僅ニ距ル船舶ノ航路ニ淺瀬アリ灣口ニ對シ右岸ニ「セルドツエ、カーメニ」ト稱スル山アリ
高サ千四百六十二尺灣奥ハ殆ント山ヲ以テ包圍ス「エンガウギン」山、「エテリクローム」山、「マーガチンガイ」山(九千百、
「エグウスキノート」山等是ナリ住氏ハ「チユクチ」ニシテ「マツシカン」ト稱スル部落アリ其附近ニ「エルーレン」ト稱スル
小部落アリ後者ハ曾テ大部落ナリシト云フ「ゴンダツチ」氏カ冬季犬糧ニテ旅行シタルトキ同灣ハ「ノウオ、マリインス
キー」哨所ヨリ橋路五百二十露里ヲ距ルト記セリ同灣ハ餘リニ良灣ナルカ故ニ結氷容易ニ開ケス本年七月初旬本官ノ巡
航セル際ハ未タ結氷アリテ同灣ニ入ルヲ得サリシ

「プロウイデーニエ」灣

聖「クレスト」灣「プロウイデーニエ」灣

「プロウイデーニエ」灣ハ「アナドネリ」灣ヲ形成スル一岬角「チユコトスキ」岬ノ附近内側ニ在リ同灣口ノ一入江「プロ
 ーウエル」ニ在ル天測地點ハ北緯六十四度二十一分五十五秒東經百七十三度二十三分五十四秒ナリ「プロウイデーニエ」
 灣ハ大入江ニシテ周圍ハ山岳ヲ以テ圍繞シ灣入スルコト約二十哩幅狭キハ一哩廣キ處ハ二哩アリ四個ノ入江ヨリ成ル一
 ヲ「プロウエル」ニヲ「エムマ」三ヲ「ヘード」四ヲ「フサドニク」ト云フ「エムマ」入江ニ「チユコトスキ」郡役所アリ水深
 ハ八露間以上最モ極奥ニテ四露間アリ滿潮ハ三尺五寸ノ差アリ「リハチヨーフ」ト「ブジ」ノ兩岬ハ此入江ノ關門タリ其幅約
 一海里ノ四分ノ三風波ノ關係ニ於テハ良碇泊地ナレトモ結氷容易ニ排出セズ同入江ノ背面陸地ヲ我約一里半ヲ行ケハ
 「ツカチエン」ト稱スル入江アリ此狭キ處ハ一ノ地峽ヲ形成ス本官ノ乗船ハ六月二十七日ト三十日ト兩回往復ニ寄航シタ
 ルカ結氷アリテ入ルコト能ハサリシ「チユコトスキ」郡ハ千九百年堪察加州ノ獨立ト同時ニ置カレタルモノニシテ其
 前ハ「アナドネリ」郡ニ屬セリ郡長ハ「パロン、クレイスト」ト云ヒ昨年ノ任命ニ係ハリ本年本官巡航ノ際ハ同地ニアラス
 シテ「アナドネリ」河口ノ「ノウオ、マリイノスク」ニ居レリ冬季管内ヲ巡視シテ同地ニ出テ船便ニテ歸ル胸算ナリシト云
 フ「エムマ」入江ニハ「セーウエルナヤ、ヅウヨズダ」ト稱スル「アナドネリ」郡ノ専用帆船（石油發動機ヲ備フ）冬籠リヲ爲セリ氷ノ開
 クヲ待テ建築材料其他ノ運搬ニ從事シ郡役所ヲ始メトシ諸般ノ建築ニ着手スル筈ナリト目下東北西伯利會社ノ建テタル
 建物ヲ以テ郡役所ニ充テリ住民トシテハ「チユクチ」土人ノ部落數戸アルノミ「プロウイデーニエ」灣口ニ在ル「プロウ
 エル」入江ハ「イエン」ト稱スル沙嘴灣内ニ突出シ此入江ヲ形成ス同入江ノ一部ニ「ストラウヤンカ」ト稱スル港アリ水深十
 三尺以上アリ其附近ノ「ベクレムシユイエフ」山ハ高サ二千二百六尺アリ「スカラ」山ハ二千五百尺アリ「プロウエル」
 入江ノ水深ハ碇泊地十八露間本官ノ乗船ハ「エムマ」入江ニ揚陸スヘキ石油其他ノ貨物ヲ此「プロウエル」入江ノ外ニ假
 泊シ沙嘴ニ揚陸ス其沙嘴ニ「チユクチ」ノ部落アリ約八戸ゴンダツチ氏「カプロウイデーニエ」灣ニ在ル「チエーチン」部
 落云々ト旅行記ニ記セルハ或ハ此部落ヲ云フニアラスヤ當時「チエーチン」ハ二十五戸アリテ「エスキモース」ト「チユク
 チ」ノ混棲男六十七人女七十三人ヲ算セリト又同氏ノ旅行記ニ據レハ聖「クレスト」灣ヲ發シ「プロウイデーニエ」灣ニ達

スル間而カモ同灣近クニ「エウソモン」ト稱スル著名ノ部落アル筈ナリ其所在地ヲ確知スル能ハス察スルニ「ウーブン」川
 ニ在ル部落ヲ指スニアラスヤ然ラサレハ同川ト「プロウイデーニエ」灣トノ間ニ在ルモノナリ疑ノ儘ヲ茲ニ記シ置クコト
 トス

「プロウイデーニエ」灣ハ北海ニ饒多アル港灣ノ内ニモ一頭地ヲ拔ク優秀ナルモノナリ一ノ缺點ハ七月中旬マテ結氷シ居
 ルト云フコト是ナリ寒氣左程峻烈ナラサルモ氣候ハ常ニ激變アリト云フ
 同灣ニ最モ近キ島ハ「セント、ラウレンス」米領島ニシテ其距離約五十五哩稍東西ニ延長セル島ナルカ其長サ約七十五哩
 モアラン同島ノ住民ハ「エスキモース」ニシテ部落約五十戸人口約四、五百人米國ノ傳道師早クヨリ同島ニ來リ布教ト同
 時ニ學校ヲ開キ教育シツ、アリテ一般土人ノ智識モ發達シ居ルト云フ露領沿岸ニ散在スル「エスキモース」ハ元ト同島其
 他ヨリ來リタルモノニシテ今モ常ニ往復シ居レリ
 同灣ハ曩ニ「チユコトスキ」郡長ノ駐在地ト定メラレタルカ別項（チユコトスキ郡警察署定員増加ト郡長駐在地變更ノ部參照アレ）ニ記スル如ク「デジネフ」岬
 「ウエーレン」ニ置クコトニ變更アリタレハ一警部ノ駐在地トナレリ

「ウヌイ井」

「ウヌイ井」ハ堪察加州ノ北方土人部落中最モ密集セルヲ以テ其名高ク定期船ノ寄航地ト爲リタルモノナリ其位置ハ
 「プロウイデーニエ」灣ヨリ「デジネフ」岬ノ方向ニ「レイサヤ、ガラワー」、「チユコトスキ」、「ニーズメンヌイ」ノ三岬ヲ
 過キ「ツカーチエン」入江ヲ越エ其次ハ「チャープリン」岬（北緯約六十四度二十五分東經約百七十二度十七分）ト爲ル其岬ヨリ突出セル沙嘴其者カ即チ
 「ウヌイ井」ナリ何レノ海圖ニモ其沙嘴示シアラサルカ約東ニ向テ突出セル其長サ我里程ニテ約四、五里モアルヘシ普通
 海圖ニアル「チャープリン」岬ト「ウヌイ井」ハ同一ナルヤモ知ラスト雖モ形狀ハ大ニ異ナルモノアリ其沿海ノ潮流頗ル激
 シク風向ニ據リ船ハ沙嘴ノ南若クハ北方ニ碇泊スト云フ本官ノ乗船ハ南方ニ投錨セリ「ウヌイ井」部落ノ戸數約六十戸

「プロウイデーニエ」灣「ウヌイ井」

人口約六百人ト聞ケリ千八百九十五年ゴンダツチー氏ノ調査ニハ四百九十五人(男二百五十五人)トアリ人種ハ「チユクチ」ト「エスキモース」ナリ(別項「チユトスキ」)米領聖「ラウレンチヤ」島ノ住民ト頻繁ニ往復スルハ毎年五月ト六月ノ初旬ニシテ同年ゴンダツチー氏ノ計上シタル處ニ據レハ「ウスイヤ」ヨリ端舟十六隻同島ニ行キ同島ヨリ九隻來レリト其往復ハ固ヨリ交換貿易其主タルモノナリト雖モ「ウスイヤ」ニ流木漂着セス又其附近ニ樹木ナキヲ以テ「バイダルカ」舟ヲ作ルカ又住家ヲ建ルニ木材ヲ要スル場合ニ其木材ヲ求メニ行クモノアリ同島ニハ潮流ノ爲メ流木ノ漂着スルモノ澤山アリト時ニハ燃料ニ燒木ヲ取リニ行クコトアリ日用木製器具モ同島ニ求ムルモノナリ彼等ノ食物ハ唯一海獸肉ニシテ主トシテ海馬及海豹ヲ獵シ食ス獵期ハ四月中旬ヨリ六月一杯ニシテ中ニハ海馬獵ノ爲メニ同島ニ航スルモノアリ又鯨ヲ獵ス鯨ハ此附近ニ多シ米國捕鯨船ハ此「ウスイヤ」ニ寄航シ鯨ノ通過ヲ待チ一面ニ土人ト物々交換ヲ爲ス五月下旬ヨリ六月初旬ニ至ル同地ニ寄航スルノミニテモ二十隻乃至二十五隻アリ漸次其數減少シ千八百九十五年初船ハ露曆五月十六日ニシテ十五隻來リ其内二隻ハ帆船ナリシト其他同年同地ニ來リタル土人ノ端舟二十五隻此内九隻ハ同部落民カ聖「ラウレンチヤ」島ヨリ汽船便ニテ歸リ來リタルモノ其他ハ大陸沿岸ノ部落ヨリ來リタルモノナリ尙ホ大陸沿岸ヨリ「バイダルカ」舟ニテ來リタル數十六隻アリタリト出入ノ頻繁ナルニ鑑ミルモ實ニ同地ハ當地方貿易ノ中心ナリ此地ノ産物ハ海獸皮同加工品海馬牙、鯨ノ鬚等ナリ昨年ヨリ本年ニ掛ケ露國商人カズリンスキヤ及カラエフノ二名同地ニ多少ノ商品ヲ以テ越年セリト本官ノ乘船ニテ後者ハ「アナドナリ」マテ前者ハ浦鹽マテ同船シタレハ其商況ヲ聞キタルニ餘リ著シキ儲モ無カリシト云ヘリ凡テ金錢ノ買賣ナク物々交換ナレハ商品盡クレハ手ヲ拱シテ翌年ノ仕入ヲ待ツノ外ナク又土人ノ嗜好ヲ知ラサレハ携ヘタル商品ニ賣レ殘リヲ生スト然ルニ米國捕鯨船ハ毎年來タリ嗜好ヲ知ルヲ以テ解氷後露國船ノ來ラサル前ニ來リ有ユル産物ト交換貿易ヲ爲スニ由リ價値アル産物ハ皆捕鯨船ノ手ニ歸スト(貿易ノ部參)

「イトイグラン」

「イトイグラン」ハ一名「チルクルク」ト稱シ「セニヤウイン」海峡ニ横ハル一ノ小島ナリ稍東西ニ延ブ其長サ直徑約七哩餘幅廣キ處約三哩半島上處々ニ山岳アリ其最高キハ中央ニ在リテ千八百四十三尺島ノ位置東南ノ「ボステリス」岬ハ北緯約六十四度三十五分東經約百七十二度三十四分ニ在リ「イトイグラン」ニ定期船ノ寄航スル理由ハ「ウスイヤ」ニ次キ此附近ニ土人カ比較的密集セルニ依ル此島ノ南方海峡ハ北方「セニヤウイン」海峡(約二)ヨリ遙ニ狭ク其海峡ニ面シ一ノ部落アリ戸數約十四、五戸本官ノ乘船ハ六月二十九日同地ニ着シタルカ「セニヤウイン」海峡ハ未タ結氷シ「イトイグラン」南方海峡モ同ク結氷セルカ故ニ同部落ニ近ツクヲ得ス「ボステリス」岬ノ附近ニ碇泊ス上陸セルモノハ同岬ノ氷上ヲ行ケリ「セニヤウイン」海峡ニ面セル處ニモ土人部落アリ我乘船ヲ見ルヤ土人ハ「バイダルカ」舟ニ乘リ漕キ來レリ此海峡ヲ通過スレハ左ニ日露漁業協約ニ留保セラレタル「ルメレット」入江夫ヨリ僅ニ北行シテ「アボレーシエフ」入江(名)「カラ」夫ヨリ約七哩ヲ航シテ「ベンケグネイ」入江アリ要スルニ此三入江ノ前面ニ二個ノ大小島横ハリテ「セニヤウイン」海峡ヲ形成ス其大島ヲ「カイネ」一名「アラカムチエーチエン」ト云ヒ小島ヲ「イトイグラン」一名「ナル」ト云フ「アラカムチエーチエン」島ノ長サハ約二十三哩幅約八哩餘アリ山岳ヨリ成リ中央ノ「エルグンガ」一名「ア」山ハ其高サ千八百八十尺東部ハ卑濕ノ地ニシテ沼澤アリ土人ノ部落ハ四ヶ所アリ西南角ニ「グラゼメブ」ト稱スル港アリ船舶ノ碇泊ニ適ス叙上三個「インレット」ノ内最大ヲ「ベンケグネイ」トス之ニ次ク「アボレーシエフ」及「ルメレット」トス「セニヤウイン」海峡ノ結氷ハ七月下旬カ八月ニ至ラサレハ開カサル由ナレハ隨テ前記「インレット」内ノ氷ハ夫レト同時カ又ハ其後ナルヘク左スレハ氷ノナキ月ハ二ヶ月乃至三ヶ月ナランカ

聖「ラウレンチヤ」灣

聖「ラウレンチヤ」灣ノ位置「ブナウチエン」岬ハ北緯六十五度三十八分東經百七十度三十八分同灣ニ入ル目標ハ北岸ニ在ル「フホードナヤ」一名「ツイ」山(高サ一八四〇尺)ヲ以テス同岬ヲ僅カニ隔テ、小嶼アリ「リトケ」ト稱ス此小嶼ト陸岸トノ間ニ

錨泊ニ適スル處アリ水深十五、六露間本灣ハ約二十三哩餘陸地ニ彎入ス概シテ之ヲ三段ニ區別スルヲ得第一ハ「ブナウチ
ユン」岬ト「ハルギラフ」岬ト連結シタル線ヨリ「パウロフ」岬ト「インドロチイウス」岬ヲ連結シタル線マテ第二ハ夫ヨリ
「クリウゼ」岬ニ至ル第三ハ夫ヨリ奥即チ「メルコウオードナヤ」入江ト稱スル是ナリ前記第二ノ内ニハ二個ノ小嶋アリ一
ヲ「ペンネット」他ヲ「バルク」ト云フ

本灣ノ周圍ハ殆ント山岳ヲ以テ繞ラレ極奥ニ小川アリ「マムカ」ト稱ス同灣ニハ東北西伯利會社出張部ノ建物アリ一昨年
清算シテ空屋ニ屬ス「ヌニヤグモ」岬附近ニ土人部落ヲ見ルノ外殆ント住セス同灣ニ本官ノ巡航ハ六月二十九日ナリシカ
是モ良灣ナルカ故ニ結氷未タ開ケス入灣スルコト能ハサリシ
同灣ノ滿潮ハ一尺五寸以下ナリト云フ

「デジネフ」岬ト郡長駐在地並「チユウリン」商會

「デジネフ」岬ハ北緯約六十六度六分三十秒東經約百六十九度二十七分ニ在リ亞細亞大陸ノ東北端ナリ元ト「ワズストーチ
ヌイ」岬(義)ト稱セシモノナルカ千六百四十八年ニセミヨン、イワーノフ、デジネフナル者初テ本岬ヲ廻航シ白令海
峽ヲ發見シタルヲ紀念スル爲メ露國地學協會ニ於テ確力其二百五十年祭ヲ行ヒタル際ト記憶スルカ「デジネフ」岬ト變名
セリ岬ハ丘陵起伏シテ突出シ左程高カラサル山ヲ以テ白令海峽ニ臨ム陸地ハ滿畔岩石ニアラサレハ雜草蘚苔ヲ以テ蔽ハ
レ地下一尺餘ハ永久ノ氷結ナルニ據リ濕潤上靴ヲ沒シ荒涼寂寥タリ「デジネフ」岬ヨリ指呼ノ内ニ「デオミッド」ト稱スル
二個ノ小嶋嶼白令海峽ニ在リ其距離約二十哩其内大ナルヲ「ラトマート」島ト云フ冬季「デジネフ」岬ヨリ同島ニ氷上徒
歩若クハ犬橇ニテ往復スト千八百六十七年露米條約ニ於テ「ラトマート」島ハ露領、小島ハ米領ニ屬スルコトニ規定セ
ラレタリ其大小島ノ距離ハ約二哩又此小島ヨリ「アリヤスカ」ノ「プリンズ」オフ、ウエールズ」岬マテ約二十哩アリ
千九百十年沿黑龍江總督ウンテンベルグ運送艦「シルカ」ニ坐乗堪察加視察ノ際總督ノ發意ニ據リ「デジネフ」岬六露

間半ノ高サニセ、イ、デジネフノ爲メ大ナル紀念ノ十字架ヲ建ラレタリ其木材ハ途中「イムベラート」ルスカヤ灣ニ於テ之
ヲ求メ之ニ銅板ヲ掲ケリ其銘ニ露英ノ兩語ヲ以テ千九百十年九月一日運送艦「シルカ」乗組員カ艦長海軍中佐ベルリ及士
官指揮ノ下ニ沿黑龍江總督陸軍大將ウンテンベルグ立會ノ上デジネフノ紀念トシテ此十字架ヲ建ツトアリ尙附記シテ
此紀念標ノ保護ヲ諸航海者ニ希望ストアリ此紀念標ヲ建ツルヤ總督ハ乗組員整列ノ下ニ皇帝陛下ノ萬歳ヲ唱ヘ運送艦ハ
祝砲ヲ發シ其式ヲ壯ニセリ白令海峽ニ不時ノ般々轟々ヲ傳ヘタレハ地方土人中多ク米國アルヲ知リ露國ノ版圖民タルコ
トヲ識ラサル此等ノ徒ニハ一種畏敬ノ感ヲ惹起シ精神上ニ偉大ノ影響ヲ與ヘタリト聞ク

本官ハ六月二十八日「デジネフ」岬ニ着ス汽船ノ錨泊スル處ハ岬ノ南方ニシテ小灣形ヲ爲ス當時海岸ヨリ約五六百間結
氷未タ開ケサリシカ故ニ本船ハ遠ク其沖ニ碇泊シ所有ノ舢小蒸汽ヲ結氷ニ横ヘ氷上ヲ上陸ス同地ハ定期船ノ終點ナリ抑
モ定期船ノ同岬ニ航スル所以ハ現時「チユウリン」商會ノ出張所アリ之ヲシテ地方住民ノ需用品ヲ供給セシムル爲メニシ
テ附近ニアル土人ノ部落ハ戶數約十戸ナリ

「ヌウカン」ハ一ノ大部落ニシテ「デジネフ」岬ニ在リ前記碇泊地ヨリ見ヘサルカ東ニ約六、七露里モアルヘシ千八百九十
五年ゴンダッチー氏ノ調査ニ五十戶人口二百九十九人(男百五十七人 女百四十二人)アリシト本官乗船ノ定期船着セルヲ聞キ交換貿易ノ
爲メニ夥多「バイダルカ」舟又ハ端舟ニテ來レリ

千九百八年政府ハ「デジネフ」岬ニ官有倉庫ヲ置キ地方住民ノ日用品ヲ拂下ルコト、セリ然ルニ一面ニ東北西伯利會社カ
滿期清算シ「チユウリン」商會其建物ヲ引受ケ出張所ヲ設クルコト、ナリタレハ政府ノ倉庫ハ一年ニシテ閉鎖シタリ「チ
ユウリン」商會ノ出張員ヲシテ言ハシムレハ總督ノ希望ニ據リ同岬ニ出張所ヲ置クニ至レリト果シテ然ルヤ否同商會ハ
既ニ「ベトロバ」バウロウスク」ニ出張店ヲ有シ多大ノ運轉ヲ爲シツ、アリ且ツ次ニ記ス官有倉庫ノ交換品ヲ買受ケ利益アル
コトヲ知レリ遂ニ猿臂ヲ延ハシタルニアラサヤ左ニ官有倉庫一ヶ年ノ收支ヲ舉ケ如何ニ多大ノ利益ヲ得タルカヲ示サン
千九百八年「チユウチ」人ニ對スル官有倉庫ヲ「デジネフ」岬ニ置クニ當リ總督ハ其資金トシテ千留支出セリ之ヲ以テ「チ

「デジネフ」岬ト郡長駐在地並「チユウリン」商會

中心最近「ウスイ井」ニ移ラントスル傾向アリテ毛皮ハ多ク後者ニ持込ムニ至レリト「ウエーレン」ノ「チユクチ」ハ交換セシ商品ヲ携ヘ七月中旬「ラトマーノフ」島ニ航ス同時季ニ島々又ハ亞米利加大陸ノ人民モ同島ニ集マリ茲ニ大交換貿易開クト云フ

千八百九十四年「ゴンドラッチー」氏ノ調査ニ據レハ「ウエーレン」ニ於テ米國人ト交換セシ品目ハ「ウインチエスタル」銃六挺、彈藥三十五包、火藥十二罐、鉛(銃丸)六十桿、雷管三罐、係蹄十個、綿糸(網)二十「フント」、麥粉二十六袋、烟草十箱、雲齊二卷、更紗一卷、燒麩麩、糖蜜其他小數品ニシテ之ニ對シ「チユクチ」ハ白熊九枚、黑熊一枚、北極狐四十五枚、馴鹿皮四十枚、海馬牙三十五對、「クフリヤンカ」四枚、履物二十對ヲ與ヘタリト

同年「アレクセイ」氏、チユクチト交換セシモノハ「チエルカススキー」烟草八袋(百把)、同三袋(八十把)、鐵鍋十一枚、銅樂罐二個、磚茶五枚、羅十六枚、一年未滿ノ馴鹿皮約二百枚、馴鹿皮五十枚、二ヶ月未滿ノ馴鹿皮、寢具用馴鹿皮、同鹿皮及筋ニシテ之ニ對シ川臘虎、獺、三色狐、赤狐、貂ノ類海馬牙八個、大海豹、海豹、木製器具、獸油「ウインチエスタル」銃二挺、彈藥數包其他米國品取交セ見積リヲ以テ與ヘタリト

「ゴンドラッチー」氏カ「ウエーレン」ニ於テ尋ネタル處ニ據レハ「チユコトスキー」半島ノ北氷洋沿岸ニ散在スル「チユクチ」ノ部落ハ二十九ヶ處(ウエーレンノ外)アリ其戸數百九十二戸一戸ニ付六人ト假定スレハ千五百五十二人アル筈ナリ

極北ノ氣候ト燃料並ニ白夜

「アナド井リ」郡ノ西部ハ「ヤクーツスカヤ」州ニ隣接シ大陸ノ氣候ヲ有シ東部ハ之ニ反シ太平洋ノ緩和ニ從ヒ寒氣ヲ調節スルヲ以テ西部ト東部ト大ナル差異アリ殊ニ沿海線ニ於テ甚シトス東部ノ夏ハ寒冷且ツ雨多ク又殆ント周年強風吹キ殊ニ北東風吹荒ミ風ノ少ナキ西部ニ於ケルヨリモ鬱陶敷且ツ困難ナラシム其代リ西部ニ氣温列氏ノ零度以下四十度ハ屢々ナルモ東部ニ於テ斯ノ如キ寒冷ハ稀ナリトス「マルコウオ」ニ於テ風ノ最モ強ク吹クハ八、九ノ兩月ト五月下旬ヨリ六月上旬天候ノ靜穩ナルハ二、三、四月ト七月最モ險惡ナルハ八月ノ下旬ケ月九月初旬十二月四月及五月上旬トス又東部ニ於テ風ノ激シキハ十月ヨリ二月ニ至ル間靜ナル月ハ三、四、五、六ノ四ヶ月夏季龍卷アリ忽チ河上ニ波瀾ヲ起シ住民ノ談ニ右ハ稀ナル現象ニアラスト又旋風アリテ屋根板ヲ吹キ捲クルコトアリ其旋風ノ方向ハ多ク西ヨリ東ニ向フモノトス雨ハ殊ニ西部ニ稀ニシテ長ク又強ク降ラス雪ノ降り初メハ年ニ依リ八月中旬ニ見ルコトアルモ斯ル雪ハ忽チ解ケ九月下旬ヨリ十月初旬ニ降ルモノ下旬ニ至リ寢雪ト爲ル(寢雪トハ春マテ融解セサルヲ云フ)冬ノ央ニ新ニ降ルコト少ナシ若シ降ルコトアルモ少量ナリ「マルコウオ」邑ハ冬晴天ヲ多シトス「ノウオ」マリイノスタ「ハ其反對ニ雲翳天ヲ鎖スコト多シ「アナド井リ」河結氷シ閉塞スル最モ早キ年ハ九月初旬遲キハ同月下旬ナリ「マルコウオ」附近ニ屢々吹雪アルハ十二月ト一月ニシテ時トシテ一週間モ絶エ間ナク吹クコトアリ地方住民ノ恐ル、ハ此吹雪ナリ時トシテ約五「アルシン」(「アルシン」ハ我ニ尺三寸五分)ニ達スル雪ヲ以テ森羅萬家ヲ一面ニ埋メ通路モ河川モ識別ナカラシム故ニ寒氣ノ始マルヤ野禽ハ南南ト居ヲ移ス狼、熊、北極狐等此跡ヲ追フ一月ニ入レハ荒涼タル原野一層寂寥ヲ加ヘ禽獸ノ跡ヲ絶ツ地下永久ノ氷結ハ「マルコウオ」邑ニ於テ「アルシン」ノ四分ノ三(我ニ尺七寸五分)「アナド井リ」河口即チ「ノウオ」マクインスタ「ハ約我ニ三尺然レトモ緯度ノ割合ニ寒氣峻烈ナラスト「マルコウオ」邑ニ於テ雪ノ融解シ始ムルハ露曆四月ノ中旬ニシテ五月二十日前後ニハ全ク春光ヲ催フシ六月初日頃草生シ樹木ハ六月十日ヨリ二十日間ニ萌芽ヲ放ツ「ノウオ」マリイノスタ附近ハ六月十五日ヨリ二十日間ニ氷漸ク開キ始ム夏「マルコウオ」ニ於テ暑氣列氏ノ二十度ニ昇ルコト敢テ珍ラシカラサルカ「アナド井リ」河口ニ於テハ十八度ニ達スルハ稀ナリトス夏「マルコウオ」ハ晴天多シ然ルニ「ノウオ」マリイノスタ「ハ曇天勝ニシテ且ツ屢々小雨ヲ降ラス太平洋ノ寒冷ナル密霧ハ「アナド井リ」海灣ノ沖ニ見ルモ「アナド井リ」河口ニ襲來スルコトナシト

「チユコトスキー」半島岬角附近ノ氣候ハ殆ント「アナド井リ」河口ト大差ナシ夏ハ短カク雨勝ニシテ寒冷ナリ冬ハ比較的溫暖ニシテ周年強風アリ冬ノ溫暖ナルハ北氷洋ノ方向ヨリ吹ク風左程峻烈ナラサルト又堪察加ノ海岸「アナド井リ」灣外「チユコトスキー」半島ヲ洗ヒ北氷洋沿岸ヲ西ニ向テ流ル、暖流アルニ由ル其暖流ノ有無ハ堪察加半島ハ論ナク「アナド

井リ「河附近甚シキハ」ニジネ、カルイマ「河口附近ニ南洋ノ樹木、竹、椰子實等ノ漂着スルヲ以テ證據立ラル此影響ヲ以テ」チユコトスキ「半島ノ岬角附近白令海峡ノ結氷ハ露曆四月中旬ニ開クト云フ暖流其主因ヲ爲スハ言ヲ俟タサルヘキモ本官ハ白令海峡ノ潮流激シキモノ與ツテ力アリト認メリ四月ノ中旬ハ餘リニ早キニ過クルカ如シ同時期ニ在リテハ他ノ方面ハ未タ冬ノ央トモ云フヘク從テ未タ春色ノ動カサル頃ナリ本官ハ「デジネフ」岬ニ於テ冬ノ極寒列氏ノ六十二度ニ達スルコトアリト聽キタルカ千八百七十九年彼ノ有名ナル北極探險家ノルデンシエリドハ一月ト二月ノ寒氣ヲ寒暖計ニヨリ驗シタルニ二回零度ノコトアリ而シテ一回モ三十七度以上ノ寒氣ハナカリシト云ヘリ本官ハ六月二十八日「デジネフ」岬ニ足跡ヲ印シタルカ陸上ハ東京ニ於ケル二月中旬位ノ氣候ナリシ灣形ヲ爲セル處ハ氷アリテ我乗船ハ其氷ヨリ約一海里ノ沖ニ碇泊シ小蒸汽ヲ氷ニ横へ上陸セリ此氷上ヲ渡リ來ル風ハ未タ頗ル寒ク東京ノ極寒モ比較スヘキニアラサリシ荒涼タル陸地ハ濕潤ニシテ上靴ヲ没シ積雪ハ殆ント未タ一面ニ在リタルモ土人等ノ往復スル處ハ雪既ニ融解シ地身ヲ現ハセリ土地ハ一見草原ノ如クナルモ近ツキ觀レハ雜草稀ニシテ藓苔多カリシ藓苔其物ハ千種萬態ノモノアリテ他ニ之ヲ見ルヘカラス往々春光ヲ迎ヘテ紫白ノ花ヲ開キ何等香氣ナキモ形狀ノ異ナルコト人ヲシテ一層珍ラシカラシメタリ

「チユコトスキ」半島ハ岩石ニアラサレハ藓苔ヲ以テ蔽ハレタル山岳丘陵起伏スルノミニシテ樹木ハ灌木スラナシ而シテ土人等ハ何ヲ以テ燃料トセルカト云フニ第一ニ海岸ニ漂着スル流木ヲ拾フコト(附近ノ島嶼ニ遊ク之ヲ拾ヒニ行クコトアリ)第二ニハ獸骨、獸脂ヲ焚クコト是ナリ前者ハ茶ヲ添カシ食物ヲ調理スルニ使用ス冬季ノ嚴寒ヲ凌クニハ後者ニ俟ツナリ凡テ土人ノ小屋ハ圓形ニシテ周圍ヲ草根ノ錯綜セル地層ヲ切り取り之ヲ積ミ重ネ約一間半ノ高サトシ屋根ノ部分ハ獸皮ヲ以テ之ヲ張リ獸皮ノ革紐ヲ以テ吹キ飛ハサル様縛リ置ク其内部ノ一方ニ我國ノ蚊帳ノ如キ長方形ヲ有スル馴鹿皮ヨリ製セル寢房アリ此寢房ニ極寒ノ際ハ獸脂ヲ石器ニ焚キ暖氣ヲ取ル獸脂獸骨ハ土人カ唯一ノ食糧トシテ常ニ獵獲スル海馬、海豹、鯨ヨリ獲ルモノトス近年ノ輸入ナリトテ富豪ノ土人ハ「プリムス」石油焔爐ヲ備フルヲ見タリ之ニハ最初禁口ヲ暖ムルタメ「アルコール」ノ少量ヲ要スルカ土人ハ果シテ之ヲ飲マシテ常ニ焔爐ニ使用シ得ルヤ疑ナキ能ハス

「ウスチ、カムチャトカ」ヲ出帆シ稍一晝夜ヲ北ニ進航スレハ夜ハ殆ント晝ト同シクシテ夏ハ暗夜ト云フモノナシ本官カ「デジネフ」岬ニ着シタルハ六月二十八日ナルカ午後十一時過ニハ太陽没シ翌日ノ午前二時ニハ太陽出テ即チ太陽ヲ見サル間ハ約三時間弱ナリキ而カモ其太陽ヲ見サル間モ薄暗キマテナリ之ヲ白夜ト稱ス本官ハ午後十時過ニ太陽ノ光線ニテ寫眞ヲ取リタルコトアリ斯クテ夏ハ愉快ナルモ冬ハ之ト反對ナルコトヲ想ヘハ實ニ住民ノ不快樂セラル此白夜ナルモノカ航海者ニ便宜ヲ與フルハ燈臺ニ依頼セス夜モ陸地ヲ明カニ展望シ得テ安全ニ航海シ得ルコト是ナリ故ニ堪察加ノ東海岸ニハ「ベトロバウロウスク」港ニ入ル即チ「アツチャ」灣口ニ燈臺アルノミニシテ其以北ニハ一ノ燈臺ナシ

白令海峡ト米國捕鯨船

白令海峡ハ亞細亞ト亞米利加ヲ限ル海峡ニシテ「デジネフ」岬ト「アリヤスカ」ノ「グリーンズ、オフ、ウエールズ」岬ノ間ハ約四十五哩其中間ニ「デオミード」島アリ二個ノ小島嶼ヨリ成リ大ナルヲ「ラトマー」ノ「島ト稱ス同海峡ハ太平洋及白令海ヨリ北氷洋ニ通スル關門ナルヲ以テ著シキ潮流アリ隨テ海上結氷開クコト比較的早ク本官ノ同海峡ニ在リタルハ六月二十八日二十九日ノ兩日ナリシカ沿岸ハ結氷セルニ拘ラス己ニ海峡ハ滄茫トシテ山岳ヲ欺ク北氷洋ノ大水塊潮流ニ從ヒ流離漂蕩スルヲ見タリ此氷塊ノ間ヲ縫航シ出獵スルハ捕鯨船ニシテ本官六月二十八日「デジネフ」岬ニ碇泊中米國捕鯨船「ジョネート」號同岬ニ寄航シ數時間碇泊ノ上碇錨ス同日今一隻米國船來リタルカ是ハ殆ント小蒸汽大ノモノナリシカ故ニ捕鯨船ニアラス一ノ貿易船ト認メタリ捕鯨船ノ露國沿岸ニ寄航スルハ一ハ火酒、銃其他ノ商品ヲ以テ地方土人ト交換貿易ヲ爲スニ在リ前者ノ忽チ碇錨シタルハ我乗船ノ露國官憲同船ヲ訪ヒ寄航ノ目的ヲ問ヒタレハ貿易ヲ爲スニ邪慮ナリト考ヘ再來ヲ期シ出帆シタルニアラサルカ米國捕鯨船ノ白令海及同海峡ニ跋扈跳梁ハ近年ニ始マリタルニアラス千九百八年刊行「スリウニン」著「我極東ノ現狀」ト題スル書中本件ニ關スル一節ヲ左ニ掲ケ米國捕鯨船ノ北海ニ出沒スル狀ヲ知ラシム往年「オホツク」海ヨリ白令海峡ニ至ル捕鯨船(露國側之ヲ密獵船ト云フ露國ノ領水ニ監督無キヲ奇貨トシ米國捕鯨船ハ露國領水ニ濫入シ密獵ヲ逞フスレハナリ)ノ數二百隻ヲ算シタリ

米國ノ密獵船ニテ著シク捕鯨ヲ始メタルハ千八百四十七年ヨリト云フ多クハ「ニュー、ベッドフォールド」ヨリ出帆シタルモノニシテ米國ノ密獵船艦裝者ノ聲言ニ據レハ千八百四十七年ヨリ千八百六十一年ニ至ル十四ケ年間ニ同船カ鯨油ト蠟ヲ米國ニ輸入シタル金額ハ一億三千萬弗ニ達セシト斯クノ如ク一時盛ニ捕鯨セシ爲メ鯨族ヲ殺シ盡クシタルト同時ニ一部ハ何處ニカ之ヲ逐ヒ去ラシメタリ而シテ千八百八十八年米國人ハ更ニ捕鯨業ヲ復舊シ其年ノ産額ハ白令海ヨリ油一萬六千百「バレル」(我十二貫九十)蠟二十九萬六千七百七十一英斤「オホツク」海ヨリ油三千五百五十八「バレル」蠟三萬六千六百斤ナリシト云フ

千八百九十四年當時ノ沿黑龍江總督コルフ男カ國有財産管理廳長官ウエデンスキーニ命シ北海ノ鯨獵ト漁業ノ保護ニ關シ調査セシメタルカ今其復命書ヲ茲ニ摘録センニ

「我東北沿海ニ於ケル捕鯨業ハ久シキ以前ヨリ行ハレタリ我隣國ナル米國人ハ十九世紀ノ中葉ヨリ毎年夥多ノ帆船汽船ヲ艦裝シテ我沿岸ニ航シ同所ヨリ巨額ノ獲物ヲ積歸リタルモノナリ蓋シ最モ優秀ナル捕鯨地ハ我沿海ナル「オホツク」及白令海ニ外ナラサレハナリ

「オホツク」海ニ一種ノ軟體動物(Olis borealis)棲息ス該動物ハ春季「ベンジンスカヤ」灣ノ寒冷ナル水中ニ發生シ氷ノ流動スルニ從ヒ「オホツク」海ニ出テ其ヨリ海流ニ從ヒ氷ト共ニ扇狀ヲ呈シ各方面ニ散流ス其重ナル海流ハ北岸ニ沿ヒ西行シ聖「イヨーナ」島及「オホツク」海ノ間ヲ過キテ南西ニ轉シ「ウドスカヤ」灣ニ入り同所ヨリ「ジャンタルスキュー」群島附近ヲ過キテ黑龍江口ニ向ヒ此處ニテ再ヒ北方ニ回轉ス「ジャンタルスキュー」群島ノ間ニハ數多ノ方面ヨリ來ル漲潮及落潮ノ爲メニ數個ノ渦卷形出セラレ無數ノ軟體動物ハ此處ニ支ヘラル、モノナリ而シテ該動物ハ鯨族ノ最モ好ム食物ナレハ鯨群ハ之ヲ逐ヒ來リ渦卷附近ニ游泳ス白令海ニ於テハ鯨群ハ食物ヲ得ル爲メ多少海岸近クニ來リ春季氷ニ龜裂生スルヲ俟テ北行シ「チユコトスキュー」半島海岸ニ群ヲ爲シテ集マリ同所ヨリハ猶流水ト共ニ北進シ白令海峽ヲ經テ北氷洋ニ入ル秋季流水南ニ向テ流動スル際鯨群ハ再ヒ白令海峽ヲ通過シ冬季中ハ白令海峽ノ終端附近ヲ游泳ス此ノ「オホツク」及白

令海ノ鯨群棲息地ヲ目的トシテ外國捕鯨船來航ス其船舶ハ殆ント全部米國船ナリトス北米合衆國「ニュー、ベドホルド」ニ於テ發行セラル、捕鯨業ニ關スル刊行物ニ依レハ千八百五十三年乃至千八百八十四年ノ間ニ太平洋ノ北方海面ニ於テ鯨獵ニ從事シタル米國船ハ二千三百三十九隻ニシテ而モ事情ニ通曉スル者ノ言ニ依レハ此等米國捕鯨船ノ過半ハ我領水ニ於テ獵業セルモノナリト又我北方海洋ニ於テ三十年間斯業ニ從事シタル芬蘭土鯨獵業者「リンドゴリム」ル言明スル處ニ依レハ往年「オホツク」海ハ到處米國船ヲ見サルナク千八百五十四年ニハ二百五十隻ノ捕鯨船來リ甚シキハ二十五湮以內ノ水域ニ於テ百隻以上ノ船カ盛ニ鯨群ヲ追跡セルコトアリ尙同年或日同氏ハ八十二隻ノ捕鯨船及三百六十四隻ノ端艇ヲ見タリト

我沿海ニ於テ米國人ノ獵獲スル鯨ノ價額ニ關シテハ無論精確ナル數ヲ知ル能ハスト雖モ概數ハ太平洋ノ北方海面ニ於テ鯨獵ニ從事シタル船舶及其獵獲ニ關シ「ホノル、」ニ於テ出版セラレタル統計報告(千八百八十八年九月發行露國海運雜誌第三四號捕鯨業ト題スル「オ、リンドゴリム」氏著書)ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ該報告ニ依レハ千八百五十年乃至千八百七十三年ノ二十三年間ニ「オホツク」海ニ於テ獵獲シタル鯨油及鯨鬚ハ前者約九十萬噸後者約千八十萬「フント」ニシテ此價額金貨五千百十七萬五千弗ニシテ之ヲ千八百八十五年ノ相場ニテ換算セハ一億七百四十六萬七千五百留ナリ白令海及北氷洋ニ於テ千八百五十三年ヨリ千八百八十五年マテニ米國其他ノ捕鯨船カ獵獲シタル數量ハ千八百五十年乃至千八百七十三年「オホツク」海ニ於テ獵獲セシ高ト殆ント大差ナカルヘシ而シテ其獵獲高ノ大部分ハ我沿海ニ於テ得タルモノナリ

我東北沿岸ヲ親シク調査セシムル爲メ千八百八十五年一等大尉「レーシン」ヲ堪察加及「チユコトスキュー」沿岸ニ出張セシメタリ同一等大尉ハ當時浦鹽商「リンドゴリム」カ地方異人種ト商關係ヲ結フ爲メ遣ハシタル捕鯨船「シビリ」ニ乘シ出發シ四ヶ月以上沿岸ヲ航行シ我領水内ニ於ケル米國捕鯨船ノ性質及行動ノ結果等ヲ善ク視察スルコトヲ得タリ其視察報告ニ依レハ「チユクチ」人ハ毎年「チユコトスキュー」半島ニ來ル外國捕鯨船ハ三十乃至三十五隻ニシテ内五六隻ハ汽船ナル旨ヲ語リタリト

船舶數ニ關シテハ米國「ニュー・ベドホルド」發行「ウエールスマン」船名録ニテ毎年發表セラル、政府ノ調査報告モ亦前掲ト畧同一ノ數字ヲ掲ケリ、レーン氏ハ右報告ヨリ千八百八十一年乃至千八百八十四年ノ左記統計ヲ摘記セリ

年次	北洋ニ於テ捕鯨船數		油價		總價額	捕鯨數
	船數	噸數	噸	價		
一八八一	二〇	一五二、二五〇	四留三十二哥	二留九十三哥	一、八一六、七九七留	二二七
一八八二	三一	一五一、七二五	四留八十一哥	三留八哥	一、九一四、九一〇	二三一
一八八三	三八	一六〇、四四〇	四留八十六哥	五留十七哥	一、六二四、四二二	九六
一八八四	三七	一三二、一二五	三留五十七哥	六留三十九哥	二、八二一、五二五	二〇二

右表ニ依レハ北海ニ出獵スル捕鯨船ノ總捕鯨數ハ平均一年百九十二頭ナリ然レトモ露國沿海ニ於ケル捕鯨數ヲ百頭ト假定シ且ツ鯨ノ價格ヲ極メテ安ク評價シテ假ニ一頭ヲ一萬六千六百六十留(油七百布度千八百八十一年乃至千八百八十四年ノ平均價格四見做)ト見積ルモ猶ホ外國人ハ捕鯨業ノミニテ我沿海ニ於テ毎年百六萬六千留ヲ獲得スル勘定ナリ右ノ外米國人ハ我太平洋ノ沿海ニ於テ海馬及臘虎獵業及ヒ鱈漁ヲ營ミ居レリ米國新聞ノ記事ニ依レハ此等ノ漁獵業者カ毎年輸出スル海馬ノ牙ハ平均十二萬「フント」ナリト云ヘハ其價格ヲ日本ニ於ケル「フント」ノ價格一留五十哥ニテ計算スルトキハ十八萬留ニ達ス千八百八十九年米國ノ貿易報告ニ「チユコトスキ」半島ヨリ桑港ニ輸入シタル額ハ鯨鬚ノ一種ニテ三萬一千「フント」此價格九萬五千七百五十弗ニ達シ之ヲ同年ノ相場ニ換算スルトキハ十七萬七千三百三十七留ト爲ル云々

最近ノ統計ハ知ルニ由ナキモ前記ノ事實ヨリ推セハ沿岸貿易ヲ一方ニ兼スル米國捕鯨船ノ收益ハ年々六十萬留乃至三百萬留ト見做シ大過ナキカ如シ

「チユコトスキ」半島ノ人種ト「チユクチ」

「アナド井リ」郡ヨリ「チユコトスキ」郡ニ至ル空漠ノ原野ト海河ノ沿岸ニ住ム人種ハ「チユクチ」「アイワンツイ」「カリーキ」「ユカギールイ」「ラムーツイ」「チユワンツイ」等ニシテ其數ニ於テ多キヲ占ムルハ「チユクチ」ナリトス同人種ニ

就テハ蒙古人種ナリトノ説アレトモ然ルニ非ラス北地ニ住ム人種ノ一ニ屬スルモノナルカ故ニ即チ「カリーキ」、「ア、レウト」、「カムチャダールイ」、「亞米利加ノ北部ニ住ム」「エスキモース」等ト同族ナリト云フ

今茲ニ「チユクチ」ノ水草ヲ逐ヒ轉住スル地ノ分布及性質、風俗、生活狀態等ヲ大要記述スルニ方リ先ツ史料ニ據リ聊カ往時ニ遡リ而シテ後本官ノ此行ニ於テ目睹セル現狀ニ及ハントス

「チユクチ」人種ノ性質如何ハ今ヲ距ル約二百七十年前彼等ヲ征服セントノ目的ヲ以テ哥薩克部隊ノ初テ「カリーマ」河口ニ現ハル、ヤ彼等ハ之ニ對シ頑強ナル抵抗ヲ爲シタル一事ヲ以テモ彼等ノ勇武ナルヲ推知シ得ヘシ當時彼等ハ海獸骨ヨリ製シタル弩弓ノ外何等武器ヲ有セス之ニ反シ哥薩克ハ既ニ銃砲ヲ有シタルニ拘ラス五十年餘ノ長キ星霜ヲ彼等ノ征服ニ費シ其後彼等ノ敵對行爲ハ千七百年代ノ末葉マテ止マス彼等ノ精神精力信念ニ至テハ「カリーマ」河ノ西方ニ轉住セル蒙古人種ノ遙ニ企及シ能ハサル處ナリシト千七百八十五年「カリーマ」河ノ行政官ボンネルハ「チユクチ」ト貿易關係ヲ結ヒ以テ彼等ノ敵對行爲ヲ緩和センコトヲ圖リ其會長ニ贈物ヲ齎ラシ使者ヲ「チヤウンスカヤ」灣(東經約百七十七度ニ在リ)ニ差遣セル結果「チユクチ」ハ「アングアルカ」川(カリーマ河ノ支流)ニ貿易ヲ爲スヘク出テ來リ爾來此關係繼續セラレ千七百八十七年「チユクチ」トノ開市場ヲ「アニューイ」ト定メ此場ニ年市ヲ置キ千七百九十一年露國帝室ヨリ彼等懷柔ノ趣旨ヲ以テ毎年五百留支出アリ之ヲ物品ニ替ヘ「チユクチ」ニ贈物トシテ下賜セラレ之ニ對シ「チユクチ」ヲシテ自由的ノ毛皮稅ト稱シテ毛皮ヲ獻納セシメタリシト云フ

「チユクチ」ノ轉住地ハ「チヤウンスカヤ」灣ニ注入スル「チヤウンスカヤ」川ヨリ以東、南ハ「アナド井リ」河ニ懸ケ「チユコトスキ」半島一圓即チ「ユカギールイ」、「チユワンツイ」、「カリーキ」人種ノ北東ニ方レル地方ナリトス千八百六十六年「アレンヌイユ、チユクチ」(「アレンヌイユ」ノ一部分)「カリーマ」ノ長官「マイデリ」ニ向ヒ「トングス」カ會テ轉住シ今ヤ殆ント死滅セシ「カリーマ」河ノ左岸ニ轉住ヲ許サレンコトヲ請願セリ「マイデリ」男ハ絶好ノ機會逸スヘカラスト爲シ之ヲ許可シ同時ニ露國ノ臣下タルコト且ツ轉住ヲ願ヒ出タル「チユクチ」ノミナラス現今ノ「アナド井リ」郡ニ住スル「アレンヌイユ、チユコトスキ」半島ノ人種ト「チユクチ」

ユクテノ大部分モ毛皮税ヲ課スル條件ヲ附シタリ凡テ「チユクテ」ハ五個ノ團體ニ分タル團體ニハ三ヶ年ノ期ヲ以テ會長ヲ選舉ス其會長タル「アムラウルギン」家ハ世襲的ノモノナリ此内三團體ハ現今「カルイマ」郡内西ハ「インヂギルカ」川ニ至リ南ハ「オモロン」川ノ支流「カレイマ」川ノ上流ニ至ル間ニ轉住シ他ノ二團體ハ東「アナド井リ」河ノ中流ヨリ南ハ「ボル」山脈ニ至ル間ニ轉住ス其山脈ヨリ南ハ「カリヤキ」人種ノ轉住地ナリ十八世紀ノ中葉マテ「チャウン」海ノ附近北氷洋ノ沿岸ニ轉住セル「アムラウルギン」ハ現時「オモロン」川ノ上流ニ在リト此團體ノ區別ト會長ニ服従スルコトハ單ニ形式ニ止マリ「チユクテ」自身ニハ何レノ團體ニ屬スルカ其所屬ヲ認メスシテ隨意ニ他ノ團體ノ轉住地範圍内ニ入リツ、アリ廣漠タル原野ノ秩序ハ上記ノ如シ又部落ハ互ニ遠距離ニ散在スルニ依リ當初富豪ノ故ヲ以テ選舉セラレタル「トイオン」ノ名稱ハ世襲的ノモノトナリ而シテ「トイオン」ノ選舉モ頗ル冷淡ニシテ又選舉セラレタル者ノ名譽ノ位置モ何等物質上ノ利益ヲ來サス且又權力モ更ニ之ニ伴ハス毛皮税ノ負擔ハ團體カ遠ク相隔タルヲ以テ徵收シ廻ルノ不可能ナルニ依リ結局「トイオン」カ自腹ヲ切り年市ニ赴キ之ヲ納ム「トイオン」ハ何レモ裕福ナルカ故ニ之ヲ自己ニ負擔シタリトテ左程苦痛モナク又五個ノ團體ヨリ納ムヘキ毛皮税ノ額ハ年ニ二百四十七留ナリト云フ(現時モ此金額ナ)
水草ヲ逐フテ轉住スル人種ノ人口ハ正確ナル統計ナキカ千八百九十二年特派セラレタル總督副官オルスフイエフ氏ノ復命書ニ據レハ「ヤクターツスク」州「カルイマ」河附近ト「アナド井リ」(現モ此金額ナ)「チユコトスキー」兩郡ノ「チユクテ」ノ人口ハ一萬ヲ超ヘサルヘシト云フ上記五團體ノ人口ヲ假リニ七千人トスレハ此内二千ハ「アナド井リ」ニ其他ノ五千人ハ「カルマイ」河ノ附近ニ轉住シ居ルヘシト其他ニ「アナド井リ」郡ノ東部ニ富豪ナルアレクシエ、チユクテ轉住ス之ヲ「ツメンヌイ」ト稱ス其數ハ「マルコウオ」人ノ談ニ依レハ千人餘ナラント又「アナド井リ」河畔ト海岸ニ數百ノ「シヂャーチイエ、チユクテ」(シヂャーチイエノ義下ニ説明ス)カ馴鹿ノ群ヲ失ヒ魚類海獸ヲ漁獵シツ、アルモノアリ而シテ「チユコトスキー」半島ノ岬角附近ニハ「ノソウイエ、チユクテ」約千二百ヲ超ヘサルモノ住ス之ニ由テ是ヲ觀レハ「チユクテ」ノ數ハ前記ノ如ク一萬人ヲ超ヘサルヘシ其内約四千七百人ハ「アナド井リ」ト「チユコトスキー」兩郡ニ住スルモノトス右オルスフイエフ氏ノ視察後同

地方ノ人口蕃殖シ別項(アナド井リ郡村落並ニ人口ノ部參照)ニ記スル如ク千九百二年統計ニ據レハ兩郡内ノ「チユクテ」ハ六千五百五十人アリト云フ十年間ニ千八百五十人ノ増加ハ寧ろ事實ニ近キモノナレハ同氏ノ説モ信スルニ足ルヘシ
「チユクテ」ハ彼等ノ生活状態ニ據リ「アレクシエ」(馴鹿ヲ有スル義)「シヂャーチイエ」(土著)及「ノソウイエ」(貿易ヲ營ムル義)ニ分ツヲ得ヘシ

「チユクテ」ナル語ノ濫觴ハ「アレクシエ」ヲ彼等「チヤフチエ」ト云フ之ヨリ「チユクテ」(單)「チユクテ」(複)ノ稱起リタルモノナラント「ノソウイエ」ヲ彼等「ナウラ、レムキート」ト云フ即チ貿易商ノ義ナリ而シテ「シヂャーチイエ」ヲ「アレクシエ」ト呼フ即チ海岸ニ住スル者ト云フ義ナリ馴鹿ヲ有シ水草ヲ逐フテ轉住スル「アレクシエ」ハ比較的裕福ノ輩ニシテ馴鹿ノ肉ヲ常食トシ其皮ヲ被服トス之カ天災又ハ自己ノ失敗ニヨリ馴鹿ヲ失ヒ貧困ニ陥リタル者ハ「シヂャーチイエ」ニ化シ已ムヲ得ス河海ノ濱ニ散在シ魚ヲ漁シ海獸ヲ獵シ生活ヲ爲ス交通ニ缺クヘカラサル「バイダルカ」橇曳用犬及馴鹿モ有セス其土地ヨリ動クコトヲ得サル最モ貧シキモノナリ「ノソウイエ」モ右失敗者ノ一ナリ故ニ或説ニハ「チユクテ」ヲ「アレクシエ」ト「シヂャーチイエ」ノ二種ニ分チ「ノソウイエ」ハ後者ニ屬スルモノト爲セリ此「ノソウイエ」ハ貿易ヲ營ミ毛皮等ヲ以テ露國人又ハ米國人ト交易シ其交換シタル葉煙草、磚茶、砂糖、銃、彈藥、銅及鐵鍋、庖丁、雲齋等ヲ更ニ同胞ト交換シ所謂「コンミツション」ヲ取ル仲買的ノ商賣ヲ爲シツ、アルモノナレハ「シヂャーチイエ」ノ如ク貧シカラズ「アイワンツイ」ト「チユワンツイ」ハ「チユクテ」ノ一部族ニシテ「チユワンツイ」ハ前記ノ如ク「チヤウンスカヤ」海ノ西南地方ニ轉住スルモノナルカ「アイワンツイ」ハ而カモ兩部内人口ノ第二位ヲ占ムルモノニシテ本官モ此行「ウスイ井」ニ於テ之ヲ見タリ彼等ハ抑モ主トシテ何處ニ住シ如何ナル土人ナルカラ茲ニ説明シ置クノ要アリト認ム之ニ關シテハ千八百九十五年現沿黑龍江總督ゴンドツチーカ曾テ「アナド井リ」郡長タリシ時同郡ハ如何ナル住民ヨリ成立ストノ題目ノ下ニ書セラレタルモノアリ(千八百九十七年巴府ノ地學協會雜誌ニ記載アリ)之ニ關係ノ一節ヲ左ニ摘録セン
「チユクテ」中太平洋ノ沿岸ニ住ミ「ラトマーノフ」島(白令海峡ノ中)及「エツイグラン」島(ヒュウアイン)ニ住ム者ハ「アイウア」(チユコトスキー)半島ノ人種ト「チユクテ」

ナート」或ハ「アイグアナート」(沿岸若クハ島)及「ベエキート」(ラトマーノ)ノ名稱ノ下ニ人ニ知ラレ此名稱ハ同シク白令海峡
 中米大陸ノ附近ニ在ル「クルゼンシテルン」島ニ住ム島民ニモ及ヒ尙又稀ニ「デジネフ」岬ノ北岸ニ在ル「ヌウカン」部落
 ノ人民モ同名稱ヲ以テ呼フ其實名ハ同族ナル「エスキモース」ニ屬スヘキモノナリ彼等ヲ分ツテ四種トス互ニ言語ヲ異ニ
 シ相通セス多クハ「チユコトスキー」語(同地方ニ)ニ據リ相通シ居ルモノナリト別項(アナドキリ部ノ村)ニ「アイワソツイ」千
 二百五十人ト計上シアルハ往時露領ニ移住セシ「エスキモース」ノ事ナラン何トナレハ下ニ記セル「エスキモース」ノ人口
 ト稍同一ナレハナリ

「チユクチ」ト「エスキモース」ノ區別ニ就キ茲ニ一言シ置カン本官ノ此行「ウスイヤン」ニ於テ「エスキモース」ナル者ヲ見
 タリ又「デジネフ」ニ於テモ彼ハ「チユクチ」ニアラス「エスキモース」ナリト紹介セラレタリ本官ハ彼等ノ言語ニ依リ區別
 スルヲ得ナルカ骨格容貌被服等些ノ區別ナシ勿論北地ニ住ム同族人種ノ一ナレハ生活状態同一ナルヲ以テ大差アル譯ナ
 シ思フニ米領島嶼即チ聖「ラウレンチイヤ」島ノ如キニ棲息スル者ヲ米國人等カ「エスキモース」ト稱スルニ止マルモノ、
 如シ殊ニ本官カ「エスキモース」ヲ多ク見タルハ「ウスイヤン」ナルカ同地ハ前記ノ島ト相距ル約六十海里ニシテ常ニ交通
 頻繁ナルト又前記ノ如ク附近ノ「エツイグラン」島ニ會テ移住セル「エスキモース」カ住スルカ故ナリ前記「ゴンダツチ」氏
 ノ著書ニ「エスキモース」ニ關シ左ノ記事アリ

最モ人口ノ多キハ「エスキモース」ニシテ彼等ハ往時聖「ラウレンチイヤ」島ヨリ移住シ今左ノ四ヶ處ニ住ス(之ヲ「チユクチ」
 或ハ「アイゴエ」
 ン」ト名ツク)

- (一) 「エツイグレン」島ニ住ム者(男三百十八人、女三百四十九人)
- (二) 「ヌウカン」部落ニ住ム者(男百五十七人、女百四十二人)
- (三) 「ウーテエン」(アロウイデーニエ)ニ在リ)二十四戸アリテ(男三十四人、女四十五人)
- (四) 「ラトマーノ」島ニ住ム者(男五十七人、女四十七人)

其他「イムツン」及「チエーチン」ノ二部落ニ混交シテ住ム即チ前者ニハ「ウテエンツイ」カ「エスキモース」ト同居シ其男二
 十人女二十三人後者ニハ「エスキモース」カ「チユクチ」ト同居シ男六十七人女七十三人アリト(此數字ハゴンダツチ氏ノ調査後
 少ノ差異アルヘキモ參)積資料ト爲スニ足ル)

「チユクチ」ノ言語ハ「アレクヌイエ」ハ「チユコトスキー」半島ノ西方ニ轉住シ「ノソウイエ」ハ東部ニ住スルヲ以テ自ら大
 ナル差異アリ「ツメンスキエ、アレクヌイエ」ニシテ「ボルポリ」山脈ニ沿ヒ又ハ白令海ノ沿岸ニ轉住スル者ハ言語ト云ヒ
 外貌ト云ヒ前記二者ノ仲間ニ居ルト云フ

「チユクチ」ノ體格ハ發育優良胸部開ケ腕力ハ概シテ秀絶シ肩ト手ニ力アリ「ラムート」ト「トングース」及「ユカギールイ」ノ
 柔弱ナル人種ト比較スヘクモアラス此點ニ於テハ「ヤクト」人モ遙ニ及ハスト云フ一般「アレクヌイエ」殊ニ西部ニ馴鹿
 ヲ牧スル者ノ體格ハ東方ノ「ノソウイエ」ト比スルニ遙ニ優レリ其故ハ食物ノ關係ナリト云フ即チ前者ハ馴鹿ノ肉ヲ常食
 トシ後者ハ多クハ魚肉若クハ海獸肉ヲ食ス彼等ノ身ノ丈ハ概シテ低ク眼ハ中庸ニシテ其色黒キアリ灰色等アリ鼻ハ鼻梁
 直線ナルアリ隆起シタルアリ孰レモ區平ナラス唇厚カラス顔ノ輪郭ハ丸キアリ橢圓アリ臉骨ノ發育セサル蒙古人ニ似タ
 ル所ナシ手掌及脚掌小ニシテ薄黒シ婦人ニハ驚クヘキ色白者アルヲ認メタリ頭ハ可ナリ大ニシテ丸ク頭髮ハ孰レモ濃クシ
 テ漆黒ナリ鬚髯ハ殆ントナク稀ニ老人ニ薄ク生スルヲ見ル彼等ノ結髪否頭髮ノ置キ方ハ河童式トモ云フヘキカ頗ル異様
 ニシテ人ノ注意ヲ惹ク本官カ「デジネフ」ト「ウスイヤン」ニテ目撃セルハ大略三種トス(一)我國ノ繪畫ニアル河童ノ頭ノ
 如シ即チ頂ト下ノ周圍ヲ剃リ又ハ短ク缺ミ切り幅一寸乃至二寸ノ環ヲ存置ス其毛髮ノ長サ二、三寸(二)東京ノ職人社會ニ
 稀ニ見ル俗ニ竈ト唱ヘ前ヨリ頂ヲ剃ル者アルカ之ト反對ニシテ後ヨリ頂ニ懸ケ剃リ又ハ短ク缺ミ切り第一ト同シク下ヨ
 リ周圍ヲ剃リ又ハ短ク缺ミ切りタルモノナリ(三)第一ノ環ヲ二並行線ニ置キタルモノナリ其他第三ノ頂ノ中心ニ一寸徑
 ノ毛髮ヲ殘セルト子供ニ後頭部ニ小サク結髪セルヲ見タリ而シテ婦人ハ「ギリヤーク」人種ノ如ク前ヨリ二ツニ分チ各耳ノ
 後方ニ於テ結ヒ長ク垂ル、アリ又二個ヲ併セ頂ニ結ヒ付ケタルアリ婦人ハ小女ヲ除キ顔ト腕ニ(手ノ先ヨリ)文身ス即チ顔

「チユコトスキー」半島ノ人種ト「チユクチ」

ニハ波紋ヲ幾重ニモ畫キ中ニハ鼻梁ニ沿ヒ眉間ニ二線ヲ畫スルアリ此文身ハ許嫁若クハ結婚契約整フヤ否直ニ之ヲ行フト云フ「チユクチ」婦人ハ「カリヤキ」ノ如ク夜横臥スル時ニ限ラス馴鹿皮ヲ以テ周圍ヲ蔽ヒタル防塞室内暑キ時ハ晝間丸裸體トナリ外來人ノ前ニテモ一方ノ足ヲ折り踵ヲ以テ陰部ヲ蔽ヒ居ルノ習慣アレハ思フニ肩ニ懸ケ文身スルハ一面ニ之ヲ人ニ示ス爲メニアラスヤ又毛皮ノ外ニ被ル物ナキ土人ニシテ暑サニ堪ヘ難ケレハ丸裸體ト爲ルノ外ナキカ彼ノ著名ナルクラシエニンコフ氏ノ堪察加地誌ニ「チユクチ」婦人ノ裸體狀態ヲ描畫トシ之ニ關スル記事アリ凡テ「チユクチ」ハ自己ノ妻及娘ヲ來客ニ饗應シ之ヲ受ケサル者ハ侮蔑シタルモノトシテ殺戮スルニ至ル此事件ノ屢々アリタルコトヲ記セリ

凡テ「チユクチ」ノ服ハ馴鹿皮ヨリ製シタル「クフリヤンカ」ト稱スルニ重皮ノ上着股引モ二重ニシテ同シク馴鹿皮ヨリ製ス男ノ上着ニハ頭巾ナシ其上着ハ普通通狼若クハ犬ノ毛皮ヲ襟又ハ裾ノ縁ニ縫着ク其上等衣ハ狼又ハ犬ノ皮ヲ用ユル代リニ鹿皮ヲ縫着ク故ニ鹿皮ハ同地方ニ高價ニシテ毛皮商ハ之ヲ「イルビート」ノ年市ヨリ仕入レ來ルト云フ男子ノ「クフリヤンカ」ニ頭巾ナキ代リニ帽ヲ被ル其帽ハ「ギリヤーク」又ハ「オロチヨン」カ被ルモノト形同シ後頭部ヨリ耳ヲ包ミ顔ノミヲ現ハスモノナリ極寒旅行スルトキハ其「クフリヤンカ」ノ上ニ尙一枚同シク馴鹿皮ヲ以テ製シタル頭巾アルモノヲ被ル婦人用ノ「クフリヤンカ」ハ股引ト併セテ縫ヒタルモノ又小供ニ乳ヲ飲マシムルニ便ナル様胸ヲ廣ク開ケテアリ男子ノハ頭ヲ通ス丈ケ襟ヲ開ケ被リテ之ヲ着ル婦人用ト小供ノ「クフリヤンカ」ハ特別ニ裁縫ヲ注意シ色ノ配合織キ合セ頗ル美麗ナリ又婦人カ外出スル時ハ頭巾ノアル「クフリヤンカ」長サ膝ニ達スルモノヲ被ル全部白色ノ馴鹿皮ニシテ製シタルモノハ喪儀ノ際死亡者ニ被セルモノト云フ「トルバザ」ト稱スル馴鹿ノ脛皮ヨリ製シタルモノヲ履キ極寒ニハ採ミタル馴鹿皮ヲ短ク缺ミ切り毛ヲ裏ニシテ縫ヒタル靴下ヲ履ク夏ノ服ハ殆ント冬服ト異ナラス同シク「クフリヤンカ」ト股引ナルカ但シ長ク使用シテ毛ノ脱ケタル比較的暖カナラサ物ト被替ル最モ裕福ナル土人ハ採皮ニシテ毛ヲ去リタルモノ若クハ雲齋等ニテ縫ヒタル上衣ヲ被テ足ハ馴鹿ノ採皮(ナキ)若クハ海豹皮ヨリ製セルモノヲ履ク其底皮ハ海馬皮ニシテ水ヲ透

スコトナシ別項ニモ記載シ置キタルカ彼等ノ家ハ草根ノ錯綜セル土ヲ切り取り之ヲ圓形ニ積ミ上ケ屋根ハ海獸皮ヲ張リ其内ノ一部ニ周圍天井モ馴鹿皮ヲ以テ我國ノ蚊帳ノ如キモノヲ作り防塞室ト爲シ其内ニ苦ヲ心トシ獸脂ヲ焚キ寒氣ヲ凌クモノナルカ頗ル暖ニシテ「チユクチ」ハ皆裸體ニテ横臥スト云フ

殺害若クハ復讐的行爲ハ「シヂヤチイユ」ト「ノツウイユ」ノ間ニハ屢々有リト雖モ「アレシヌイユ」ニハ殆ント絶無ナリト云フ後者ノ家族ハ圓滿ナル團欒生活ヲ爲シ風俗ハ堯季ノ風ニ染マヌ質撲極マリ殊ニ長幼ノ區別甚キハ驚クヘキモノアリ畢竟是カ家族ノ圓滿ヲ來ス所以ナルヘシ例ヘハ一家族ニ馴鹿一萬頭所持スルトセンニ父親ノ存生中ハ勿論死亡後ニ至ツテモ母親居ル限りハ之ヲ子供ニ分割スルスコトナシ而シテ之ヲ分ツ場合ハ長男次男ノ區別ヲ爲サス平等ニ分ツト云フ父親死亡後ハ親族間ノ長者ノ言ニ服從シ馴鹿ノ分割ニ關シテモ聊カタリトモ異議ヲ唱ヘサルノミナラス若シ親族ニ長者ナク隣家ニ長者アレハ其言ニ從フト云フニ至テハ彼等カ如何ニ長者ヲ尊敬スルカヲ推シテ知ルヘシ一家内ニ於テモ幼者ハ長者ノ爲メニ枝ヲ折ルノ美風アレハ喧嘩若クハ馴鹿ヲ放牧スル上ニ於テモ更ニ紛議ヲ起サスト云フ又個人的ノ利害ヲ顧ミス他人ノ爲メ或ハ一般ノ爲メニ已テ犧牲ニ供スル所謂義俠心ナルモノモ有リト云フ「チユクチ」ノ風俗ニシテ驚クヘキコトハ老人ト病人ヲ殺スコト是ナリ我國ノ昔日話ニ姥捨山ト云フコトアリ即チ此類ナリ然レトモ「チユクチ」カ老人ヲ殺スハ老衰シテ無用ノ長物ト爲リタリト云フニアラス又老人ヲ見懸ケ次第殺スト云フニモアラス一ノ迷信ヨリ生スル自殺ナリ因襲ノ久シキ此野蠻ノ習慣今ニ止マラスト云フ之ニ就テハ種々ナル旅行者ノ記事アリ要スルニ天命ヲ以テ終ル者モアリ又老人中殺シテ貰フ者モアリ殺シテ貰フニ至ル發端ハ一ノ夢ニ基クモノニシテ夢ニ祖先若クハ亡親戚ヲ見彼等カ他界ヨリ迎ニ來リタルモノト爲ス是カ迷信ニシテ夫ヨリ毎日神經ヲ刺戟シ某カ迎ニ來リタレハ早ク他界ニ行キテ面會セサルヘカラスト口ニ繰リ返シ悲嘆ニ沈ミ而シテ終ニ死ヲ決ス愈死ヲ決スルヤ之ヲ一家ノ者ハ勿論近キ親族ニ發表ス此通告カ漸次隣ノ部落「チユクチ」「ユカギール」「ラムーツイ」露國人ニ傳播ス斯ル悲惨ナル報道ニ接シタル親戚朋友ハ百方此空想狂ヲシテ思ヒ止ラシメントテ種々ノ勸告ヲ試ミ死亡者ノ靈ト惡魔ノ要求ニ應センニハ尊キ生命ヲ以テセサルモ他ニ

「チユコアスキー」牛島ノ人種ト「チユクチ」

途アルヘシトテ慰籍シ斷念セシメントスルモ殆ント思ヒ止マルモノナシ何トナレハ彼ハ自己ノ企望ヲ遂行スルハ重大ナル任務ナリトノ確信深ケレハナリゴダツチ一氏カ郡長タリシ日之ヲ説諭シタルコトアリ他ノ件ハ服膺シテモ人ヲ殺スコトハ迷信ノ深キモノアリテ自己ノ希望ナリトテ之ニ對シテ何等答ヘサリシト而シテ彼ノ決死者曰ク我カ不幸ハ免カルヘカラス病氣ナレハ全治セサルモノ死避クヘカラスト早ク他界ニ行キ久シク別レタル親戚朋友ニ會合シ生存ノ親族ヲ守護スヘシト斯ノ如クシテ死スヘキ準備ニ取リ懸ル即チ白色ノ馴鹿皮ヲ以テ新ニ衣服ヲ縫ヒ他界旅行者ノ乘リ行ク槓並ニ馴鹿カ之ヲ曳キ行ク革具ヲ新調ス勿論急キテ準備スヘキモノニアラサレハ約十日乃至十五日ヲ過ク其間該空想狂ノ爲メニ特ニ肥滿セル馴鹿ヲ屠リ種々ニ之ヲ調理シ之ヲ饗シ自殺者ハ相會セル親戚等ト平然トシテ談笑シ葬具ヲ作ル指圖ヲ爲ス其狀殆ント死ノ近キコト悲劇ノ近ク演セラレ、コト、思ハレス此準備ハ外人ヲシテ結婚前ノ準備ト同一ナル觀アラシムト云フ愈當日ニハ親族近隣ノ者他界ニ旅行者ヲ見送ルヘク集ル衆人ノ目前ニ新調ノ衣服ト被替ヘ設ケノ席即チ家ノ前面ノ一隅ニ坐ス二頭ノ馴鹿ハ新規ノ槓ニ繫カレ戶外ニ出發ヲ待ツ介錯人否之ヲ殺ス者ハ可成自分ノ子供トス子供ナキ者ハ親族中ヨリ血縁ノ近キ者ヲ選フ而シテ殺ス器ハ三種トス鎗、庖丁、及革網是ナリ各自ノ希望ニ依リ其内ヲ使用ス假リニ庖丁ヲ使用ストスレハ親族中ノ二名ハ之ヲ押ヘ血縁ノ近キ者ハ銳キ刃ヲ咽喉ノ左方ヨリ心臟ニ向ケ突キ込ム又鎗ニ突カレント希望スレハ壁ノ裏面ヨリ鎗ヲ出ス夫レヲ當人カ心臟ニ宛テ突クヘク合圖ヲ爲ス或ハ首ヲ絞リ死セント欲セハ親族二名カ革網ヲ首ニ廻ハシ一端ヲ一方ニ縛リ付ケ當人親族ノ者ニ指揮シテ之ヲ牽カシム子トシテ親ヲ殺スト云フ非人倫的ノ悲劇ヲ平氣ニ秩序ヲ乱サス何等功名ヲ現ハスカノ如ク之ヲ執行スルト云フニ至テハ實ニ驚異スヘキコトナリ而シテ殺サレタモノハ戶外ニ待チタル槓ニ坐セシメ豫定ノ地ニ曳キ行キ此處ニ於テ見送人ハ他界ニ旅行者ト別レヲ爲ス曳キ行キタル馴鹿ハ殉死スヘク殺サル夫ヨリ死者ヨリ衣服ヲ脱カシメ細片ニ之ヲ切斷シ死者ハ手足ヲ縛リ茶毘ニ附ス此葬式ニ參加シタルモノハ死者ノ血（一ニ殺シタル馴鹿ノ血ト云フ）ヲ以テ顔ト手ヲ塗り燒カレツ、アル死者ニ向テ拜ミ忘却セサルコトヲ祈リ死骸ノ全ク灰ト爲ルヲ待テ各々歸路ニ就クト云フ「チユクチ」ハ死者ノ靈魂ハ其家族ノ守護者ナリトス凡テ不幸、病氣、

悲哀ハ死者カ惡魔ト共ニ之ヲ來スモノトノ迷信ニ由リ其惡魔及死セル祖先親族ニ對シ犠牲ニ已レノ生命ヲ供ストノ觀念ヲ有ス

一般「チユクチ」ノ葬リ方ハ存生中ノ遺言希望ニ由リ一ハ火葬シ他ハ單ニ埋メスシテ地上ニ置キ來ル所謂他ノ南ノ土人「オロチヨン」人種等ニ行ハル、天葬ノ類ナリ天葬ハ鳥獸等ノ餌食ニ委スルモノナリ葬ル場所ハ多ク住所ヨリ遠カラサル丘陵ヲ撰定ス死體ヲ曳キ行キタル馴鹿ハ墓地ニテ屠リ其體ハ細カニ切り角ト共ニ主人ノ側ニ置キ肉ト皮ハ家ニ持チ歸リ一ノ宴ヲ設ク其席ニ於テ「シヤマン」（彼等）カ死者ニ付キ種々ノ豫言ヲ爲シ死者ノ冥福ヲ祈ル「シヤマン」ノ外呪術者アリ又「エルクカリヤオリナ」ト稱スル者アツ男子ニシテ女装ヲ爲シテ女ノ役目ヲ勤ム是ハ「シヤマン」呪術者ヨリ多ク之ヲ恐ル即チ迷信的ノ多ク害ヲ爲ス者ナリ

「チユクチ」ハ多妻ナルカ裕福ナル者ハ五人モ有スルアリ初メ妻ヲ娶ルニハ其親ノ方ニ約一、二年間自己ノ勞力ヲ提供ス結婚ノ式ト云フハ勞働期限ノ滿チタル上日ヲ定メテ親族ト隣家ノ者ヲ招キ饗宴ヲ張ル其席ニ於テ新婦カ席ヲ離ルルト新郎カ之ヲ逐ヒ家ノ内ヲ馳セ廻ハル其際宴ニ列ナル者木ノ枝ヲ以テ遠慮ナク新郎ヲ鞭ツ是ナリ子供ノ生レテ命名スルニハ一ノ饗宴ヲ張リ家ノ年長婦人カ其際調理シタル食物ノ一片ヲ齋ラシ來リ之ヲ小部分ニ割リ室内各方ニ撒ク夫ヨリ「シヤマン」カ生レタル小供ノ未來ニ付豫言シ如何ナル名ヲ下スヘシトノ提言ヲ爲シ而シテ取極ルト云フ

本官ハ曾テ朝鮮人カ自己ノ尿ヲ清潔ナルモノトシ之ヲ飲ミ之ニテ食器等ヲ洗フコトヲ聞ケリ「チユクチ」モ同一ナリ自己ノ尿ヲ棄テス貯ヘ置キテ顔ヲ洗フ等ノ習慣アリ而シテ此習慣ハ漸次減少ノ傾アリト千九百六年沿黑龍江總督「ウンテルベルデル」カ鐵山技師ブハフイウスヲ長トシテ「チユコトスキー」半島ニ派遣シタル諸般ノ調査隊中ニドクトル、スバヌスキールナル者アリ同氏ノ復命中ニ「チユクチ」人中ニハ「トラホーム」其他ノ眼病者多クアルモ尿ヲ以テ顔ヲ洗フ輩ニハ殆ント手術ヲ盡スヘキナシトノ一節アリ

鑛物

「チユコトスキー」半島カ地中ニ有用鑛物ヲ包藏スルコトハ殆ント一般ニ認メラレ問題ハ一ニ對岸米領「アリヤスカ」ニ於ケル所謂「クロンダイク」ノ如ク雄大ナル產額ヲ有スルヤ否ニ在リ同半島ノ鑛物探檢ハ米國人ノ竊ニ行ヒタルハ別問題トシ幾多ノ批難ハアリタルモ兎ニ角具體的ノ探檢ヲ行ヒタルハ千九百年四月十一日政府ヨリ特許ヲ得タル退職陸軍大佐「ウオンリヤルリヤルスキー」ナル者東北西伯利會社ヲ組織シ四回ノ探檢隊ヲ出シタルモノニシテ探檢ノ結果如何ト云フニ畢竟目前ノ收益ニ迷ヒ十分探檢ヲ行ハサリシ爲メ雄大ナル合金床ヲ發見スル能ハサリシ然レトモ大體ニ於テ合金床ヲ同會社ノ鑛山技師又ハ他ノ技師ニ依リ已ニ發見セラレタルヲ舉クレハ(一)「セルドツエ、カーメニ」(北緯約六十七度)(二)「デジネフ」岬ヨリ聖「ラウレンチイヤ」灣ニ至ル沿岸(三)聖「ラウレンチイヤ」山(海拔三千四百七尺)(四)「セニヤウイン」海峽ノ「ベンケジネイ」入江ノ北岸ヨリ「バプス」山附近(五)同海峽「イトイグラン」島ノ對岸「メルテンヌ」岬附近(六)「ルイサヤ、ガラワー」岬ヨリ「プロウイデー」ニエ「灣」ノ「ブローウエル」入江ニ至ル附近(七)「プロウイデー」ニエ「灣口」レンフスキー「岬附近(八)「アナド井リ」海灣附近ノ北岸「ソコロワ」山(九)同海灣聖「ニコライ」入江ノ北方「ブリメートナヤ」山附近(十)「ネルビチ」岬ヲ僅ニ距ル同名ノ川ニ沿ヒタル地等ナリ右ノ内東北西伯利會社カ發見ノ届出ヲ爲シ探取ノ權利ヲ得ントシツ、アルハ聖「ニコライ」入江附近ノ砂金床ナリ同砂金床ノ有望ナルヤ否ニ就テハ千九百年十月十六日發刊沿黑龍江總督府官報ハ之ニ就キ二個ノ反對說アリトテ次ノ記事ヲ掲ケリ北地ヨリ歸來者ノ談ニ東北西伯利會社ノ金鑛業狀態ハ頗ル振ハス金ノ採取甚タ尠ナシ會社ハ將來見込ナキカ故ニ契約期限前ニ之ヲ拋棄スルコトニ決セリ同年同砂鑛區ニ於テ何等著シキ作業ナキノミナラス金ノ採取ニ從事セル者モ器具機械家屋等ヲ賣拂ヒ「アリヤスカ」ノ「ノーム」ニ歸還セリ露國勞動夫ハ會社ヨリ雇ヲ解カレ船便ヲ待チツ、アリ要スルニ會社ハ見込ナキ事業ニ投資スルヲ望マサルモノト見ユト然ルニ「ダリニー、ワストーク」新聞ニ同砂鑛場ニ勞働セシ者ノ談ヲ掲ケタル記事ニ據レハ會社ニ於テハ「ウオルチイヤ」川及其支流ニ沿ヒ専ラ探檢シツ、アリ其結果ハ極メテ秘密ニ附シ居レリ而シテ「ナドクリーク」ト稱スル砂鑛區ニ於テ竊ニ砂金ヲ探

取シツ、アル者アリ其採取方法ハ殆ント不合法的ニシテ八月中十一日間ニ約三萬弗ノ採取ヲ爲セリト本年九月二十二日發刊ノ半官報ニ「チユコトスキー」郡「ウオルチイヤ」川ノ左岸ニ砂金床アルコトヲ知リ探取ノ權利ヲ得ントスル輩アルカ個人ニハ之ヲ許スヘカラストノ問題起リ同地ハ曩ニ東北西伯利會社ニ採取ヲ許スヘク詮議中ナリト前段「ダリニー、ワストーク」ノ記事中心アル會社カ専ラ「ウオルチイヤ」川及其支流ニ沿ヒ探檢シツ、アル云々ニ參照シ來レハ同會社カ其採取權ヲ得ルヤモ知ルヘカラス又本年七月二十八日官報記事ニ新ニ組織セラレタル「アナド井リ」金鑛業會社ハ曩ノ東北西伯利會社ニ屬セシ「チユコトスキー」半島ニ於ケル有用鑛物ヲ探檢スル權利ノ讓與ヲ受クルコトニ現下奔走中ナレハ此請願ノ許可ヲ受クルマテ二十五名ノ經驗アル者ヲ彼ノ地ニ遣ハシ東北西伯利會社ニ於テ出願中ノ合金床ヲ實地ニ就キ取調ヘ製圖セシムル爲メ之ヲ許可セラレタキ旨ヲ沿黑龍江總督ニ請願シタリト之ニ對シ總督ハ如何ナル回答ヲ與ヘタルヤハ詳ニセサルモ東北西伯利會社ハ新ニ起リタル即チ「アナド井リ」金鑛業會社ニ權利ヲ讓ラントシツ、アルコトハ之ヲ以テ知ルヘシ本年八月四日「ブリアムーリエ」新聞ハ之ニ關聯セル記事ヲ掲ケリ商工務省ハ「アナド井リ」金鑛業會社ニ「チユコトスキー」半島ニ探檢隊ヲ差遣シ金其他有用鑛物ノ探檢ヲ爲スコトヲ許可セリ但シ單ニ探檢スルニ限り發見シタリト雖トモ一般ニ行ハル如ク直ニ之ヲ届出所有權ヲ得ルモノニアラサル條件ヲ附セリ「チユコトスキー」半島ニ於ケル合金床ハ北部會社ニ租借セシムル等ナリ若シ「アナド井リ」會社カ前記條件ニ同意セハ探檢隊ハ近クニ出發ヲ見ルヘシト此記事ニ云フ北部會社ハ「アナド井リ」金鑛業會社ト別個ノ物ノ如ク思ハル、カ果シテ然ラハ二個ノ會社カ組織セラレタルモノナリ而シテ此會社ハ孰レモ「アナド井リ」海灣ヲ距ル遠カラサル砂金床ニ於テ探金ヲ目的トスルモノ、如シ尙ホ「チユコトスキー」半島ノ鑛物ニ關シテハ東北西伯利會社ヨリ雇ハレタル鑛山技師カズルヒンナル者千九百三年同半島ヲ跋涉シ有用鑛物ノ探檢ヲ爲シ歸京ノ上「チユコトスキー」半島出張復命報告他ハ「吾人ハ「チユコトスキー」半島ヲ如何ニスルカ」ノ著述ヲ出版セルアリ千九百八年十一月二十日發刊沿黑龍江總督府官報ニ左ノ記事アリ十月二十九日彼得堡ニ於テ國議院議員「エフ、ツラウ」主唱ノ下ニ「露國商工業援助會」ト稱スル會カ會員ノ集會ヲ開キ鑛山技師「カズ

ルヘン」ヲ招聘シテ「吾人ハ「チユコトスキ」半島ヲ如何ニスルカ」ノ題目ノ下ニ同技師ノ意見ヲ聽取セリ技師ハ劈頭米國人カ地察加ニ有スル影響忌憚ナク言ヘハ彼等ノ跋扈跳梁ヲ指摘シテ斯ル狀態ニ陥リタル原因ニ就キ述フル處アリ進ンテ合金床問題ニ移リ縱令平均數ト雖モ其產額何噸アリト云フカ如ク詳細ニ其合金量ヲ舉クルコト能ハサルハ遺憾ナレト處々ニ發見セラル、自然ノ金塊其他ニ鑑ミ推測ヲ下セハ同半島砂金床ノ廣キ鑛脈ハ殆ント四百露里ニ跨リ居ルヘシ同半島ハ近キ未來ニ於テ露國ニ取リ宛モ米國ノ「カリホルニヤ」、「クロンダイク」ニ於ケル如キト同一ノ重要意義ヲ現ハスニ至ルヘシト説キ同時ニ其場合ニ採取セシ金ハ露國ニ落スコトヲ圖リ今日行ハレツ、アル如ク米國ニ流出セシムヘカラス之ニ對シ果斷ナル措置ヲ執ルノ要アリ其方法トシテ常ニ同半島ニ行政官ト陸軍ヲ駐屯セシメ盛ニ行ハレツ、アル砂金竊取者又ハ探金者ヲ取締リ定期船ノ回數ヲ増シ適當ノ地ニ砂金ノ精煉所ヲ起シ採取金ヲ買上クル途ヲ開カサルヘカラス然ラサレハ現下十分ノ九ハ米國ニ流出シツ、アリ砂金採取ニ大企業者ト露國ノ資金ヲ誘致スルハ緊要ニシテ決シテ外國人ノ手殊ニ米國人若クハ米國ノ資本ニ之ヲ掌握セシムヘカラス云々此口演ニ對シ會員間ニ長時間ノ討論アリテ盛會ヲ極メタリト由之觀是「チユコトスキ」半島ノ合金床四百露里ニ亘ルコト又現ニ竊ニ砂金ヲ洗ヒ採取セル金ヲ米國人ニ賣リツ、アルコトモ事實ノ如クナルカ露國ハ鑛業法ニ於テ沿海州(現時ノ堪察加州ヲ含ム)ハ海岸ヨリ百露里以外ノ地ニアラサレハ採取權ヲ與ヘス是即チ極東ニ於ケル鑛業ノ啓發セサル原因ナリ今其鑛業法ノ條文ヲ示サンニ第二編私營鑛業第四節官有空地ニ於ケル私營鑛業第二百五十九條(千九百二十年改正)ニ左ノ但書アリ

但シ沿海州總督ハ沿海州中朝鮮國境ヨリ沿岸ノ全延長ニ亘リ海岸ヨリ幅員百露里ノ地帶並薩哈噠島及其他附屬諸島ニ於テ鑛業經營ノ許可ヲ申請スルコトアルヘキ者ノ内身元確實ナル露國企業者ニ對シ其職權ヲ以テ許可スルコトヲ得之ニ關シ必要ヲ認ムルトキハ農務國有財產兩省大臣ニ協議スヘシ

總督ハ該法ヲ以テ拘束シ容易ニ個人ニ許可ヲ與ヘス依テ民間ニ該法改正ノ必要ヲ説クモノアリ千九百八年十二月二十六日發刊沿海州總督府半官報ニ彼得堡ニ於ケル鑛山技師ノ團體ハ極東ニ於ケル鑛業ノ規定ヲ改正スルコトヲ商工務大臣ニ

建議セントテ研究ノ上立案シ薩哈噠島並ニ沿海州中朝鮮國境ヨリ幅員百露里ノ沿岸ニ於ケル鑛業法規定改正ノ必要ヲ述ヘタリト而シテ一面當局者ニモ其改正ヲ必要ト認メ攻究シシ、アリト千九百九年六月二十七日發刊「ダリニー、ワストク」新聞記事ニ「チユコトスキ」半島ニ於ケル「ウオン、リヤルリヤルスキ」ノ特許契約ハ近ク滿期トナルニ依リ(千九百十年四月十日)總督府官房ニ於テ將來同半島ノ富源ヲ如何ニ利用スヘキカノ問題起リ總督ハ沿海州廳ニ意見ヲ下問セラ同廳ハ之ニ對シ自由ニ鑛業ノ經營ヲ許スハ鑛業ノ發達ヲ助長セシムルモノナレハ記前特許契約期限滿了後同地ニ鑛業經營ノ自由ヲ與フルハ最モ事宜ニ適シタルモノナルヘシトノ意見ヲ回答シ同時ニ同廳ハ同半島ノ營業ハ露國臣民ニ限ラレンコトヲ希望スル旨ヲ附言セリト

叙上ノ如ク沿海州沿岸ヨリ幅員百露里問題ハ早晚其改正ヲ見ルヘシ殊ニ「チユコトスキ」半島ノ如キ他ニ產物ナキ地方ハ其改正期ノ早キ丈ケ夫丈ケ早く一般ニ啓發セラレ且ツ竊ニ採取シツ、アル金ノ流出ヲ防遏シ得ヘシ

本年本官ノ便乘船ニモ「アナド井リ」ノ探金一隊浦潮ヨリ乘込ミ「アナド井リ」河口「ノウオ、マリインスク」ニ下船セリ此一隊ハ各自ノ資力ヲ以テ團結シ必要ノ器具ト糧食ヲ携ヘタリ彼等ハ皆少壯ノ輩ナリシカ熱心ト忍耐ヲ以テ明年ノ秋マテ探檢ヲ爲スト云ヘリ其向フ先ハ沿岸ヨリ百露里以内ハ手ヲ觸ル、能ハサレハ其奧地ヲ探檢スト此等ノ内ニハ曾テ東北西伯利會社ノ技師ニ使ハレ合金床ノ所在地ヲ知ル輩アル由ナルカ監督ナキ方面ナレハ果シテ沿岸ヨリ百露里以外ニ於テ探金スルヤ否ハ疑ナキ能ハス跋渉ニ困難ナル濕潤ノ原野ヲ糧食ト器具ヲ携ヘ百露里奧ニ履ミ入ランニハ折角探金セントスル季節ハ空シク經過シ翌年ノ夏マテ待タサルヘカラス抑モ彼等ノ奮發シテ遠ク來リタルハ恐ラク「アナド井リ」海灣附近ニ往々竊ニ砂金ヲ採取シツ、アルヲ聞キ之ヲ目的トシ來リタルニアラサルカ本官「ベトロバウロウスク」ニ寄航ノ節郡長ノ談ニ三名百露里以内ニ於テ探金セシ廉ヲ以テ現ニ拘留中ナリト「アナド井リ」砂金ノ噂ハ四方ニ喧傳セリ本官「ノウオ、マリインスク」ニ於テ砂金竊取者ノ手ヨリ出タリト云フ實物ヲ目撃セリ風説ニ據レハ竊ニ洗ヒ取リタル砂金ハ法律違反ナルヲ以テ露國人ニ賣ラス貿易ノ爲メ入込ム米國人ニ賣ル由ニテ已ニ米國人ノ手ニ渡リタル砂金ノ額鮮少ナラスト云フ

「チユコトスキー」半島ノ鑛脈ハ對岸「アリヤスカ」ノ繼續鑛脈ナルヲ以テ地中ニ包藏スル鑛物ノ如何ニ豐富ナルヤ知ルヘカラストテ米國人ハ夙ニ之ニ注意ヲ拂ヒ殊ニ「クロンダイク」ノ發見後ハ尙一層甚クシテ露國人ボツドゴルスキーノ如キ米國「アリヤスカ」金鑛業大組合ノ代理人トシテ露國農務省ニ請願シ露國々庫ニ有利ナル契約條件ヲ提供シ其特許ヲ得ントシタルアリ之ニ前後シ退職陸軍大佐ウエイ、エム、ウオンリヤルスキーハ同省ニ對シ自己ノ費用ヲ以テ「チユコトスキー」半島ト其附近ノ諸島嶼ニ鑛物ノ探檢隊ヲ出シ五ヶ年間之ヲ探檢シ十ヶ年ヲ經過スレハ探檢シ得タル個所ニ於ケル營業ノ特許ヲ得ンコトヲ申立タリ而シテ之ニ對シ同人ハ政府ニ探金ノ三分(現品)石炭ナレハ之ヲ賣捌キタル後一布度ニ付一哥ノ四分ノ一ヲ納ムルコトヲ負擔セリウオンリヤルスキー大佐ト政府ノ契約ハ千九百年四月十一日成立シ十ヶ年ノ特許ヲ得タレハ茲ニ東北西伯利會社ノ組織ヲ見タリ同會社ハ名義コソ露國人ナルカ其實ハ米國人ニ屬シ實ニ悲惨ナル歴史アリトテ「ルースコエ、スローウオ」新聞其記事ヲ掲ケタルヲ「ボグダーノフ」ノ極東案内ニ轉載セリ語調穩ナラサル點アレト其内容ヲ詳ニスル爲メ之ヲ左ニ摘録セン

退職大佐ウオンリヤルスキーハ五ヶ年間(一千九百四年九月八日此期限)千八百九十三年出版鑛業法ニ基キ鑛物探檢ノ許可ヲ得タリ其區域ハ「チユコトスキー」半島並ニ其附近ノ島嶼ニシテ南ハ「アナドネリ」灣ト同海灣東ハ白令海ト白令海峽國境マテ北ハ北氷洋沿岸ヨリ五十露里間西ハ「アングーエマ」河其河口ヨリ上流分水嶺ニ至ル「エンネナコル」川同川ニ沿ヒ同川「アナドネリ」海灣ニ注ク地點マテトス此區域内ニ於テ「ウオンリヤルスキー」ハ鑛業法第五百十四條ニ據リ森林ヲ伐採スル權利ヲ有スルノミナラス尙馴鹿ノ飼料、牧場、流水ヲ無償ニテ利用スルコトヲ得本條ヲ見レハ契約ハ宛モ明細ニ區域ヲ定メアル如クナレトモ其實ハ然カラス假令ハ「エンネナコル」川ノ如キ餘程緻密ニ探セハイサ知ラスル川ハ蓋シ無カルヘシ而シテ尙ホ「アングーエマ」河ノ所在ニ關シテハ「アナドネリ」郡長カリンニコフカ専門ニ此河ヲ踏査シタル處ニ據レハ地圖ニ掲ケアルモノトハ全ク其位置異ナレリト「ウオンリヤルスキー」ニ與ヘラレタ

ル此契約ハ無境界ト云フヘクシテ十ヶ年ヲ過キタル今日ト雖モ尙未タ境界定マラス其間ニ「チユコトスキー」半島ニ四回ノ探檢隊差遣セラレタルカ其成績ハ憚テ云ハ、僅ニ探檢ヲ遂ケリ之ヲ露骨ニ云ハ、一物トシテ要領ヲ得タルコトナシ(第一回ノ探檢ハ英國人ノ資本ニテ差遣シ同英人ヲ)第二回探檢隊トシテ地理ヲ研究スル爲メ農學士イワノフ出發後同會社ノ新社長(共同者ト爲サントシタルトモ成立セザリシト云フ)トシテ米國人ジョン、ロージンナル者現ハレ金ノ探檢ヲ地中ニ爲スニアラスシテ直接半島ノ住民「チユクチ」ヨリ求ムルコト、ナセリ爾來半島ニ火酒ノ洪水ヲ來シ「チユクチ」ヲ醉溺セシメ酩酊セルニ乘シ彼等ノ唯一財源タル毛皮ヲ二足三文ニ買取レリ斯クテ最後ノ年マテ經過シ千九百十年四月十一日ハ契約ノ期限滿了トナレリ此期限ノ終ル前同會社ノ鑛物ヲ探檢シ得タル成績ト何處ニ鑛物ヲ發見シ採取ニ着手シツ、アリ又何處ノ地ヲ其後引續キ會社ニ契約ヲ爲ス希望ナル旨ノ報告ヲ政府ニ提出スル義務アリ此ニ於テ會社ニ危急存亡ノ大問題起レリ即チ此會社カ尙今後十ヶ年「チユクチ」土人ニ對スル營業ヲ繼續シ得ルヤ否其權利ヲ取り止メントスルニハ會社ノ作業ヲ何トカ示サ、ルヲ得ス種々考慮ヲ回ラシタル後契約期限ノ最終ニ臨ミ殆ント愚ニモ着カサルコトヲ爲セリ會社ノ派出全權員ボリソフ(本官カ本年浦潮ヨリ薩哈連亞歷社ニシテ本年ヨリ同島ノ石油會社ニ屬ハレ赴任スル途申ナリシ)ハ探金ノ爲メ獸類ヲ狩獵シツ、アル土人「チユクチ」ヲ頼ミ黃色ナル鑛物ノ一片ヲ持參シタル者ニハ各一片ニ付禮品ヲ與フルコトヲ約セリ然ルニ不運ニモ其鑛物ヲ持參スル者ナカリシ同全權者ハ「チユコトスキー」半島ニ特ニ雇ヒタル汽船カ「ウラル」金鑛ヨリ勞働夫坑工長等二百人以上ヲ積載シ來ル等尙其汽船ニ彼等ヲ收容スル分解家屋又ハ金鑛業用品及ヒ糧食ヲ貯藏スル倉庫ヲ建築スル木材ヲ會社ヨリ送り越ス等ナリト言ヘリ然レトモ其船來ラサリシ鑛物ヲ發見スル此難産ノ經過中ニ株主ニ於テ若シ渴望スル好結果現ハレサル場合ハ左ノ如ク政府ニ報告スルコトヲ決議セリト即チ「チユコトスキー」半島到ル處ニ有用鑛物ヲ發見セリ故ニ契約期限ノ經過後ハ當然全半島ニ於ケル採取權ヲ會社ニ繼續セシメラレタシト

「ジョン、ロージン」ハ探檢者トノ契約ニ據リ彼等ヨリ坑區ヲ取り土ケ之ヲ特種ノ契約ニ據リ他人ニ讓與スル權利ヲ保留セリ簡單ニ之ヲ言ヘハ彼ハ勝手ノ時ニ探檢者ヨリ坑區ヲ取り上ケ自ラ組織セル會社即チ東北西伯利會社ノ固有物ト爲ス

權利ヲ有セリ探金ハ即時收入ヲ與ヘサルヨリジョン、ロージンハ他方面ノ收入ヲ發見セリ即チ毛皮ヲ買集シ貿易ヲ營ム是ナリ「チユクチ」トノ貿易ハ火酒ヲ多ク輸入スル丈ケ夫レ丈ケ好成绩ヲ呈シ多大ノ收入アリタリジョン、ロージンガ「チユコトスキー」半島ニ「アルコール」ヲ漲ラシメタリト云フハ全ク誇張ノ言ニアラス「チユクチ」ハ之ヲ飲ミ乞食同然ニ陥リ海陸獸ハ減少セシモ礦物ノ富ハ十年前ト同シク手モ觸レザリ抑モ是ハ誰ノ罪ナルカ米商ジョン、ロージンノ罪ニアラス即チ彼ヲ「チユコトスキー」半島ニ手ヲ染メサシメ多年之ヲ不問ニ置キ彼ニ賤辱跳梁セシメタル者ノ罪ト云ハサルヘカラス

「ウオンリヤルリヤルスキー」東西北伯利會社ノ惡評判其筋ニ聞ヘ其筋ハ之ヲ不問ニ置ク能ハサルニ至リ同會社ノ行動實地取調ノ爲メ鑛山技師ツリチンスキーヲ露都ヨリ千九百五年日露戰爭ノ當時亞米利加經由同半島ニ遣シタリ同技師ハ亞米利加通過ニ就キ會社ノ輩ヨリ種々ノ故障ヲ受ケタリシカ遂ニ同半島ニ渡リ取調ヲ爲シ大要左ノ復命ヲ爲セリ

- 一、東西北伯利會社 (Northern Siberian Company) ハ彼得堡ニ表面的ノ事務所ヲ有スルカ創立ノ當初ヨリ其實ハ米國ノ大組合ノ補助ニ依リ存立スル營業ナリ我東北ノ邊境ニ於ケル同會社ノ行動ハ我國家ノ利益ヲ保護スル見地ヨリスレハ營ニ希望セサルノミナラス全然有害ノモノト認ム
- 二、會社ハ半島ニ於ケル主眼的問題即チ鑛業ヲ起ス爲メ政府ヨリ特別ヲ以テ之ニ附與セル權利ナルヲ全然無視ス
- 三、會社ハ半島ニ於テ鑛物ノ探檢ヲ行ヒ發見シタル鑛物ヲ採取スル特種ノ權利ヲ濫用シ此權利ヲ他ノ會社探金組合又ハ個人ニ讓與賣却ヲ爲シツ、アリ
- 四、會社ハ我政府ノ許可ヲ得ス我東北邊境ノ全沿岸ニ於テ露西亞人又ハ亞米利加會社ノ競爭ヲ豫防シ自己ニ專賣的ノ貿易ヲ營ムコトヲ決議シ地方ノ土人村落ヲ相手ニ何等憚ル處ナク收益ヲ計リツ、アリ
- 五、會社ハ自己商業ノ利益ヲ計リ無制限ニ火酒ヲ輸入シツ、アリ
- 六、露國行政官ノ近クニ居ラサルヲ奇貨トシ會社ノ地方派出代理人殊ニ亞米利加人ハ諸般ノ權利ヲ濫用シ地方住民露國

勞働夫露國ノ傭員ニ對スル舉動ハ憤慨スヘキモノアリ

七、現時「チユコトスキー」半島ノ狀態ハ順調ニアラサルト同時ニ地中ニ包藏セラル、鑛物ノ富ハ探檢收益セラレス前途長ク空シク地中ニ埋没スヘシ

ツリチンスキー技師ノ復命ハ叙上ノ如ク又此著シキ契約而カモ其以上著シキ發意者タルウオンリヤルリヤルスキー大佐ノ歴史ハ斯ノ如ク幸ニシテ千九百十年四月十一日此山師の業ハ滿期ト爲レリ東西北伯利會社ハ清算シ半島ノ鑛業ヲ支配セル鑛山技師ボリーソフモ引上ケタリ會社ノ半島ニアル建物中一部ハ稅關ニ「ウラヂーミルスキー」哨所ニ在ル建物ハ商人トムソンニ「デジネフ」岬ニアルモノハ「チユウリン」商會ニ讓與セラレタリ

實ニ不思議トモ云フヘキハ「チユコトスキー」半島租借特許事業ノ重役タリシ者ハ同時ニアバザー、ベズオブラゾフノ參加セル世ニ名高キ鴨綠江ノ森林伐採ノ特許事業ノ重役タリシコト是ナリ其特許ハ露國ニ取リ二十億ノ金ト十萬ノ生命ニ値セルモノナリ云々

千九百十年五月六日發刊「ブリアム」リニ「新聞」ノ記事ニ據レハ農務省鑛山局ニ於テ局長クルナコフ議長ノ下ニ會議ヲ開キウオンリヤルリヤルスキーノ「チユコトスキー」半島ニ於ケル鑛物探檢及採取權利ノ移リタル東西北伯利會社ノ清算ニ就キ審議ヲ遂ケ愈清算セシムルニ決セリ其根據ハ政府ト締結セル契約條件ヲ恪守セザリシニ在リト

本年十一月二十六日發刊「ダリョーカヤ、アクライナ」新聞ノ「東西北伯利會社ノ燒ケ跡」ト題スル記事ニ據レハ同會社ノ最後ノ期限ハ千九百十二年ノ春ナリトアリ而シテ同會社ヲ採取權利ヲ得タル間ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ何人ニモ同半島ノ鑛物採取ニ手ヲ染メシメザリシカ今ヤ同會社ノ技師ニモアラス全ク個人ナル鑛山技師カルズーヒンニ如何ナル理由カ突然採取ヲ許セリ同時ニ同會社ニ尙ホ二ヶ年契約ノ繼續ヲ認メ斯クノ如クニシテ千九百十年ヨリ千九百十二年ニ及ヒタルモノナリ然ルニ探金ノ事實舉カラス雇員等ハ辭シ去ルヲ見レハ愈清算スルモノナルヘシト

尙ホ同會社ノ清算期限等ニ關シテハ千九百八年ヨリ十年ニ至ル「チユコトスキー」半島ニ會社ヨリ差遣セラレタル前記ノ

鑛山技師「ボリーソフ」ト本年本官浦潮ヨリ薩哈噠亞歷山德マテ同船シ親シク之ヲ聞ケリ同人ハ尙ホ鑛業ノ一部明年マテ期限ヲ有スト語レリ

本年七月二十八日發刊沿黑龍江總督府官報ノ記事ニ「アナド井リ」鑛鑛業會社ト稱スル會社新ニ組織セラレ「チユコトスキ」半島ニ於テ前東北西伯利會社カ鑛物採取ノ權利ヲ得タル其權利ヲ同會社ニ讓與スル件ニ關シ目下請願中ナリ此請願ノ許可アルマテ二十五名ノ經驗アル者ヲ同半島ニ差遣シ東北西伯利會社ノ貸下區割ヲ願ヒ出タル合金床ヲ實際ニ調査シ受授ヲ爲スタメ「アナド井リ」新會社ヨリ其許可ヲ沿黑龍江總督ニ請願中ナリト新「アナド井リ」鑛業會社ハ名稱ヲ改メタルマテニシテ矢張東北西伯利會社ニ關係セシコソニコ、ワリツオフ、カルズーヒンノ輩重役トナリ計畫シタルモノナリトハ「ダリヨーカー、アクライナ」新聞ノ傳フル處ナリ

千九百十二年三月三日並ニ二十日發刊官報ノ所報ニ據レハウオンリヤルスキト契約ノ最後ノ清算並ニ「アナド井リ」海灣ノ合金床ヲ政府ヨリ實地調査スル問題ハ大臣會議ニ提出セラレタリト又商工務省ハ同退職大佐トノ契約ヲ不履行ト認ムルニ依リ實地ニ就キ金ノ有無ヲ調査シ果シテ有リトスレハ之ヲ競賣ニ附スルカ若クハ行政處分ヲ以テ之ヲ競争ニ附スルカ兩者ノ内一措置ヲ執ルハ急務ト認メタリト

「アナド井リ」「チユコトスキ」兩郡ノ海陸產物

「アナド井リスキ」「チユコトスキ」兩郡ノ海陸產物ヲ調査スルハ興味アル事柄ニ屬ス然レトモ統計ノ徵スヘキモノナケレハ參考資料ニ據リ概略的ノ產額ヲ示サン

米國ノ捕鯨船カ著シク捕鯨業ヲ開始シタルハ千八百四十七年頃ナリト云フ左スレハ「チユコトスキ」半島ノ土人ニ貿易關係ヲ開始シタルモ其頃ナルヘシ「ゴングアチ」氏ハ千八百六十「七年若クハ其少シ前トモセリ」彼等カ毎年白令海峽ノ結氷開クヤ土人ノ嗜好品ヲ携ヘ來リ交換貿易ヲ行フ其影響ノ著シキハ彼等カ半島沿岸ニ現ハレテ以來「アニユイ」ノ年市ハ二倍以上運轉高ヲ減セリ即チ「カルイ

マ」郡ノ公報ニ依レハ千八百六十年前ノ年市運轉高ハ八萬留（地方ノ價格ニテ）ニ達シ同市ヨリ「ヤクートスク」市ニ輸送シタル海馬ノ牙ノミニテモ七百二十布度アリタルモノ二千乃至二萬留ニ減セリト（千八百二十四年「ウラングイ」氏ハ同市ノ運轉高ヲ十萬留ト見セリト云ヘリ）然ラハ現時米國人ハ幾許ノ貿易ヲ爲シツ、アルカヲ觀ルニ大約左ノ如キモノナランボクダーノフ氏ノ「極東案内」（千九百十年乃）ニ米國人ノ毎年「チユコトスキ」半島ヨリ輸出スル海馬ノ牙ハ約十二萬斤ナリ一斤約一留五十哥トスレハ十八萬留トナルト（此出所ハ恐ラク前國有財產管理廳長官「ウエアンスキ」ノ調査復命書ナルヘシ）其他鯨鬚ハ同長官ノ調査復命書ニ一ノ米國新聞ノ掲ケタル千八百八十九年ノ貿易ヲ引用シテ曰ク「チユコトスキ」半島ヨリ桑港ヘノ輸入額ハ鯨鬚ノ一種ニテ三萬一千斤此價格九萬五千七百五十弗之ヲ換算スレハ當時ノ相場ニテ十七萬七千三百三十七留ト爲ルト又千九百五年「チユコトスキ」半島ノ東北西伯利會社ノ營業取調ノ爲メ特ニ差遣セラレタル鑛山技師「ツリチンスキー」ノ演說中ニ（載テ千九百六年十一月十六日及十八日發刊沿黑龍江總督府官報ニ在リ參照）左ノ一節アリ東北西伯利會社カ千九百四年ヨリ五年ニ至ル同半島ニ於テ買集メ米國ニ送リタル鯨鬚ハ約六千二百斤（百五十布度）アリ其買價ハ一斤ニ付一弗五十仙乃至一弗七十五仙ト稱スレト其實ハ之ヨリ少ナク之ヲ賣リタル相場ハ左ノ如シ

「ノム」市ニテハ	四弗五十仙乃至五留	「シャートル」市ニテハ	七弗五十仙
桑港ニテハ	十二弗	組賣ニテハ	二十弗
海豹皮	九千八百五十枚	大海豹	二百三十枚
海馬皮	十五枚	海馬牙	八千二百斤
鯨鬚	八千斤	馴鹿皮	千五百枚
同脚皮	二百四十枚	北極狐（白色）	五百六十枚
熊（白色）	三十五枚	熊（藍色）	十二枚
狼	十九枚	羅	四枚

是等ヲ綜合スレハ米國人ノ貿易額ハ捕鯨ノ利ヲ除キ約三十八萬留内外ト看做スヲ得ヘシ
本官定期船ニテ「アナド井リ」河口「ノウオ、マリンスキー」哨所ニ碇泊中露曆七月三日「アナド井リ」郡長ハ同所ニ於テ

「アナド井リ」「チユコトスキ」兩郡ノ海陸產物

毛皮ヲ競賣ニ附セリ其數量及價格ヲ茲ニ示セハ

黒貂	六枚	競落 一枚	百四十留
三色狐	二十五枚	同	二十五留
赤狐	三百五十五枚	同	十六留
北極狐 (白色)	八百八十二枚	競落ナシ 價定 一枚	二十留
同 (黒色)	三枚	競落 一枚	四十留
白小熊	三枚	同	五十留
黒熊	七十五枚	競落ナシ 價定 一枚	十五留
木鼠	五千七十三枚	競落 一枚	六十留
白色鹿	七十三枚	同	一留五十留
狼	十九枚	同	十六留
川鹿	十五枚	不明	
川鹿	三十枚	競落 一枚	十六留
同	五枚	同 (五枚ニ付)	八十留
同	九十六枚	同	三留
同	千八百枚	同	一留五十留

之ヲ金額ニ見積レハ約四萬留ノモノナリ右ハ毛皮稅ニ取立タルモノニシテ其他商人ノ所持セル毛皮アリタリ其數詳カナ
 米國捕鯨船ノ貿易中著シキモノハ海馬牙ト鯨鬚ナルカ前國有財産管理廳長官ウエデンスキーノ調査セシ以來十七、八年
 過キタル今日形勢ハ多少推移セルモ假リニ同一ナルモノト見做セハ前者ハ十二萬斤(三千)後者ハ三萬一千斤(七百七十)其
 他東北西伯利會社カ曩年毛皮ヲ買集メ米國ニ輸出シタリト云フ額ハ現時ノ「チユウリン」商會買集スルモノト見做スヲ得
 ヘク尙ホ毎年二回往復スル定期船ニテ毛皮ヲ買集ニ入り込ム小商人ノ手ニ落ツルモノトヲ綜合スレハ「アナド井リスキ

「チユウトスキー」兩郡ノ差額ハ約四十萬留ニシテ大略細別スレハ左ノ如キモノナランカ

鯨鬚	六百乃至 八百布度	此平均價額	十二萬二千九百二十留
海馬牙	三千乃至 四千布度	同	二十一萬留
北極狐 (白色)	二千乃至 二千枚	同	二萬七千留
赤狐 (三色狐 ヲ含ム)	五百乃至 五百枚	同	七千留
木鼠	二千乃至 五千枚	同	千四百留
馴鹿皮 (採皮ヲ 含ム)	二千乃至 三千枚	同	五千五百留
白色狐	五十乃至 百枚	同	百二留五十留
黒貂	三十乃至 五十枚	同	三千留
熊 (白及茶 褐色)	約百枚	同	約六千留
海馬及海豹皮 (ヲ含ム)		同	約一萬留
類・早類・獲等 (領ノ產ナリ獲モ移入品多シ)		同	約千留
海馬牙細工及馴鹿皮ノ製品 (クワリヤンカ)		同	約五千留

計約三十九萬八千九百二十二留五十留

叙上ノ如ク擧ケ來レハ約四十萬ノ產額ニ達ス然レトモ別項其部ニ記スル如ク一面ニ馴鹿ト海馬ノ減少又他ノ陸獸モ濫獲
 ノ結果次第ニ其數ヲ減シツ、アル統計ニ鑑ミ來レハ「アナド井リスキー」「チユウトスキー」兩郡ノ產額ヲ約四十萬留ト見
 積ルハ恐ラク多キニ過クルモノナルヘシ

貿易ト我毛皮商

「アナド井リ」郡貿易ノ中心タル「マルコウオ」邑ハ「オホツク」海岸ノ「ギジガ」八百露里(路)「アナド井リ」河口「ノウオ、マ
リインスク」ヨリ七百露里ノ上流ニ在リテ夏殆ント交通ナシ十月初旬冬季雪路ノ開クルヲ俟テ犬橇ヲ以テ往復ヲ始ム前
者トハ片道三週間吹雪ノ爲メ往復ニ四十日乃至五十四日ヲ要シ後者トハ二十七日乃至三十四日ヲ要スルコトアリ夏二
月半間ハ「アナド井リ」河ヲ利用シ一回ノ往復ヲ爲ス(降リ十日ヨリ十二日)又冬季「ニージネ、カルイムスク」市ノ附近ニ在
ル「アニユイ」(ヨリ七百露里)ノ年市ニ犬橇ノ商隊ヲ向ケ商品ノ輸入ヲ圖ルアリ此通路ニハ犬ノ食糧ヲ途中ニ求ムル能ハス
シテ皆携フルニヨリ貨物ハ一臺ニ付六乃至八布度ヨリ積メスト云フ前記二者往復ノ犬橇及特ニ雇フ「ノウオ、マリイン
ク」行舟ノ運賃ハ一布度ニ付三留場合ニ依リ其以上ヲ要ス右ノ内比較的容易ナル交通路ハ「マルコウオ」ト「ギジガ」トニ
アリ凡ソ冬季遠隔ナル地ニ旅行スルニハ犬橇ノ食糧ニ困難ヲ極ム自身ニ多ク携フレハ商品貨物ヲ多ク積メス「ギジガ」行
ハ止ムヲ得ス之ヲ途中ノ「カリヤキ」部落ヨリ之ヲ購買ス然ルニ「ベンジン」灣ノ漁況不良ナリシ時ハ安ク之ヲ賣ラス前
記ノ運賃三留ヨリ遙ニ超過スト云フ犬橇ハ一臺ニ付普通犬十二頭ヲ繫キ荷物ハ犬一頭ニ付一布度乃至一布度半ヲ限度ト
スルカ故ニ貨物移入ノ困難名狀スヘカラサルモノアリ叙上ノ事情ニ依リ「マルコウオ」邑ノ物價ハ頗ル高直ナリ然レトモ
概シテ水草ヲ逐フテ轉住スル部落ヨリモ五倍方安シト云フ同邑ノ商人コスイギン其他ハ十月初ヨリ「ギジガ」ニ向テ二
十乃至三十臺ノ犬橇ヲ向ケ携フル處ノ毛皮北極狐白熊等ヲ以テ彼ノ地商人ヨリ商品ヲ仕入レ又「ギジガ」ノ商人モ十五乃
至二十臺ノ橇ヲ「マルコウオ」ニ送り必要品ノ交換ヲ爲ス十二月中旬ニハ土地ノ返リ橇ト新ニ來ル橇ト輻輳シ移入貨物ノ
取引ハ多少ノ般賑ヲ極ム此時期ヲ見計ラヒ白令海峽ノ沿岸ニ散在スル「ノウウイニ、チユクチ」ハ「マルコウオ」邑ニ來集ス
移入商品ノ重ナルモノハ磚茶、砂糖、「チエルカススキ」、葉煙草、鐵砲、火藥、雷管、鉛(銃丸)、鐵、及銅鍋、斧、鋸、係蹄(俗ニ云
類)、庖丁、食器、茶碗、更紗、雲齋、麥粉、燐寸、糸、針類ノ小間物ト殊ニ「アニユイ」ノ年市ヨリ移入スル漁網ヲ結フニ要スル
馬尾毛、麻、苧等ナリ麥粉ハ近年ニ至リテ商品ト爲リタルモノナリ「マルコウオ」邑民ハ元ト土人ヨリ進化シタルモノナル

カ故ニ彼等ハ魚肉ト鳥獸肉ヲ常食トス近來文化波及ノ爲メ祭日又ハ祝日等ニ麵麩ヲ燒キ來客ニ饗シ自己ニモ食スルモノ
ナキニアラサルモ未タ之ヲ常食トセスト云フ

「チユクチ」ニハ「アレンヌイエ」ト「シヂヤチエ」ノ二種アリ前者ハ馴鹿ヲ有シ所謂水草ヲ逐フテ轉住スル輩後者ハ曾テ
或時ハ馴鹿ヲ有シタルカ今ヤ之ヲ失ヒ止ムヲ得ス土着シ沿岸ニ於テ魚ヲ漁シ海獸ヲ獵シ生活シ居ルナリ而シテ後者ニ屬
スル「ノウウイニ」ト稱スル輩アリ是ハ貿易ヲ營ムト云フ義ニシテ米國人若クハ露西亞人ト專ラ貿易ヲ營ミ「アレンヌイ
エ」ニ彼等ノ必要品ヲ賣リ「コンミツシヨ」ヲ取り生活シ居ル輩ナリ此仲買「チユクチ」ハ冬季橇路ノ開クルヤ米國商品即
チ「ウインチエ」銃、彈丸、麥粉、鐵銅器、雲齋、毛皮等ヲ橇ニ積ミ「アレンヌイエ」ノ水草ヲ逐フテ轉住シ居ル地方ニ
赴キ部落ヲ廻リ馴鹿、馴鹿皮、同製品ト交換シ航海ノ開クルヤ之ヲ以テ米國船ト交換ヲ行フ千八百九十六年ノ報告ニ據レ
ハ近時米國領ノ島嶼ニ住ム「エスキモース」ハ磚茶ト露國ノ烟草及砂糖ヲ類リニ好ミ米國人ハ此種ノ商品ヲ持チ來ラサル
ニヨリ「チユクチ」ヲ介シ大ニ求メントス故ニ「ノウウイニ、チユクチ」ハ「バイダルカ」舟ニ乘リ島嶼ヲ廻航シ其需要ヲ供
給スルアリ彼等ハ「アレンヌイエ」ノ轉住地及「マルコウオ」等ニ來リテモ馴鹿及其製品ヲ求ムル外尙ホ磚茶ト露國產ノ
烟草、砂糖ヲ多ク求メ行キテ米國ノ土人ト貂ノ類、川臘虎其他ノ毛皮等ト交換シ之ヲ更ニ「アナド井リ」地方ニ移入ス川臘虎
ヤ貂ノ類ハ「チユコトスキ」半島ノ產ニアラスト斯クテ彼等ハ十二月十日ヨリ二十五日間ニ「マルコウオ」ニ來リ一月
一杯物々交換ニ奔走シ二月ニ入り歸途ニ就ク「マルコウオ」商人ハ夫ヨリ方向ヲ轉シ西方「アナド井リ」河ノ上流ニ散在ス
ル「ラムート」土人ヲ顧客トシテ商賣ヲ爲ス「ラムート」人ハ耶蘇復活祭前大精進ノ最後ハ一週ニ「アルコウオ」ヨリ百八十
露里ノ距離ニ在ル「エローポリ」村ニ輻輳ス同村ニハ禮拜堂アリテ「マルコウオ」ノ僧侶モ來リ説教其他洗禮、結婚式等ヲ
行ヒ殆ント年市ノ如キ觀ヲ呈ス其間二三週ニ亘リ「ラムート」及馴鹿ヲ率ユル「チユクチ」等ト毛皮ノ賣買盛ニ行ハル「ラ
ムート」人トノ商賣ハ重ニ一年ヲ期トスル信用貸ニシテ毛皮ヲ以テ前年ノ借ヲ拂ヒ更ニ必要品ヲ借リ行クト云フ
ゴンダツチー氏カ郡長タリシ當時即チ千八百九十四年此「エローポリ」村ノ年市ノ土人貿易市ニ臨ミ親シク調査シタルモ

ノヲ茲ニ掲ケ移入移出高ト如何ナル商品ナルカヲ知ラシムルニ便ナラシム
交換貿易ハ一月二十五日ヨリ二月二日ニ亘リ行ハレ土地ノ住民ト外來者ニテ交換シ得タルモノハ

赤色狐	百五十六枚	北極狐(白色)	四十三枚
川鹿虎	十九枚	獺	一枚
三色狐	十六枚	熊(茶褐色)	四枚
熊(白色)	一枚	木鼠	八百八十五枚
獾	一枚	馴鹿皮(一年未滿)	六枚
馴鹿皮(生シテ二ヶ月未滿ノモノ)	六百八十四枚	馴鹿皮(ノモノ)	百二十二枚
馴鹿皮(七ヶ月以上一年未滿ノモノ)	三十八枚	「マーモント」ノ骨	三布度
「カムレーヤ」(水ヲ透ササル上衣)	十五枚	鯨鬚	六「フント」
海馬牙	一布度半	海獸油	八袋(袋ノ如ク海豹皮ヲ以テ製シタルモノ)
鯨骨(用)	二對		
「ワインチエステル」銃	二挺		
其他米國製ノ更紗、雲齊、火藥、鉛(銃丸)等ノ小數アリタリ雲齊ノ上等品平均價格「アルシン」ニ付八哥乃至十哥(價格ニ更紗ノ下等品モ殆ント之ト同一ナリシト)			
前記ニ對シ土人ニ支拂ヒタル貨物ハ左ノ如シ			
磚茶	二百五十六枚	葉茶	四十二斤
砂糖	百五十二斤	「チエルカススキー」烟草	二十布度二十七斤
銅器(類)	二布度二十七斤半	鐵器(廚具)	二布度
首卷	十四枚(「チユクチ」ト「ラム・ト」大ニ之ヲ好ムト云フ)	茶碗	四對
其他「シヨール」ノ類、櫛、針等ナリシト			

千八百九十二年當時ノ沿黑龍江總督コルフ男カ副官オルスフイエフヲ「アナド井リ」郡ニ出張セシメ諸般ノ調査ヲ爲サシメタリ同副官ノ復命書ニ依レハ同郡ニ移入セル商品貨物ハ左ノ如シト但シ其價格ハ現時ト大差アルモ取引關係ヲ示ス爲メ其儘ヲ掲ケン

葉烟草	二百八十四布度	二、八四〇留
磚茶(七十二龍)	二百九十布度	一、二九六留
鐵鍋(小數銅鍋ト藥罐ヲ含ム)	四十一布度	五〇〇留
砂糖	八布度	五六留
粗製麻布(解キテ網ヲ結ブ)	七百「アルシン」	七〇留
火酒	十二「ワエドロ」	一八〇留(?)
捕鯨船カ輸入シタル米國ノ製造雜貨	合計	五、〇〇〇留
		九、九四二留
狐(赤色)	一、〇八〇枚	五、九四〇留
北極狐(白色)	二、二三〇枚	六、六九〇留
川鹿虎	二〇五枚	四、一〇〇留
貂	九五枚	二、三七五留
木鼠(ラム・ト人ノ移出スルヲ除ク)	四、〇〇〇枚	一、二〇〇留
熊(シベリア)	四〇枚	一、〇〇〇留
貂ノ類	一九〇枚	九五〇留
馴鹿ノ採皮	二、四〇〇枚	八、六四〇留
馴鹿皮(土人カ直接移出スルモノヲ除ク)	五〇〇枚	五〇〇留
捕鯨船カ「チユコトスキー」ノ半島ヨリ輸出シタル海馬牙及毛皮	合計	一〇、〇〇〇留
		四一、三九五留
貿易ト我毛皮商		

品目	地		計
	「エウソマン」	「ウエーレン」	
鯨	二四〇	一八〇	四二〇
海馬	八六	一四八	二三四
白熊	五	一四	一九
北極	二二	一八	四〇
海豹	三六	二八	六四
馴鹿	一一	一七	二八
同製具	二六	一九	四五
「クフリヤンカ」	一四	一一	二五
馴鹿皮製股引	一八	一五	三三
海豹皮製股引	一四	一五	二九
「トルバスイ」	七二	三七	一〇九
馴鹿皮製靴	八	一〇	一八
同上製靴下	二	六	八
海豹皮製手袋	一一	一五	二六
馴鹿皮製手袋	一一	一五	二六
海豹皮製手袋	一一	一五	二六
全製帽子	一八	一〇	二八
食料	三	一	四
馴鹿	五	一	六

前記「ノウオ、マリインスキ」哨所カ貿易ノ中心ト爲リタルハ一時ノ事ニ屬シ千八百九十六年沿海州廳ヨリ「アナド井リ」ニ出張ヲ命セラレタルシリニツキ「旅行記」(千八百九十七年出版露國)ニ據レハ同哨所ノ土人小屋ハ十四戸ト云ヘリ本官ハ大畧八戸乃至十戸ト計上セリ又或距離ヲ隔テ、附近ニ弗々散在スルヲ見タリ要スルニ「アナド井リ」ニ郡ヲ置カレテヨリ毎年軍艦若クハ臨時雇汽船ヲ一回廻航セシメラル、アリテ同地方ノ貿易ニ大ナル變化ヲ來シ又千九百年「ウオンリヤルリヤルスキ」カ政府ノ特許ニ據リ「チユコトスキ」半島ノ金鑛探検ヲ目的トシ組織セル東北西伯利會社ハ一面ニ貿易ニ手ヲ出シ而シテ明治四十年頃ヨリ「アナド井リ」河ノ北方「デジネフ」岬ニ定期航路ヲ開始セラレ四十一年ヨリ浦潮ノ

漁業者エリクソン四十二年ヨリ「グルシエツキ」會社「アナド井リ」河ニ漁業ヲ經營スルニ至ルヤ北地ノ航運ハ一進歩ヲ現ハスト同時ニ犬若クハ馴鹿ノ棧ヲ以テ僅ニ移入シタル貿易ハ一新生面ヲ開キ千八百九十五年頃ヨリ米商タラント「エル」ノ「ノウオ、マリインスキ」哨所ニ開業スルアリ現時此後ヲ襲キ「スウエンツエン」ナル者營業シツ、アリ其他露商「シユウストフ」ノ「マルコウオ」ニ店ヲ開キ同地ニ其出張店ヲ有スルアリ殊ニ官有倉庫ナルモノアリテ地方住民ハ品ハ土人保護費ヨリ或金額ヲ限リ雜貨ヲ仕込ミ置キテ拂下ケ商人カ利益ヲ壟斷セサル方法ヲ講シツ、アレハ地方住民ハ昔日ノ如キ不便ヲ訴フルコトナキニ至ル最近ノ事實トシテハ千九百年官ノ販賣倉庫ヲ「デジネフ」岬ニ設ケ翌九年ヨリ「チユウリン」商會カ其後ヲ引受ケ地方住民ニ需用品ヲ供給スル途ヲ開キタルアリ露國商工新聞ノ記事ニ據レハ(千九百十年三月三日發)同商會カ初年商品ヲ送リシハ三萬留ノ額ナリシカ翌年二月ニハ殆ント之ヲ賣リ盡セリト又其支配人ノ談ナリトテ掲ケタルニ一年ノ販賣高約十萬留ト見積ルヲ要スト千九百九年商工務省ヨリ北氷洋東北沿岸ニ調査隊ヲ派遣シ地方人民ノ要求ヲ調査セシメタル報告ニ據ルモ「チユコトスキ」半島ニ移入セラル、必需品ハ遙ニ地方人民ヲ満足セシムルニ足ラサルモノト認メリト宜ナルカナ「ヤクト」市ヨリ「スレドネ、カルイマ」市マテノ運賃ハ一布度ニ付冬季八留夏ハ不便ナレハ一層高シト運賃ノ高低ハ姑ラク擱キ交通ノ唯一機關ハ馴鹿ト犬棧ナレハ容易ニ供給シ得ラレサルモノナリ此ニ於テカ一面米國ノ貿易船カ露領沿岸ニ闖入シ跋扈スル所以ニシテ彼等カ如何ニ巨利ヲ貪ルモ土人ハ一ノ救助者トシテ歡迎シ彼等ノ來ルヲ待ツ露國ノ商人ハ進取ノ氣象ニ乏シク露國カ「チユコトスキ」半島ヲ領シテ以來二世紀半以上ニ及ブト雖トモ此頃迄同商等ノ隻影タモ認メサリシ「デジネフ」附近ノ「チユクチ」ハ露語ヲ解スル者稀ニシテ多クハ英語ニ通ズ然ルニ露國商ハ英語ノ素養絶無ナレハ土人ト意思ヲ通スル能ハス隨テ貿易關係開始セラレス土人ハ米國商ヲ尊敬シ露商ヲ輕侮スルノミナラス甚シキハ露商ヲ自己以下ト見做シ居レリト(千九百十一年十月二日發刊「ブリアム」紙)土人ヨリ何等求メントスレハ露國ノ貨幣ヲ取ラス米國ノ弗ヲ與ヘヨト云フハ本官モ自ラ之ニ遭遇シタル事實ニシテ前記「デジネフ」岬ニ開店シタル「チユウリン」商會モ土人トノ計算ハ米貨ニ據ルノ止ムナキニ至レリト此事實ニ徴シテモ米國ノ勢力ヲ推知

貿易ト我毛皮商

スルニ足ルヘシ

本年函館ノ我毛皮商カ前記地方ニ毛皮買集ノ爲メ赴キタルハ澤克己外五名ナリシカ彼等カ「ベトロバウロフスク」ヲ始メトシテ各所ニ於テ買求メタル毛皮ヲ大略示セハ

北極	狐	百七十三枚
白熊	熊	八枚
黒熊	熊	九十五枚
川	虎	七十五枚
類	類	四十八枚
類	類	四枚
類	類	一枚
類	類	一枚
馬	鼠	四十五枚
海	牙	十度

前記ノ我商人ハ「ベトロバウロフスク」ニ於テ四等營業鑑札ヲ受ケ(四十留)毛皮買集ニ限ル營業ノ權利ヲ得テ北部ニ往航シタルモノナリ此内僅カニ商品即チ手遊物ノ類ヲ仕入レ行ケル輩アリタルカ多クハ現金ニテ之ヲ買ヘリ土人ハ現金ヲ好マサルカ露國ノ同業者ト賣買スルモノ多シ凡テ毛皮商ハ各自見込ノ皮アリテ可成其見込ノ皮ヲ買ヒ集メントス故ニ同業者間ニ賣買アルモノナリ皮買ノ競争者頗ル多ク爲メニ價格ヲ競リ上ケ互ニ儲ケナキニ至ラシム定期船ノ沿岸土人部落ニ碇泊スルヤ土人モ「バイダカ」舟ニ乘リ拔錨ヲ待タス船ヲ見テ來集シ船ノ皮買商人ハ船ヨリ舳舟ヲ下サヤ各自交換品ヲ携ヘ争フテ上陸シ先鞭ノ功ヲ奏セントス又船ヨリ商品ヲ垂下シ舷側ニ於テ交換ヲ爲スアリ本年ヨリ船ニ於テ交換ハ禁止セラレタルモ消費稅務官ノ陸上ノ監督ノ爲メ上陸スルヤ其留守ニ右舷左舷舳舻到ル處ニ船上ノ皮買ト船下ニ漕キ寄セタル土人ト交換貿易行ハレ其狀仲々見物ナリキ

皮買商ハ前記ノ如ク各自見込ノ皮アリ露商側ハ姑ラク攔キ我商ハ主トシテ如何ナル毛皮ヲ買集ムルヤト云フニ熊皮、類、川臘虎ノ類ナリ右ハ我國ニ賣レ口澤山アリ北極狐、木鼠ノ如キハ日本ニ持チ歸リテモ外商ニ轉賣スル外ナキモノナリ我

管内ノ北地ニハ馴鹿皮頗ル多シ本官ハ夙ニ馴鹿皮ノ利用ニ就キ考慮スル處アリ其揉皮ハ袋物師ノ材料ニ供シ何等カノ用途アルヘキヲ思ヘリ本年同皮ノ豊富ナルヲ目睹シ一層其感ヲ切實ニシ産額并ニ價格ノ點ヨリスルモ我國ニ輸入シ十分ノ見込アルモノト認メリ依テ我毛皮買商ニ就キ本官ノ意見ヲ披瀝シタル處彼等曰ク馴鹿皮ニハ何レモ灸跡ノ如キ傷澤山アルカ故ニ我國ニ用途甚タ狭シト本官ハ初メテ其傷アルヲ知リタリ而シテ其傷ハ何ノ傷ナルヤト問ヒタルニ彼等確答シ得ス一日「アナドネリ」郡長ニ尋ネタルニ此ト蠶蠶ノ整シタル跡ナリト答ヘタリ此ニ至テ別項ニ記スル野生馴鹿群カ毎年夏季北氷洋ノ沿岸ニ向ヒ大行進ヲ爲ス理由ヲ知レリ同地方ニ蚊蚋蠶蠶ノ多キハ實ニ豫想外ニシテ單ニ飛ヒ來リ整スノミナラス軟毛ノ内ニ卵ヲ置キ苦シマシム爲メニ種獸ノ斃死スルモノ尠ナカラス此復命書ヲ草スルニ當リ或著書ヲ繕キタルニ彼ニ整サレタル皮ヲ透シ見レハ殆ント篩ノ如シト記シアリ然レトモ主トシテ整サルハ部分ハ背ト首ニアレハ全部皮ノ利用ナシト認ムル能ハス其製革ハ手袋又ハ袋物材料ト爲スヲ得ヘク當業者ノ一考究ニ訴ヘント欲ス

火酒密輸入

堪察加ニ火酒ノ密輸入ハ古キ歴史ヲ有ス其淵源ハ貿易商カ土人ニ彼等ノ何ヨリ好ム酒ヲ饗シ醉ハシメタル後物々交換ヲ營ミ欺瞞ヲ以テ利益ヲ壟斷シタルニ在リ因襲ノ久シキ途ニハ火酒ナカラシムニハ土人ト何等商取引關係ヲ結フコト能ハサル惡弊ヲ作り出セリ爾來彼地ノ土人カ毛皮ヲ携ヘ日需品ヲ求メニ來リテモ其商談ノ開始ハ是非共一杯ノ酒ヲ饗セサレハ打チ解ケテ之ニ應セサルコトトナリ途ニハ酒ナカラシムニハ商業ヲ營ムヲ得ス又商業ノ甘キ儲ヲ見ルコト能ハサルニ至レリ隨テ商工業會社ノ如キ大商舖其他大小ノ商人殊ニ行商人ハ皆竊ニ火酒ヲ亂用スルニ至リタルモノナリト堪察加土人ハ火酒ニ中毒セル今日急ニ之ヲ禁止セントスルハ容易ノ業ニアラサルヘシ露國政府ハ沿海州及堪察加ノ土人ニ火酒ヲ供給シ醉溺セシムル其弊害ノ一部分ハ我漁業者カ出漁ノ際密輸入スルカノ如ク考ヘ居ルモノト見ユルカ全然無シトハ確保セサレ共前記ノ狀態ナルカ故ニ露國人自ラ之ヲ密輸入スルモノナリ又北地ハ監督ノ至ラサルヲ利用シ米國人ニ據リ輸入セ

火酒密輸入

ラレ堪察加ハ南北ヨリ火酒流入シ漲溢ヲ來セリ現ニ千九百十年沿黑龍江總督ウシタル堪察加ヲ觀察シタル際堪察加ノ土人ヲ醉溺セシムル火酒ノ供給者ハ義勇艦隊ナルコトヲ認メタリト(千九百十年十月十九日「アリヤスカ」新聞記事参照)然レトモ義勇艦隊其物ハ火酒ノ供給者ナラサルコト明ナリ船員ト乘客トニ後者ハ毛皮買集ノ爲メ義勇艦隊艦便ニテ北地ニ赴クモノナレハ彼等カ主トシテ供給スルヤ言フ俟タス本年ヨリ之ヲ取締ル爲メ特ニ北地ニ航スル際ニハ浦鹽ヨリ消費稅務署ヨリ當該官一名宛乘込マシムルコトトナリ現ニ本官ノ乘船ニハ「カドムツエフ」ト云フ者ヲ派遣セラレ途中寄航地ニ於テ揚荷若クハ積入ルル貨物ハ一々同官之ヲ検査セリ斯クテ例年毛皮買集メニ航スル小商人ハ火酒ヲ携帶スル能ハサレハ甘キ儲ナシトテ大恐慌ヲ來シ中ニハ「ベトロバウロフスク」港ヨリ北行ヲ見合セタル者アリシト聞ク消費稅務官ハ命令ナリトテ義勇艦隊定期船ノ甲板上ニ於テ本年ヨリ一切土人ト貿易ヲ禁シタリ仍テ貿易ヲ爲ス者ハ商品ヲ陸揚ケシタル上ニテ行ハサルヘカラサルニ至リ其際稅務官ハ貨物ヲ一々検査セリ火酒ヲ沒收セラレタル事件二三件アリタリ稅務官一名ノ出張ニテ全然火酒輸入ヲ取締ル能ハス彼カ必要アリテ陸上ニ在レハ其間ニ小舟ニ乘リ定期船ニ來リタル土人ハ何ノ願慮ナク交換貿易ヲ行ヘリ稅務官ノ乘込マサル以前ニ比較スレハ南ヨリ露國人カ輸入スル火酒防止ニ效果ヲ來スハ言フ俟タス然レトモ米國貿易船又ハ同國捕鯨船ノ輸入スル北方口ハ容易ニ防止シ得サルヘシ米國ヨリ輸入スル火酒ヲ取締ルハ至難ナリ何トナレハ發動機械ヲ備フル帆船又ハ小蒸汽ノ「アリヤスカ」殊ニ「ノーム」等ヨリ往復スルモノ頻繁ナレハナリ前ノ國有財產管理廳長官ウエデンスキーノ北海ノ鯨獵ト漁業保護ニ關スル復命書ノ一節ヲ茲ニ摘録シ米國人ノ「ラム」酒ヲ供給スル狀況ヲ知ラシメン

「チユクチ」人ニ對スル米國人ノ「ラム」酒供給力如何ナル程度ニ達スルヤハ次ノ一事ニ依リ察知シ得ヘシ「チユクチ」人ノ多數ハ常ニ衣服ノ下ハ此強度ノ酒ヲ入レタル壺ヲ藏シ居レリ彼等ノ多數ハ「ラム」酒トノ交換ニアラサレハ貿易ヲ欲セス看ヨ「チユクチ」人ノ村落ニ外國船入港シタル翌日ハ全村ノ住民老幼ヲ問ハス舉テ醉溺シ罵詈、爭論、喧嘩ヲ極メ爭鬪ノ果ハ死傷者ヲ出ス彼等ノ「ラム」酒ニ對スル嗜好ハ驚クヘキモノニシテ「ラム」酒一壺ノ爲メニ自己ノ最愛ノ妻ヲ賣ル例少ナカラス而カモ其「ラム」酒ニハ米國人カ水ヲ混交シ酒色及麻酔力ヲ減損セサラシムルニハ之ニ米國煙草ヲ浸セリト千八百九十五年當時ノ「アナド井リ」郡長ゴンダッチー四月犬橋ニテ「ノウオ、マリインスク」ヲ發シ汽船ノ來航ヲ待ツヘク「プロウイデー」ニ赴キ船待ノ日時ヲ利用シ「デジネフ」岬ヲ越ヘ「ウエーレン」ニ至リ途次各部落ニ立寄り土人ノ要求ト人口等ヲ調査シタリ其際或部落ニ於テ「チユクチ」ノ喧嘩スルヲ目撃シ其不心得ヲ諭セルニ其部落ノ老人曰ク「近頃ノ少壯者ハ老人ノ言ヲ用ヒサレハ如何トモスヘカラス然レトモ凡テ喧嘩ノ原ハ米國人ノ輸入スル大酒ト露國人ノ携ヘ來ル「ムホモール」(蘇草ノ名實之ヲ乾燥シ置キ水ニ浸シ酒ノ代リニ飲ム酒ノ如ク醉ス)ニ在レハ之ヲ禁セラレタシト(當時ノ旅行記ニ在リ)由是觀之土人モ酒ノ害ヲ認メ居ルハ明ナリ教育アル者スラ酒ニ據リ身ヲ亡ス者尠ナカラス況ヤ土人ニ於テオヤ酒ノ爲メ常識ヲ失ヒ喧嘩シ其果ハ殺傷スル豈不可思議トセンヤ故ニ火酒密輸入ノ防止ハ當局者ノ急務トナズヘキモノナリ

結論

本官此行ノ觀察記事ヲ結フニ方リ本官ハ一般の觀察ヨリ「チユコトスキ」半島ノ價值如何ニ論及セント欲ス世人ハ今ヲ距ル約十年前西伯利「アリヤスカ」鐵道ノ計畫アリタルコトヲ記憶スルナラン一ノ米國「シンヂケート」ノ企畫ニ係ハリ其代表「ロング、デ、ロベリ」ニ依リ露國政府ニ交渉アリ「アリヤスカ」ヨリ白令海峽(デウネフ「ブリンス」岬、ウエー「ルス」兩岬間八十八乃至九十露里)ノ地下ヲ通シ「カンスク」市(トムスク市ト「ム」市ノ間ニ在リ)ニ延長シ西伯利鐵道ノ停車場ト聯絡セシメントシタルモノナリ該申込ハ當時露國大臣會議ニ於テ否決セラレ此計畫ハ已ニ昔日ノ談柄ニ屬セリ然ルニ本官カ之ヲ茲ニ引用シ殊更當時ノ露國新聞ヨリ布設非常ニ困難ニシテ巨大ノ資金ヲ要スル次ノ記事ヲ摘録スル所以ノモノハ世人ノ記憶ヲ喚起シ然シテ後此多難多費ヲ要スル鐵道ヲ布設スルハ何ヲ目的トセシカラ知ラシメン爲メナリ

當時米國「シンヂケート」ノ提供セル條件大要左ノ如シ
 (一)「シビリ、アリヤスカ」鐵道ハ其收入ノ如何ニ係ハラス政府ノ補助ヲ仰カサルコト

(二) 鐵道線路ノ左右十二「キロメートル」間ノ地上並ニ地中ニ藏スル物件ヲ收益スル特權ヲ得ルコト

(三) 契約期間ハ九十年トス但シ三十年經過シタル後回收スルノ權アルモノトス

(四) 鐵軌、車臺、汽罐車等ヲ購入スルニ當リ其四分ノ一ハ露國ノ製造所ニ注文スルコト

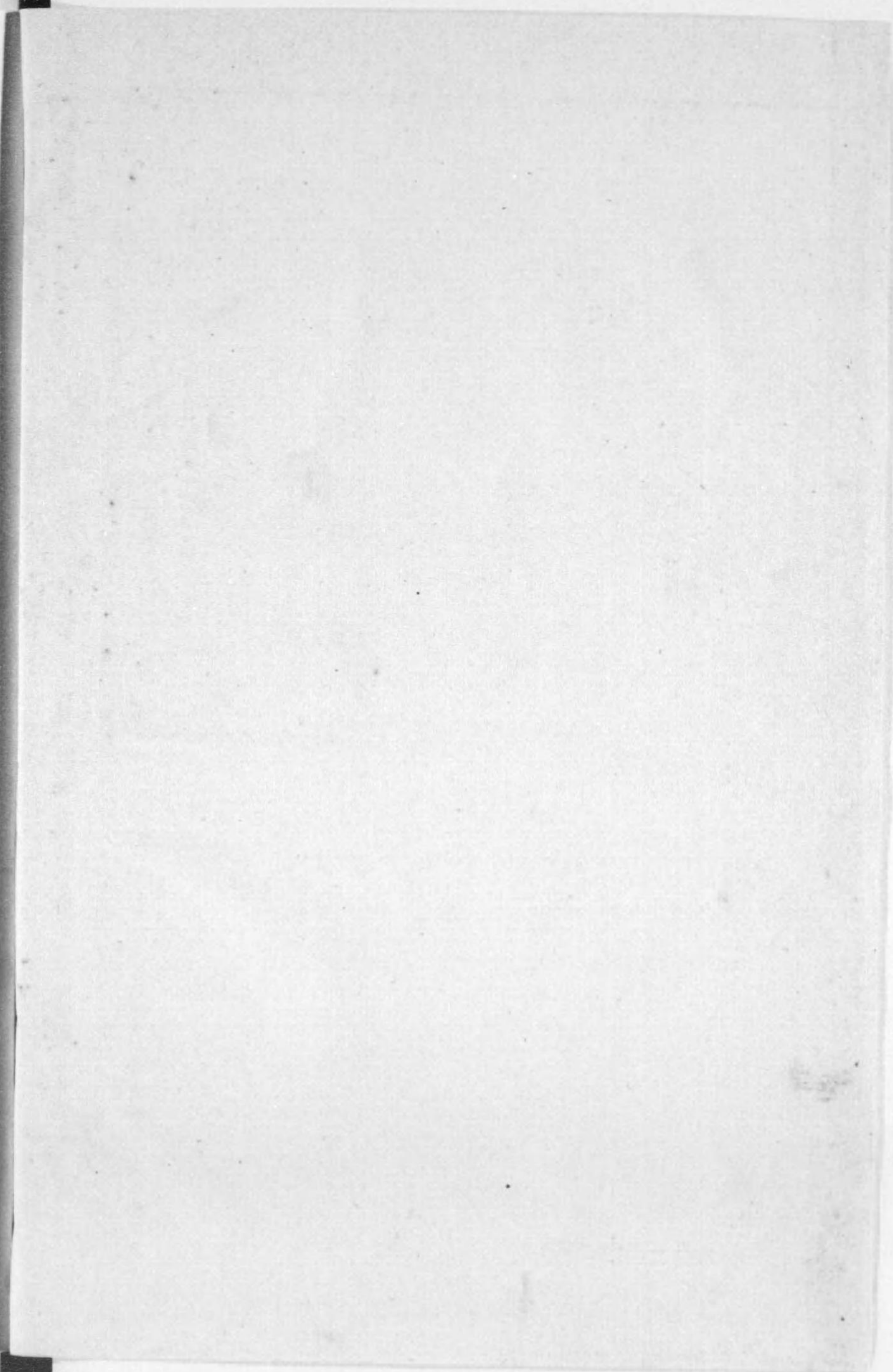
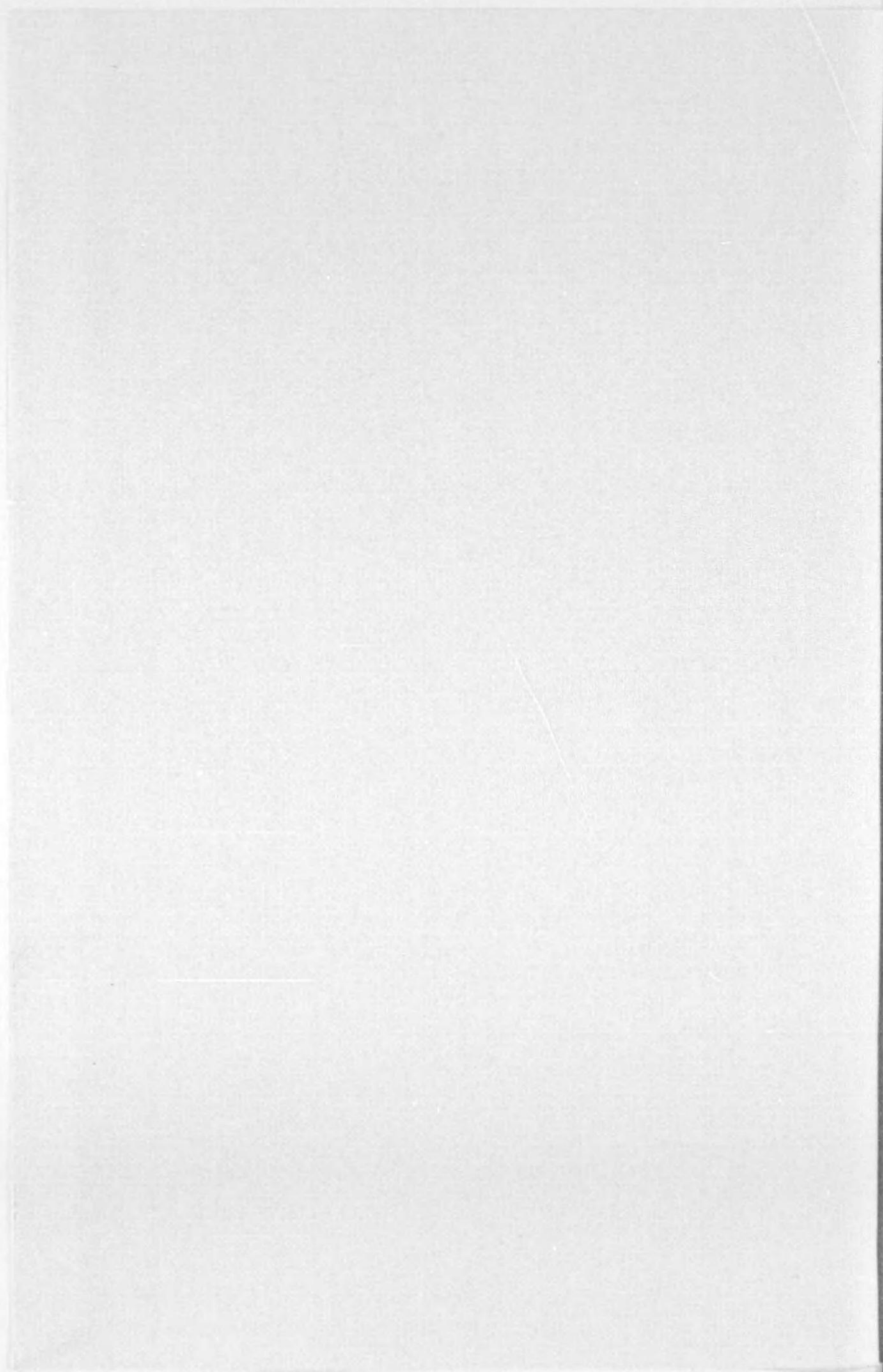
(五) 勞働夫ハ露國人ヲ使用スルコト

(六) 露國ノ殖民政策ニ伴ヒ西伯利移民ノ輸送等ニ援助スルコト

白令海峽ヨリ「カンスク」市ニ布設セントスル鐵道線路ハ未タ何人モ足跡ヲ印セサル大山脈ヲ橫斷スルモノ多クアリ即チ「スタノウイ」山脈ノ西北及東北「チユコトスキー」、「インヂギルスコ、カルイムスキー」、「ウエルホヤンスキー」、「ダハヤクタフ」、「オヒミヤコフスキー」、「バトムスキー」、「ムイスキー」、「北「アングルスキー」、「トングズスキー」等アルノミナラス「ヤリトスク」市ヨリ以西ハ「レーナ」河ノ左岸ニ沿フテ「エニセイ」河ト「レーナ」河間又「キレンスキー」ト「カンスキ」間トニ分水嶺ノ夥多屹立スルモノアリ此著名ナル山脈ノ外「トンネル」ヲ開鑿スヘキ山岳ハ枚舉ニ遑アラス「ウイチマ」河ト「オレクマ」河ノ下流ニ鐵道線ノ橫斷スルコト、爲レル部分ハ山岳一層多クシテ殆ント近ツクヘカラサルモノアリ將又河川ノ大ナルモノヲ舉クレハ「オモロン」、「カルイマ」、「インヂギルカ」、「アルダン」、「レーナ」、「アングーラ」等ナリ(「ワグ」^{「ワグ」}「ピリウスイ」等ノ如キ第是等ノ河川ハ春季融雪ノ候汎濫シテ其幅員著シク増加スルノミナラス更ニ天候ノ變更ニ依リ薄氷ニ閉サル、コトアリ又「チユコトスキー」半島及「ヤクーツスカヤ」州ノ「カルイマ」河方面ニハ湖水最モ多ク「ヤクト」人ノ言ニ據レハ天ニ於ケル星ノ如シト加之ナラス東北西伯利ハ一種ノ沼澤(「バダール」)アリ水苔ノ繁茂セル地(「ウツドラ」)アリ炭泥層ニシテ之ヲ履メハ動搖スル土地(「方言」)アリ往々數十露里ニ跨ルアリ之ニ架スル橋梁ハ頗ル長キヲ要スヘク且ツ其數幾許ナルヲ知ラス又「ヤクーツスク」市ヨリ東北地方ノ寒氣ト雪ハ年内三分ノ二ヲ占メ殊ニ吹雪屢々アリテ森羅萬象無一物ノ銀世界ト化セシム而シテ凍結セル土地ハ夏季漸ク半「アルシン」(「アルシン」)融解ス同鐵道ノ南部ニシテモ「アルシン」若クハ「アルシン」半ヲ超ヘサルヘシ而シテ鐵道竣成シ營業開始ノ後モ除雪車多數ト寒威ノ爲メ破裂ス

ル鐵軌ヲ取替ル多クノ豫備ヲ要シ其他線路ノ修復ハ他ノ地方ニ比シ一層多費ヲ要ス該鐵道ノ延長ハ「デジネフ」ヨリ「カンスク」市ニ至ル五千五百露里其經費ハ「アリヤスカ」ニ於ケル部分ヲ除キ白令海峽地下「トンネル」費(此開鑿費ハ米國人ノ計上ニ據レハ六千五百萬弗ナリ)ヲ合セ七十五億萬留ヲ要スヘシト

此大鐵道計畫ハ上記ノ如ク大困難ノ之ニ伴フモノナレトロング、デ、ロベリヲシテ云ハシメハ最近進歩ノ技術ヲ以テスレハ白令海峽地下「トンネル」ノ如キ敢テ難事トスルニ足ラスト然レトモ彼ノ例證ハ溫帶ノ地ニ於ケルモノニシテ北極ニ近キ地方ハ事情ノ大ニ異ナルモノアルヲ思ハサルヘカラス且ツ鐵道布設ニ要スル木材ハ二千五百哩外ヨリ運搬セサルヘカラスシテ而カモ其航海期ハ四ヶ月ナリ實ニ設計ニ豫期セサルモノ多ク出現スヘキハ疑ナシト雖モ其困難力如何ニ大ナランモ前記代表者ノ云フ如ク最近進歩ノ技術ト潤澤ナル資金ヲ以テ着手セハ此偉大企業ハ實行シ得ヘキモノト假定シ而シテ該鐵道ハ如何ナル貨物ナルヤヲ觀ルニ世界ノ市場ニ於ケル露米ノ競争產物ハ同種類ノモノナルカ故ニ兩國間ニ頻繁ナル貨物ノ交換アルヘキヲ思ハス殊ニ鐵道ニ據ルモノハ高價ナル貨物ヲ限ラレ其他ハ海洋ヲ航スル船舶ニ據ルモノナレハナリ左スレハ乘客如何ト云フニ是亦快速力ノ船舶ト大差ナキヲ以テ多ク希望ヲ有スヘカラス然ラハ布設ノ至難ヲ排除シ且ツ竣成ノ後收支相償ハサルニ政府ノ補助ヲ仰カス十五億萬留ヲ之ニ投セントスルハ如何ナル目的ニ在ルヤ況ンヤ該企業ハ民間「シンヂケート」ノ營利事業ナルニ於テオヤ千八百六十七年六月二十日露國カ七百二十萬弗ヲ以テ亞米利加ニ賣渡シタル「アリヤスカ」ハ千九百十年一月一日迄ニ三億四千萬留ヲ收入セシト其收入ノ主タルモノハ金ノ採取ニシテ千八千九百十九年ノ頃合金ノ豐富ヲ以テ世界ニ藏キタル「クロンダイク」發見セラレ、ヤ其評判ノ噴々タル他ニ斯ノ如キモノヲ發見セント當時ノ熱度ハ殆ント狂スルモノ、如ク隨テ對岸ノ「チユコトスキー」半島ニモ同一ノ礦物ヲ藏スヘシト着眼セル米國人算ナシ彼等ハ種々有利ノ條件ヲ具シ露國政府ニ同半島租借ノ申込ヲ爲シタルカ彼ノ著名ナル露國退職陸軍大佐ウオンリヤルリヤルスキーノ名義ノ下ニ千九百十年ヨリ十ヶ年間同半島礦物探檢ノ特許ヲ得テ米國ノ「シンヂケート」ニテ組織セラレタル東北西伯利會社ノ如キ其目的ヲ達セルモノナリ該「シビリ、アリヤスカ」鐵道ノ如キモ亦此狂



終